

授業科目名	哲学							
担当者名	吉田 正史							
科目コード	2200001	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビー シ ョ ー
				○				
授業の概要と方法	われわれはどこから来たのでしょうか。われわれはこの世で何をしようか。われわれはどこへ行くのでしょうか。要するに、われわれはいったい何なのでしょうか。この問いこそ哲学の命であると言えましょう。この核心的で本来最高の人類的関心事であるはずの問題を先哲の言葉に耳を傾けながら考えてみましょう							
授業の到達目標	・神と世界、自由と不死性といった伝統的な哲学の問題の基礎的な理解を通じて、人生を見つめる、より広くより深い精神的背景を身につけること。							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 霊魂の不滅 死後存続研究史 3. 霊魂の不滅 仏教の輪廻転生説 4. 霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ①退行催眠被験者の諸事例 5. 霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ②前世記憶保持者の諸事例 6. 霊魂の不滅 死後存続を示唆する事例の紹介 ③小泉八雲の勝五郎再生譚 7. 霊魂の不滅 死後存続は可能か—ジェイムズの脳の伝達機能説—①脳科学の基本的立場 8. 霊魂の不滅 死後存続は可能か—ジェイムズの脳の伝達機能説—②伝達説対生産説 9. 霊魂の不滅 死後存続は可能か—ジェイムズの脳の伝達機能説—③伝達説のもたらす来世観 10. 霊魂の不滅 死後存続は可能か—バルクソンの心脳関係論— 11. 神の存在 信仰とその正当性の問題 12. 神の存在 神の摂理と自由意志 13. 神の存在 愛の躍動と創造的進化 14. 恋愛 倉田百三の恋愛論 15. まとめ 							
成績評価の方法	・授業 15 回終了後に提出を求めるレポート (100%)							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・授業中に指示した参考図書を読むことが望ましい。							
使用テキスト	・教科書は使用しないが、適宜資料等を配布する。							
参考書 (参考資料等)	<p>○スティーブソン「前世を記憶する子どもたち」 笠原敏雄 訳 (日本教文社、平成 2 年)</p> <p>○その他参考図書は授業中に適宜指示する。</p>							
その他 (受講生への要望等)	・質問のある場合、メールは使わずに直接当方研究室 (1 号館 207 室) まで来られたい (研修日を除けば、基本的に午後 5 時まで研究室に在室)。							
教員 e-mail アドレス	yoshida@knwu.ac.jp							

授業科目名	心理学																																																			
担当者名	毛利 泰剛																																																			
科目コード	2000001	授業形態	講義																																																	
学 年	2	開 講 期	後期																																																	
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修	レク 必修	認定 ベビーカー																																												
				○																																																
授業の概要と方法	<p>「心理学」とは人間の心を科学的に解明する学問である。人はなぜそのような行動をしたのか、なぜそのような気持ちになったのかなど、心理学を学ぶことによって、自分や他者の気持ちを推測し、論理的あるいは客観的に理解することが可能になる。本講義では、多義にわたる心理学の分野を紹介し、社会人として必要なコミュニケーションについても学ぶ。</p>																																																			
授業の到達目標	<p>①心理学の基礎知識を学び、人間の心の仕組みを知る。 ②心理学の知識を社会生活と結びつけて考える。 ③人間関係の心理を学び、簡単なコミュニケーション技術を習得する。</p>																																																			
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1.</td><td>心理学とは何か</td><td>心理学の考え方を体験する</td></tr> <tr><td>2.</td><td>認知</td><td>知覚と思考のメカニズム</td></tr> <tr><td>3.</td><td>学習</td><td>学習と記憶の理論</td></tr> <tr><td>4.</td><td>心理学実験</td><td>心理学の実験についての紹介</td></tr> <tr><td>5.</td><td>見えるの心理</td><td>フォトランゲージ</td></tr> <tr><td>6.</td><td>コミュニケーション</td><td>対人関係論</td></tr> <tr><td>7.</td><td>パーソナリティ</td><td>パーソナリティとファッション</td></tr> <tr><td>8.</td><td>対人関係パターン</td><td>対人関係を知る</td></tr> <tr><td>9.</td><td>場の理論</td><td>いい人、モテる人、好かれる人</td></tr> <tr><td>10.</td><td>社会</td><td>身近で人に影響を与える心理</td></tr> <tr><td>11.</td><td>人間関係①</td><td>恋愛心理学</td></tr> <tr><td>12.</td><td>人間関係②</td><td>家族心理学</td></tr> <tr><td>13.</td><td>臨床①</td><td>心の病気、心理療法</td></tr> <tr><td>14.</td><td>臨床②</td><td>心理検査、臨床心理学の応用</td></tr> <tr><td>15.</td><td>まとめ</td><td>社会で生きていくということ</td></tr> </table>							1.	心理学とは何か	心理学の考え方を体験する	2.	認知	知覚と思考のメカニズム	3.	学習	学習と記憶の理論	4.	心理学実験	心理学の実験についての紹介	5.	見えるの心理	フォトランゲージ	6.	コミュニケーション	対人関係論	7.	パーソナリティ	パーソナリティとファッション	8.	対人関係パターン	対人関係を知る	9.	場の理論	いい人、モテる人、好かれる人	10.	社会	身近で人に影響を与える心理	11.	人間関係①	恋愛心理学	12.	人間関係②	家族心理学	13.	臨床①	心の病気、心理療法	14.	臨床②	心理検査、臨床心理学の応用	15.	まとめ	社会で生きていくということ
1.	心理学とは何か	心理学の考え方を体験する																																																		
2.	認知	知覚と思考のメカニズム																																																		
3.	学習	学習と記憶の理論																																																		
4.	心理学実験	心理学の実験についての紹介																																																		
5.	見えるの心理	フォトランゲージ																																																		
6.	コミュニケーション	対人関係論																																																		
7.	パーソナリティ	パーソナリティとファッション																																																		
8.	対人関係パターン	対人関係を知る																																																		
9.	場の理論	いい人、モテる人、好かれる人																																																		
10.	社会	身近で人に影響を与える心理																																																		
11.	人間関係①	恋愛心理学																																																		
12.	人間関係②	家族心理学																																																		
13.	臨床①	心の病気、心理療法																																																		
14.	臨床②	心理検査、臨床心理学の応用																																																		
15.	まとめ	社会で生きていくということ																																																		
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] レポート (40%)、授業内小テスト (30%)、授業内課題及びコメントシート (30%)</p>																																																			
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から人の話をきちんと聞くことを心掛けるようにしてください。 ・また、心理学で学んだことと自分の体験を結び付けて考えておきましょう。 ・授業内でレポート課題を出すのでそこで自分の体験を振り返ること。 																																																			
使用テキスト	使用しない																																																			
参考書 (参考資料等)	特になし																																																			
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学に興味のある人はぜひ受講してみてください。保育学科は発達心理学、教育心理学で発達及び教育分野について学ぶため、その分野以外を取り上げていきます。 ・授業内でグループワークや課題を行います。積極的に参加してください。 																																																			
教員 e-mail アドレス	yasu.m@hcc.ac.jp																																																			

授業科目名	美術							
担当者名	都留 守							
科目コード	2000002	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修	レク 必修	認定 ベビーカー
				○				
授業の概要と方法	<p>(授業の概要)「対話による美術鑑賞」と「表現活動」を一体化した授業です。『見つめる感じる考える Watch Feel Think』の活動から生まれた各自の意見を交流し合うことで、芸術作品のテーマや作者の思いに迫り、自己の価値観を高め・深め・広げる鑑賞を行います。意見の交流を通して、自己の相対比や他者理解が促されます。学習者が発見し関心をもった課題を全員で考え、共同で知識を構成していく授業です。そして、鑑賞活動を通して得た感動や学びをもとに自由に自己表現します。</p>							
授業の到達目標	<p>(目標)「美術を通して豊かな感性をもつ人間形成」を目指す授業です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作品鑑賞を通して、見つめる力・感じる力・考える力を養う。 2. 芸術作品と出会って、見つけた課題を自分の言葉で表現する力を養う。 3. 他者の意見を受け入れ、自分の見方・感じ方・考え方を高め・深め・広げる。 4. 鑑賞を通して得た感動や学びをもとに、自己表現をする力を養う。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、「トリックアート」色々な見方、感じ方、表し方に出会う。 2. 古賀春江「無題」の続き話を創作しミニ紙芝居を色鉛筆で描こう。① 3. 古賀春江「無題」の続き話を創作しミニ紙芝居を色鉛筆で描こう。② 4. マティス「ジャズ」の表現方法を手掛かりに、音楽を切り絵で表現しよう。 5. ドガ「マネとマネ夫人像」の切り取られた部分を想像してパステルで表現しよう。 6. 糸園和三郎「老婦と子ども」から「過去・現在・未来」を白黒で表現しよう。 7. 白髪一雄「切利天」から聞こえてくる音や動きを絵の具のモダンテクニックで表現しよう。 8. 田中敦子「作品」を鑑賞して、紙粘土でランプシェードをつくらう① 9. 田中敦子「作品」を鑑賞して、紙粘土でランプシェードをつくらう② 10. 海老原喜之助「靴屋」の表現の特徴から「2人の関係」をクレパスで表現しよう。 11. 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」、デビッド・ホックニー「太い線と細い線、緑の淡彩、明るい青の淡彩、暗い青の淡彩でできた水のリトグラフ」、モネ「睡蓮、柳の反映」を鑑賞し自分が感じる「水」を表現しよう 12. ピカソの「人物画」をもとに「大切な人」をクレパスで表現しよう。 13. ゴッホが「ひまわり」に込めた思いを知り、「私のひまわり」を描こう。 14. 木下晋「103年の闘争3 2003」に描かれたものを感じ取ろう。 15. デューラーが「祈りの手」に込めたハンスへの思いを感じ取ろう。 「美術」を振り返って、まとめ・評価をしよう 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間「振り返りカード」で、10項目の評価の観点を5段階で自己評価する(50%)。 ・毎時間「振り返りカード」の記述(感想など)で評価する(30%)。 ・「鑑賞を通して膨らんだイメージを表現する」活動で生まれた作品を評価する(20%)。 <p>※授業後、鑑賞した作家や作品について自主的に調べたり、展覧会に行き鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価する。</p>							
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ芸術家について、本学の図書館や北九州市立美術館などの美術館に各自で行って調べる。 ・授業中に疑問に思ったことやもっと知りたいと思ったことを各自で研究する。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「振り返りカード」を毎時間提出します。 ・「作品鑑賞カード」「作品カード」は、必要に応じて配布します。 ・「鑑賞資料」は、必要に応じて配布します。 ・「スケッチブック」は、全員に配布し、毎時間使用します。 							
参考書(参考資料等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『見つめる 感じる 考える Watch Feel Think』 =鑑賞学習資料：北九州市立美術館を活用した学習プログラム 2. 『見つめる 感じる 考える Watch Feel Think』 =平成 21-23 年度科学研究費補助金基盤研究(B) 研究課題「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」報告書 							
その他(受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業がしやすい服装で参加してください。 ・絵の具セット、小道具セット(はさみ、のり、カッター、定規など)、硬筆材(サクラクレパス 12色セット)を各自で用意すると授業に取り組みやすくなります。 							
教員 e-mail アドレス	tsuru@hcc.ac.jp							

授業科目名	国語							
担当者名	増田 夏彦							
科目コード	2000003	授業形態	講義					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
				○				
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> 言葉は、発話者の心や心遣いが表現される大切なものである。日本語の言語としての特質を知ることは、日本語を正しく効果的に使うためにも重要なことであり、日本文化への理解をより一層深めることにもなる。 日本語の基礎を見直しながら、日本語の特質を探っていく。 							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 敬語、文法、語彙、文字、表記、新しい表現、表現技巧等の基礎を見直しながら、言葉を適切に表現して物事を正確に理解する能力を養成し、言語能力や表現能力の向上を図る。また、国語を通して思考力や想像力を伸ばし、感情を豊かにすることがこの授業の目標である。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション…授業についての説明・授業計画。国語表現について。 会話表現（基礎編）…敬語の使い方について学ぶ。 会話表現（基礎編）…敬語表現について練習を重ね、実践的に学ぶ。① 会話表現（応用編）…自己紹介の仕方について学ぶ。② 会話表現（応用編）…保育の現場での話し方について学ぶ。 会話表現（応用編）…就職面接等での話し方について学ぶ。 文章表現（基礎編）…平仮名・片仮名の正しい字形について学ぶ。③ 文章表現（基礎編）…教育漢字の正しい字形について学ぶ。④ 文章表現（基礎編）…現代表記や用字用語・慣用句について学ぶ。⑤⑥ 文章表現（基礎編）…漢字の誤用や当て字について学ぶ。⑦ 文章表現（基礎編）…差別語等や記号、重複表現について学ぶ。⑧⑨ 原稿用紙の使い方…原稿用紙のルールについて学ぶ 文章表現（応用編）…文章の基本的な書き方や小論文の書き方について学ぶ。 文章表現の実践……原稿用紙を用いて、実際に文章を書く。⑩ まとめ……講義のまとめ。（○数字は、テキスト付属の演習問題の番号） 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験を行い、授業態度や提出物などを加味して、総合的に評価する。 [評価項目と割合] 定期試験（70%）、授業態度・提出物（30%）とする。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> 各回の講義にて、事後学修等について連絡をします。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「保育者になるための国語表現」田上貞一郎（萌文書林） ・その他にプリントを配布します。※各自ファイルを用意すること。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で、適宜紹介していきます。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく社会人になって損をしない、恥をかかない国語力だけは身に付けてください。 ・<u>テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者（なくした者を含む）には単位を出せません。</u> 							
教員 e-mail アドレス	講義の前後 10 分間は、2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。							

授業科目名	文学							
担当者名	増田 夏彦							
科目コード	2000004	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビシッター
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> 文学史と有名作品の冒頭および内容から、日本文学を概観する。また、詩歌などの鑑賞も行う。 							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本文学の概要を、文学史や有名作品から知る。 詩歌などを鑑賞できる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション……授業の説明・計画、日本文学史の時代区分と分類 上代の文学……文学史と作品 中古の文学……文学史と作品（韻文学） 中古の文学……文学史と作品（散文学） 中世の文学……文学史と作品 近世の文学……文学史と作品（散文学） 近世の文学……文学史と作品（韻文学・劇文学） 近代の文学……文学史と作品 現代の文学……文学史と作品 詩歌……詩集・歌集など 外国の文学……作家と作品 日本文学冒頭文……古文・現代文 詩歌……和歌・短歌の鑑賞 詩歌……俳諧・俳句の鑑賞 まとめ……講義のまとめ 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験を行い、授業態度や提出物などを加味して、総合的に評価する。 [評価項目と割合] 定期試験（70%）、授業態度・提出物（30%）とする。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> 講義に出てきた作品は、図書館で探して手に取ってみること。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「新版二訂 必携国語」（第一学習社） ・その他にプリントを配布します。※各自ファイルを用意すること。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で、適宜紹介していきます。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文学の歴史を学ぶことにより、一般常識と精神的な豊かさを身に付けてください。また、講義の中で興味のわいた作品は、是非とも通読してみてください。 ・<u>テキストは必ず購入してください。数回終了後、テキストを持っていない者（なくした者を含む）には単位を出せません。</u> 							
教員 e-mail アドレス	授業の前後 10 分間は、2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。							

授業科目名	日本国憲法							
担当者名	狭間 直樹							
科目コード	2000005	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビシッター
				○	○			
授業の概要と方法	<p>私たちは日本というひとつの国をつくり、様々なルール、すなわち法律を決めて日々暮らしている。一人ひとりの自由や平等、国を運営していくしくみを定めた法律が日本国憲法である。この授業では、なるべく身近な話題から、憲法のもつ意味や、憲法をめぐる様々な議論を考えていこう。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権や政治に関する用語を適切に理解する。 2. 人権や政治に関する新聞記事やニュース番組に関心をもつ。 3. 人権や政治に関する様々な議論について、自身の考えを深める。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の尊重 2. 日本国憲法の構成 3. 自由権①表現の自由 4. 自由権②表現の自由とプライバシー 5. 自由権③信教の自由 6. 自由権④信教の自由、政教分離原則 7. 自由権⑤人身の自由 8. 自由権⑥人身の自由、冤罪 9. 裁判所のしくみ 10. 生存権 11. 生存権、社会保障制度、生活保護 12. 統治のしくみ①平和主義 13. 統治のしくみ②国会 14. 統治のしくみ③内閣 15. 統治のしくみ④地方自治 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験の成績（筆記試験、100点満点）で評価する。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各回の講義にて、事後学修等について連絡をする。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中に資料を配付する。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて講義中に紹介する。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中の私語には厳しく注意する。 							
教員 e-mail アドレス	hazama@kitakyu-u.ac.jp							

授業科目名	社会学							
担当者名	栗林 精司							
科目コード	2000006	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
				○				
授業の概要と方法	現代社会の多様な側面を考え、自分の「立ち位置」を知り、生き方を考える。テーマごとに「現実」のデータ事例に基づいて理解していく。講義・板書を中心に授業する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の社会が歴史的にどう形成されてきたのか、その推移を知る。 2. 将来どうなるか考え、自分が進む方向の一助になる知識を身につける。 3. 現在の社会の問題について一定の理解をもつ。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー社会学について 何が対象か 2. 社会階層 歴史的な社会階層の変遷、階層行動、自分ほどの階層か 3. 人口論 (1) 少子高齢化とは その現状 4. " (2) 少子化の推移、原因を考える (未婚、晩婚) 5. " (3) 高齢化の推移、原因 (寿命など) 6. " (4) 少子高齢化の問題、世代間アンバランス、解決策は 7. 学校から職業人へー高等教育機関への進学率アップ、雇用問題 8. 流行を考える ー流行語を通して 9. 豊かな社会と格差「相対」「絶対」 貧困率にみる格差、セーフティーネット 10. 少数者の視点 (1) 障害者ー弱者からみると社会の本質がうかがえる 11. " (2) 在日外国人ーボーダレス化、国際化が進む日本社会 12. 成人とは ー成人年齢の考え方、少年法、民法、参政権について 13. ジェンダー ー女性の生き方、性差別など 14. 親密性のワナー個人化、孤立化する中で「スマホ」など過剰に親密さを求める姿は… 15. 幸福・希望についてー生きていくうえでの幸福、その尺度。生きる力を強くするには。 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・重要テーマの講義後に小レポート。 期末に課題レポート。 [評価項目と割合] 期末 (80%)、小レポートは加点方式で (20%)							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義後に課された「重要傾向」についてレポートする。 ・次回テーマを伝えるので、自分にとっての課題を考える。 							
使用テキスト	使用しない <ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜資料を配布する。 							
参考書 (参考資料等)	○「少子化白書」「労働白書」日々の新聞記事など							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週配布するレジュメ資料に内容を肉付けすること。 ・社会の旬の話題 (ニュース) に関心を持つこと。 							
教員 e-mail アドレス	講義終了後 10 分間は 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。							

授業科目名	文化史							
担当者名	恒遠 俊輔							
科目コード	2000007	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修 選択	レク 必修	認定 ベビーカー
				○				
授業の概要と方法	<p>日々の暮らしの中のごく身近な文化にスポットライトをあて、その歴史をたどる。そこには先人たちの知恵が隠されていて、しばしば現代人が直面する様々な問題を解く手がかりを与えてくれる。</p> <p>授業は、講義と板書を中心に時に映像をまじえながら進めていきたい。</p>							
授業の到達目標	<p>①ともすれば経済至上主義、科学万能主義の落とし穴にはまってしまいがちな現代にあって、我々は「自然と人間の共生」「人間のみならず、あらゆる生命を大切にする」「量重視ではなく質を大切に生活をする」等々、ライフスタイルの転換が求められている。授業がライフスタイルを見直し、発想を転換するきっかけになればよいと思う。</p> <p>②古来の日本文化の歴史をたどり、その素晴らしさを再発見してほしい。</p>							
授業計画	<p>1. 文化史を学ぶにあたって……歴史を学ぶことの意味、文化とは何か</p> <p>2. 「論語」を読む……………①孔子の生涯とその思想</p> <p>3. "……………②「論語」を読む今日的意義</p> <p>4. 森の文化考……………①国土の約 70%を占める山や森が育んだ文化</p> <p>5. "……………②エコロジーと宗教</p> <p>6. 日本の祭り……………祭りを通して、日本人にとって神とはなにかを考える</p> <p>7. 茶の文化と日本人……………①茶の歴史</p> <p>8. "……………②茶道にみる日本の文化</p> <p>9. 相撲の歴史……………①相撲の歴史をたどる</p> <p>10. "……………②相撲にみる宗教的意味（呪術性・鎮魂性）</p> <p>11. 暦について……………①暦の成り立ち、暦法の意味</p> <p>12. "……………②年中行事と暦</p> <p>13. 日本人の死生観……………①仏教の浄土信仰について</p> <p>14. "……………②死の準備教育の必要性について</p> <p>15. ま と め</p>							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度を重視し、定期試験の成績を踏まえて、総合的に評価する。 ・ 評価の比率は、授業態度（30%）、定期試験（70%）とする。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我々は様々な情報を簡単に入手できる時代を生活している。好奇心を旺盛にし、身のまわりの文化について自ら調べてみる姿勢を養ってほしい。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中に適宜資料を配布する。 							
参考書(参考資料等)	特になし							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今、平和が、人権が、環境がかつてないほどの危機にさらされている。授業で単に知識を学びとるだけでなくこれからの社会のあり方や、自分の生き方をしっかり考える学生生活を送ってほしい。 							
教員 e-mail アドレス	tuneto1225@hi2enjoy.ne.jp							

授業科目名	情報処理学							
担当者名	林 勝裕							
科目コード	2000008	授業形態	講義					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
				○	○			
授業の概要と方法	<p>本講義では、コンピュータ操作とインターネットを利用した情報処理に慣れ、日常生活や仕事の中で有効活用するための情報活用能力を身につけます。幼児教育活動での利用が予測されるアプリケーションソフトウェアの実践的活用ができるように、演習課題では教育現場に即した内容を想定しています。</p>							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> • Windows の基本操作ができ、ネットワーク端末としてのコンピュータを利用し、電子メールの基礎的使用方法、Web 検索の簡単な方法など、インターネットを使用した正しい情報の収集・加工ができる。 • Word を使用して文書整形を文章入力、文字の装飾、ページレイアウト、作表、図挿入ができる。 • Excel を使用して数値データ処理、表整形、関数の使用、グラフ作成ができる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎：コンピュータの仕組み、ハード・ソフトウェア、OS 等 2. Windows の基本操作：マウスの操作、ウィンドウの操作、日本語入力 3. インターネットの有効利用：インターネットの概要、情報の検索・加工等 4. 電子メールの仕組みと設定：電子メールの仕組みと学内でのメール利用環境設定 5. 電子メール演習：ビジネス様式の電子メール演習 6. (Word)基本操作演習 1：文章入力、文字の設定変更、描画オブジェクト、図形描写 7. (Word)基本操作演習 2：テキストボックス、特殊効果文字、クリップアート 8. (Word)課題作成 1：ペイントの基本操作、「園だより」課題作成 1 9. (Word)課題作成 2：「園だより」課題作成 2 10. (Word)課題作成・提出：「園だより」課題作成 3、 課題提出（印刷物・メール貼付・ファイル COPY） 11. (Excel)基本操作演習 1：データ入力の基礎計算式、書式の変更、 Word に Excel の表を貼り付け 12. (Excel)基本操作演習 2：オートフィル、基本的関数、罫線、グラフ等 13. (Excel)実技試験 14. (Excel)基本操作演習 3：「児童台帳」、「日々の記録の例」課題作成 15. (Excel)基本操作演習 3：「児童台帳」、「日々の記録の例」課題（ファイル）提出 							
成績評価の方法	<p>・定期試験（筆記）と、Word・Excel の各課題提出物及び実技試験の完成度の結果に、授業態度を加味して総合的に評価します。 [評価項目と割合] 授業態度（10%）、小テスト（10%）、定期試験（40%） その他：[Word・Excel の各課題提出物、Excel の実技試験]（40%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・基礎から応用まで幅広い内容となっていますので、毎回の講義の復習は必須です。</p>							
使用テキスト	○「情報処理入門 Windows 7 版 - Office2013 対応 -」（システムテクニカルサービス（株））							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	<p>・授業の後半になると課題作成が多くなりますので、提出期限に遅れないようにすること。</p>							
教員 e-mail アドレス	kat-hayashi@healthcare-m.ac.jp							

授業科目名	人間科学							
担当者名	塩田 光重							
科目コード	2000009	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修 選 択	レク 必 修	認 定 ベビシッター
授業の概要と方法	「人とは何か」という問題に科学的に取り組んでみよう。我々のなじみ深い自然科学が人間以外の物質・エネルギー・生物の科学、そして社会科学が人間社会の科学、人文科学が人間の文化の科学であるのに対し、人間科学は複雑極まりない人間そのものを対象とする科学である。人間の幸福とは何かについても考える。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の働きを理解する。 2. 脳の働きを理解する。 3. 幸福の意味を考える。 4. 人類移動の歴史を理解する。 5. 生物進化の歴史を理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間科学とはなにか 2. 分子生物学の幕開け 3. 人間の二つの情報世界 4. 出アフリカ 遍歴 20 万年 5. 脳はいかに進化したか 6. 脳の基本構造、脳内物質 7. 男と女 8. グローバルな世界 9. 「国家の品格（藤原正彦）」を読む 10. 「銃・病原菌・鉄（ジャレド・ダイヤモンド）」を読む 11. 脳の報酬系 12. 「幸福」を考える 13. 免疫 38 億年の物語 14. iPS 細胞 15. 動的平衡 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・受講姿勢、レポートの成績を総合して評価する。 [評価項目と割合] 授業参加態度 (50%) レポート (50%)							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、参考資料を紹介しますので、予習して頂きたい。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・随時資料を配布する。 							
参考書 (参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ○「養老孟司の人間科学講義」養老孟司 (筑摩書房) ○「国家の品格」 藤原正彦 (新潮新書) ○「銃・病原菌・鉄」 ジャレド・ダイヤモンド (草思社) 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に社会で起き、報道される人間の諸行動についても、何故かと考えて見よう。 							
教員 e-mail アドレス	mitprinshiota@gmail.com							

授業科目名	地球と生命																																																			
担当者名	高井 真夫																																																			
科目コード	2200003	授業形態	講義																																																	
学 年	1	開 講 期	前期																																																	
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー																																												
				○																																																
授業の概要と方法	この十数年間の科学の進歩は著しく、そのお陰で我々の生活も豊かなものとなってきた。しかし、その反面、地球環境問題などの新たな課題も発生し、このままでは近い将来、地球の自然環境は悪化し、人類のみならずあらゆる生物が存亡の危機にさらされてしまうのではないかと心配されている。そこでこの授業では、我々人類にとってかけがえのないこの地球について、現在の姿と過去の歴史、生命の誕生と進化、環境問題などのテーマを柱に、幅広い自然科学の常識をわかりやすく解説し、地球の環境を保護し、維持することの重要性、命の大切さについて理解を深める。併せて、自然界に対する総合的(科学的)な見方、考え方の全体像を学ぶ。																																																			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 地球の環境を保護し、維持することの重要性、及び命の大切さについて自主的に考える能力を身につける。 自然科学の考え方、方法を理解し、保育者を目指す学生として知っておいて欲しい自然科学(地球惑星科学)に関するさまざまな基礎知識を習得する。 																																																			
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1.</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業内容全体の説明</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>自然科学とは</td> <td>自然科学の考え方</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>宇宙について</td> <td>宇宙の誕生と銀河系の誕生</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>太陽系について 1</td> <td>太陽系の誕生</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>太陽系について 2</td> <td>太陽系の構造と惑星</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>惑星としての地球 1</td> <td>地球誕生と地球の構造</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>惑星としての地球 2</td> <td>地球の変動と地表の変化</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>生命の起源と誕生 1</td> <td>生命の起源について</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>生命の起源と誕生 2</td> <td>生命誕生について</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>地球誕生・生命誕生</td> <td>これまでのまとめとしてビデオで紹介</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>生物の進化</td> <td>生物の進化、進化論、生物の分類</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>生物としてみたヒト</td> <td>ヒトを構成する生元素及び物質について</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>地球環境問題とヒト 1</td> <td>地球環境問題の紹介、解説</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>地球環境問題とヒト 2</td> <td>地球環境問題が人類(生物)へ及ぼす影響を考える</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table>							1.	オリエンテーション	授業内容全体の説明	2.	自然科学とは	自然科学の考え方	3.	宇宙について	宇宙の誕生と銀河系の誕生	4.	太陽系について 1	太陽系の誕生	5.	太陽系について 2	太陽系の構造と惑星	6.	惑星としての地球 1	地球誕生と地球の構造	7.	惑星としての地球 2	地球の変動と地表の変化	8.	生命の起源と誕生 1	生命の起源について	9.	生命の起源と誕生 2	生命誕生について	10.	地球誕生・生命誕生	これまでのまとめとしてビデオで紹介	11.	生物の進化	生物の進化、進化論、生物の分類	12.	生物としてみたヒト	ヒトを構成する生元素及び物質について	13.	地球環境問題とヒト 1	地球環境問題の紹介、解説	14.	地球環境問題とヒト 2	地球環境問題が人類(生物)へ及ぼす影響を考える	15.	まとめ	
1.	オリエンテーション	授業内容全体の説明																																																		
2.	自然科学とは	自然科学の考え方																																																		
3.	宇宙について	宇宙の誕生と銀河系の誕生																																																		
4.	太陽系について 1	太陽系の誕生																																																		
5.	太陽系について 2	太陽系の構造と惑星																																																		
6.	惑星としての地球 1	地球誕生と地球の構造																																																		
7.	惑星としての地球 2	地球の変動と地表の変化																																																		
8.	生命の起源と誕生 1	生命の起源について																																																		
9.	生命の起源と誕生 2	生命誕生について																																																		
10.	地球誕生・生命誕生	これまでのまとめとしてビデオで紹介																																																		
11.	生物の進化	生物の進化、進化論、生物の分類																																																		
12.	生物としてみたヒト	ヒトを構成する生元素及び物質について																																																		
13.	地球環境問題とヒト 1	地球環境問題の紹介、解説																																																		
14.	地球環境問題とヒト 2	地球環境問題が人類(生物)へ及ぼす影響を考える																																																		
15.	まとめ																																																			
成績評価の方法	・授業への取組み姿勢(20%)、定期試験成績(80%)で評価する。																																																			
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・日頃から自然科学に関するテレビ番組、新聞記事、科学雑誌などには興味を示しておいて欲しい。																																																			
使用テキスト	・テキストは特に使用しないが、事前に予習できるように講義中に適宜、プリントを配布する。																																																			
参考書(参考資料等)	特になし																																																			
その他 (受講生への要望等)	・保育者を目指す学生として知っておいて欲しい自然科学に関する基礎的な事項をできる限りやさしく解説するが、段階的に授業を進めるため、欠席すると不利になるので注意すること。																																																			
教員 e-mail アドレス	takai@hcc.ac.jp																																																			

授業科目名	国際理解								
担当者名	竹並 正宏								
科目コード	2000010	授業形態	※講義と研修						
学 年	1	開 講 期	前期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択必修	選択	教免必修	保育士 必修 選択	レク 必修	認定 ベビーカー
					○				
授業の概要と方法	<p>本学は、平成 13 年に韓国・釜山女子大学と姉妹校締結をした。教育目標として、学生達のより積極的な国際意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで国際的感覚を持った人材を育成することをテーマに、釜山女子大学は建学の理念である現代の韓国社会の要請に応ずる人材の育成と徳性教育により、創意、誠実、礼節をそなえた明るく礼儀正しい人材を育て上げる教育に重点を置いた大学である。日韓の文化を相互に理解し、韓国語をトータルに学び、いかに実践的に活用できるかを目的とする。</p>								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生達のより積極的な参加意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで、国際的感覚を持った人材に成長しようとする姿勢が身に付いている。 2. 日本と韓国との文化を相互に理解して、また韓国語をトータルに学び、その学んだことをいかに実践的に活用できる姿勢が身に付いている。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・国際交流の目的について 2. マナーについて・・・目上に対する挨拶の仕方（会話）・挨拶の仕方 3. 韓国の教育について・・・学歴社会の特徴（会話）・挨拶の仕方 4. 韓国の食生活について・・・韓国料理と食文（会話）・数の数え方① 5. 韓国の自然について・・・各都市の把握とオンドル（会話）・数の数え方② 6. 韓国の交通について・・・地下鉄やタクシーの乗り方（会話）買い物での会話① 7. 韓国の姓氏について・・・父系の血統（会話）・・・買い物での会話② 8. 韓国の家屋について・・・建築と町並み（会話）・・・買い物での会話③ 9. 韓国の年中行事について・・・年間の風習（会話）・・・時間と曜日① 10. 韓国の経済について・・・同族的経営（会話）・・・時間と曜日② 11. 韓流スターについて・・・日本における韓流（会話）・・・ホテルでの会話① 12. 日韓の歴史について・・・韓国人の対日観①（会話）・・・ホテルでの会話② 13. 日韓の文化交流について・・・韓国人の対日観②（会話）・・・場面別会話① 14. 渡航手続きについて・・・最終日程の説明指導（会話）・・・場面別会話② 15. 結団式 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は実施しない。 担当教員が、事前学習の受講態度、研修中の状況及び研修終了後の報告書(レポート)を総合的に評価する。 [評価項目と割合] 授業態度 (20%)、研修中の態度(20%)、報告書 (60%) 								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際化の取り組みの中で、海外で日本人としての自覚に基づき目的や状況に応じた適切な言動をとることが重要であることを認識して臨む。 								
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布（テレビでハングル講座） 								
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「韓国入門」山本剛士（三省堂選書） ・テレビでハングル講座などの視聴覚を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生達のより積極的な参加意識と外国の教育現場における国際的交流感覚の高揚というねらいで、国際的感覚を持った人材に成長しようとする姿勢が身に付くように世界で起きている諸問題に目を向けて授業に臨んでほしい。 								
教員 e-mail アドレス	takenami@knwu.ac.jp								

授業科目名	英語 I							
担当者名	川下 剛 ・ 高野 裕子							
科目コード	2000017	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビ－シッター
			○		○	○		
授業の概要と方法	この授業では、“Hello, English”をテキストとして、幼稚園や保育所で必要とされる英語の運用方法を学習する。副教材として、英語の童謡『マザーグース』、英語のアニメ『リトル・チャロ』を見ていくことで、英語に対する苦手意識をなくし、保育に有用な見識を広げていく。授業ではまず『マザーグース』で英語の発音やリズムを説明し、音読する。次に、“Hello, English”で保育の現場に必要な英語を学習し、最後に DVD『リトル・チャロ』を見ていく。							
授業の到達目標	① 初級者レベルの英語に慣れる。 ② 『マザーグース』の朗読や歌を英語で聞いて、理解ができる。 ③ Nursery Rhymes を自然な英語のリズムで口ずさむことができる。 ④ 保育に必要な英語が理解できる。 ⑤ 英語音声の DVD を見て、英語を聞き取ることができる。							
授業計画	1. オリエンテーション 2. ALT's First Visit to Minami Elementary School ① 3. ALT's First Visit to Minami Elementary School ② 4. Getting to Know Each Other ① 5. Getting to Know Each Other ② 6. School Lunch ① 7. School Lunch ② 8. 前半のまとめ 9. Play Time ① 10. Play Time ② 11. The First English Class ① 12. The First English Class ② 13. Teaching Numbers 1 ① 14. Teaching Numbers 1 ② 15. 後半のまとめ							
成績評価の方法	・授業中に行う小テストと定期試験を行い、総合的に評価する。 ・評価の比率は、授業への取組み姿勢(20%)、小テスト(30%)、定期試験(50%)とする。							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・スムーズに授業が進むよう授業計画に従って予習をしておくこと。 ・授業で説明された解説は次回までにまとめて、理解しておくこと。							
使用テキスト	○「Hello, English」 相羽千洲子 他 (成美堂 2016年)							
参考書 (参考資料等)	○『「マザーグース」でつくる英語の耳と口』藤田英時 (宝島社 2009年)							
その他 (受講生への要望等)	・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参すること。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ること。							
教員 e-mail アドレス	kawashita@knwu.ac.jp							

授業科目名	英語 II							
担当者名	川下 剛 ・ 高野 裕子							
科目コード	2000018	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
			○		○	○		
授業の概要と方法	この授業では、前期に引き続き、“Hello, English”をテキストとして、幼稚園や保育所で必要とされる英語の運用方法を学習する。副教材として、英語の童謡『マザーグース』、英語のアニメ『リトル・チャロ』を見ていくことで、英語に対する苦手意識をなくし、保育に有用な見識を広げていく。							
授業の到達目標	① 初級者レベルの英語に慣れる。 ② 『マザーグース』の朗読や歌を英語で聞いて、理解ができる。 ③ Nursery Rhymes を自然な英語のリズムで口ずさむことができる。 ④ 保育に必要な英語が理解できる。 ⑤ 英語音声の DVD を見て、英語を聞き取ることができる。							
授業計画	1. オリエンテーション 2. Teaching Numbers 2 ① 3. Teaching Numbers 2 ② 4. Reflection ① 5. Reflection ② 6. Activities at a Kindergarten ① 7. Activities at a Kindergarten ② 8. 前半のまとめ 9. Introducing Japanese Culture ① 10. Introducing Japanese Culture ② 11. Evacuation Drills ① 12. Evacuation Drills ② 13. Graduation ① 14. Graduation ② 15. 後半のまとめ							
成績評価の方法	・授業中に行う小テストと定期試験を行い、総合的に評価する。 ・評価の比率は、授業への取組み姿勢 (20%)、小テスト (30%)、定期試験 (50%) とする。							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・スムーズに授業が進むよう授業計画に従って予習しておくこと。 ・授業で説明された解説は次回までにまとめて、理解しておくこと。							
使用テキスト	○「Hello, English」 相羽千洲子 他 (成美堂 2016年)							
参考書 (参考資料等)	○『「マザーグース」でつくる英語の耳と口』藤田英時 (宝島社 2009年)							
その他 (受講生への要望等)	・辞書は紙辞書でも電子辞書でもいいので必ず持参すること。 ・携帯電話やスマートフォンの電源は授業前に必ず切ること。							
教員 e-mail アドレス	kawashita@knwu.ac.jp							

授業科目名	スポーツ健康科学 I							
担当者名	石原 勇次郎							
科目コード	2000019	授業形態	講義・実技					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修 ○	保 育 士 必修 ○	レク 必修	認定 ベビージャー ○
授業の概要と方法	講義においては、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。特に「スポーツ健康科学I」では自身の身体の状態を把握・理解することに注力する。また、実技においては、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標とし、自らが主体的な姿勢で取り組み、各種スポーツのルールの実践と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解する。本科目を通して保育者として必要な資質能力を講義と実践を通して高める。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 自身の身体の状態を把握・理解する。 健康の維持・増進の為の知識を得る。 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。 スポーツのルールを理解した上で、自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。 保育者として必要な使命感や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解を高めることができる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 実技 オリエンテーションおよび学内レクスポ大会に向けた練習① 実技 学内レクスポ大会に向けた練習② 実技 体力測定（成人期を前にした身体状態の把握） 講義 心身の機能の発達（身体状態の把握と健康の維持）【小レポート①】 実技 ニュースポーツ①（ドッチビーにおけるルールと基本テクニックの理解と習得） 実技 ニュースポーツ②（試合） 実技 フットサル①（ルールと基本テクニックの理解・習得） 実技 フットサル②（基礎練習と試合） 実技 フットサル③（試合） 講義 運動やスポーツの魅力（必要性和楽しさの仕組み）【小レポート②】 実技 バドミントン①（ルールと基本テクニックの理解・習得） 実技 バドミントン②（ルールと基本テクニックの理解・習得、ダブルス試合） 実技 バドミントン③（基本テクニックの理解・習得、ダブルス試合） 実技 バドミントン④（ルールの理解とシングルス試合） 講義 スポーツの文化的側面（文化としてのスポーツへの理解と前期のまとめ）【小レポート③】 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業態度（40%）、講義毎の小レポート（20%）、理解度確認小テスト（20%）ゲーム結果（20%） ※授業態度評価については、授業後に記入する自己評価表と教員による評価を合わせたものとする。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・前期最後の講義にて小テストを実施するので、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。 ・新聞等を読み、日頃からスポーツ、健康に関する情報を収集するよう努めること。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜、資料を配布する。 							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	<ol style="list-style-type: none"> ①講義を行う際は前週までに掲示をするので、各自確認を行い、指定された講義室に筆記用具を持って集合すること。毎回の授業では資料を配布し記述をしてもらいます。授業の終わりに感想や意見を記述する小レポートを課します。また、前期まとめの際に、配布資料をもとにした穴埋め形式での理解度確認小テストを実施するので、各自資料の管理を行い受講すること。 ②実技は基本的に第一体育館で実施しますが、場所の変更が生じる際は前週に告知をします。実技の際はピアス、アクセサリ等はずして集合し、運動に適した服装と運動靴（体育館では指定されたシューズ）を着用すること。尚、体調不良により実技に参加できない場合は速やかに担当教員に申し出ること。 							
教員 e-mail アドレス	ishiharay@hcc.ac.jp							

授業科目名	スポーツ健康科学 II							
担当者名	石原 勇次郎							
科目コード	2000020	授業形態	講義・実技					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修 ○	保 育 士 必修 ○	レク 必修	認定 ベビージャー
授業の概要と方法	<p>「スポーツ健康科学II」では、原則的に「スポーツ健康科学I」を習得してから履修するものとする。講義においては、スポーツ健康科学Iに引き続き、健康の維持・増進や生活習慣病の予防、精神の安定（ストレスマネジメント）、文化としてのスポーツの意味合い等を理解し、多角的にスポーツを捉えることで、健康的な生活をおくる為の知識を習得する。また、実技では、講義にて得られた知識をもとに、生涯にわたり継続可能なスポーツ種目に親しむことのできる能力獲得を目標にし、各種スポーツのルールを理解と実践、身体を動かす楽しさや重要性を理解し、自らが主体的な姿勢で実践する。本科目を通して、保育者として必要な資質能力を講義と実践を通して高める。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の維持・増進の為の知識を得る。 2. 様々な角度からスポーツを捉え、文化としてのスポーツの意味を理解する。 3. スポーツのルールを理解した上で、自ら進んで行動し、主体的な姿勢と態度で取り組むことができる。 4. 運動の楽しさを知り、運動を習慣化できる。 5. 保育者として必要な使命感や責任感、社会性や対人関係能力、幼児理解を高めることができる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義 運動やスポーツの効果と安全（心身への影響）【小レポート①】 2. 実技 バレーボール・ソフトバレーボール①（ルールと基本テクニックの理解・習得） 3. 実技 バレーボール・ソフトバレーボール②（基礎練習と試合） 4. 実技 バレーボール・ソフトバレーボール③（応用練習と試合） 5. 実技 バレーボール・ソフトバレーボール④（試合） 6. 講義 障害の防止（応急手当の基本）【小レポート②】 7. 実技 バasketボール①（ルールと基本テクニックの理解・習得） 8. 実技 バasketボール②（基礎練習と試合） 9. 実技 バasketボール③（応用練習と試合） 10. 実技 バasketボール④（試合） 11. 実技 選択種目①（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択） 12. 実技 選択種目②（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択） 13. 実技 選択種目③（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択） 14. 講義 後期のまとめ【小テスト】 15. 実技 選択種目④（スポーツ健康科学I・IIを通して経験した種目からクラスで選択） 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] 授業態度（40%）、講義毎の小レポート（20%）、理解度確認小テスト（20%）、ゲーム結果（20%） ※授業態度評価については、授業後に記入する自己評価表と教員による評価を合わせたものとする。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・後期最後の講義にて小テストを実施するので、講義で配られた資料を各自まとめておくこと。 ・新聞等を読み、日頃からスポーツ、健康に関する情報を収集するよう努めること。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜、資料を配布する。 							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	<ol style="list-style-type: none"> ①講義を行う際は前週までに掲示をするので、各自確認を行い、指定された講義室に筆記用具を持って集合すること。毎回の授業では資料を配布し記述をしてもらいます。授業の終わりに感想や意見を記述する小レポートを課します。また、後期まとめの際に、配布資料をもとにした穴埋め形式での理解度確認小テストを実施するので、各自資料の管理を行い受講すること。 ②実技は基本的に第一体育館で実施しますが、場所の変更が生じる際は前週に告知をします。実技の際はピアス、アクセサリ等はずして集合し、運動に適した服装と運動靴（体育館では指定されたシューズ）を着用すること。尚、体調不良により実技に参加できない場合は速やかに担当教員に申し出ること。 							
教員 e-mail アドレス	ishiharay@hcc.ac.jp							

授業科目名	音楽 I							
担当者名	瓦林 他							
科目コード	2200060	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修	レク 必修	認定 ベビージャー
授業の概要と方法	<p>養成校として基本的な「基礎技能」とは、教科として関連のある「保育の内容・方法の理解」に基づく科目である。「音楽 I」では、授業構成として①ピアノ基礎技術②理論（前期）③声楽（前期）から構成されている。授業の展開として2コマで設定され、前半90分がピアノ基礎技術の個人指導。後半90分の音楽と声楽では、保育者に必要な部分の基礎的知識を楽譜に書きながら学びます。また、リズムにおいては身体で取ることによって基礎的なリズムを学ぶ。声楽では、園児と一緒に歌えるよう第一に考え、身体表現を使い、基礎から学びます。そこで「音楽 I」では、子どもとの直接的な関わりの中で主体化された内容の教材であり、保育を展開する上での基礎的な方法や技術、その為に必要な教具・教材等に関する知識や技能、保育の環境構成や援助のあり方等、現場における音楽に関する基礎的な指導方法を身につければならない。</p>							
授業の到達目標	<p>①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づき保育現場で生かすために、「音楽 I」では音楽的基礎技術を身につけると共に音楽的能力と表現力並びに音楽的感性を高めることができる。 ②保育者として子どもの発達段階に応じた音楽表現を声楽の歌と一緒に身体表現（ボディパーカッション）を含め身体で感じ、基礎的なリズムが取れるようになることを目標とする。また、基礎知識と技術を修得することを目標とし、保育現場において保育者としての使命感、責任、愛情を持って支援できる能力を身に付けることができる。</p>							
授業計画	<p>ピアノの受講目的と心構え並びにグレード表の説明。学生のピアノ進捗状況確認。</p> <ol style="list-style-type: none"> 音楽理論（ピアノ教本についての音符、テンポ、リズム、表情記号等について指導） 声楽1（現場において活躍できるだけの発声能力を身に付けさせる） ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」（本学独自の履修表）Iによる個人指導。音楽理論・声楽2 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽3 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽4 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽5 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽6 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽7 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽8 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽9 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽10 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽11 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽12 ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論・声楽13（まとめ） ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。音楽理論（まとめ） ピアノの基礎技術を学ぶ 「STEP BY STEP」ステップIを中心に1番～49番の修得を目指す。声楽（小テスト） 							
成績評価の方法	<p>・日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。 [評価項目と割合] 授業への取組み姿勢（30%）、定期試験（70%）</p>							
授業外で行うべき学修 （準備学修・事後学修等）	<p>・ピアノ授業ではマンツーマンによる個人指導を行う。 ・音楽理論では「レッツプレイザバイエル・ピアノマーチ・こどものうた 200」の教材における音符、テンポ、リズム、表情記号等楽譜に関する基礎的な理論を学ばせる。 ・声楽では現場で活躍できるだけの表情豊かな発声能力を身に付けさせる。 ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。</p>							
使用テキスト	○「レッツプレイザバイエル」及び進捗状況に応じて「最新マーチアルバム」「こどものうた 200」を使用。							
参考書（参考資料等）	・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。							
その他 （受講生への要望等）	※ピアノ授業・音楽理論・声楽ではスーツ・革靴・パンプスを着用すること。							
教員 e-mail アドレス	授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室（瓦林）・413 室（北嶋）にて質問・応答を受ける。							

授業科目名	音楽 II							
担当者名	瓦林 他							
科目コード	2200061	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必 修	教 免 必 修 ○	保 育 士 必 修 選 択 ○	レク 必 修	認 定 ベビィンナー
授業の概要と方法	<p>養成校として基本的な「基礎技能」とは、教科として関連のある「保育の内容・方法の理解」に基づく科目である。「音楽II」では、ピアノの基礎技術とレベル向上に向けて指導を行う。授業の展開として、90分でピアノ基礎技術向上に向けて個人指導を行う。そこで「音楽II」では、子どもとの直接的な関わりの中で主体化された内容の教材であり、保育を展開する上での基礎的な方法や技術、保育の環境構成や援助のあり方等、現場における音楽に関する基礎及び応用的な指導方法を身につけることを目標としている。</p>							
授業の到達目標	<p>①幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づき保育現場で生かすために、「音楽II」では音楽的基礎技術を身につけると共に音楽の能力と表現力並びに音楽の感性を高めることができる。さらに、高度なピアノ技術習得に向けて総合的に学習することができる。</p> <p>②保育者として子どもの発達段階に応じた音楽表現に関する基礎的な知識と技術を修得することを目標とし、保育現場において保育者としての使命感、責任、愛情を持って支援できる能力を身に付けることができる。</p> <p>③「音楽II」を修了していない学生は引き続き、2年生次においても履修することになる。従って「音楽III」及び「音楽IV」は履修することはできない。</p>							
授業計画	<p>1. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>2. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>3. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>4. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>5. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>6. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>7. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>8. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>9. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>10. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>11. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>12. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>13. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>14. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p> <p>15. ピアノの基礎技術を学ぶ 進度に応じて「STEP BY STEP」のステップIIを中心に51番～73番の修得を目指す。</p>							
成績評価の方法	<p>・日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。 [評価項目と割合] 授業への取組み姿勢 (30%)、定期試験 (70%)</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・ピアノ授業ではマンツーマンによる個人指導を行う。</p> <p>・ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。</p>							
使用テキスト	<p>○「レッツプレイ ザ バイエル」及び進度状況に応じて「最新マーチアルバム」「こどものうた 200」を使用。</p>							
参考書 (参考資料等)	<p>・講義の進度に応じて、適宜紹介をします。</p>							
その他 (受講生への要望等)	<p>※ピアノ授業・音楽理論・声楽ではスーツ・革靴・パンプスを着用すること。</p>							
教員 e-mail アドレス	<p>授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室 (瓦林)・413 室 (北嶋) にて質問・応答を受ける。</p>							

授業科目名	音楽 III							
担当者名	瓦林 他							
科目コード	2200062	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	<p>「音楽Ⅲ」では、授業内容として①幼児唱歌②マーチ③自由曲（ブルグミュラー等）で構成され 90 分で実施している。但し、この教科は幼稚園教諭免許・保育士資格に必要な単位の選択科目として本学では設定している。また、幼稚園教諭・保育士として現場において音楽的表現活動がスムーズに行われるよう、その能力を高めることを目標としている教科である。本学では基本的に必修選択として位置づけている。</p>							
授業の到達目標	<p>①音楽の授業を通して、幼稚園教育要領及び保育所保育指針とのつながりを重視し、「音楽Ⅲ」で身に付けた音楽的能力・表現力並びに音楽的感性を保育現場においてスムーズに行われることができる。</p> <p>②子どもに対して公平かつ受容的な態度で接することにより、自然に音楽的表現活動が可能となるようピアノ技術能力を高めることができる。</p> <p>③但し、「音楽Ⅱ」を修了していない学生は「音楽Ⅲ」を受講することはできない。</p>							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」ステップⅢを中心に一覧表によるピアノ個人指導。 2. ピアノ技術指導（応用編） 幼児唱歌を習得するための作品の音楽性、表情及び歌い方について指導する。 3. ピアノ技術指導（応用編） マーチ及び幼児唱歌については、リズム、テンポ、曲の表情について指導する。 4. ピアノ技術指導（応用編） ブルグミュラー等については、作品の要求されるテクニックについて指導する。 5. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌及びマーチの修得を目指す。 6. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 7. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 8. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 9. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 10. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 11. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 12. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 13. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 14. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 15. ピアノ技術指導（応用編） 「STEP BY STEP」のステップⅢを中心に幼児唱歌の修得を目指す。 							
成績評価の方法	<p>・ 日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。 [評価項目と割合] 授業への取組み姿勢（30%）、定期試験（70%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・ ピアノ授業ではマンツーマンによる個人指導を行う。 ・ ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。</p>							
使用テキスト	<p>○「最新マーチアルバム」中目徹 監修（音楽之友社） ○「こどものうた 200」小林美実（チャイルド社） ○「ブルグミュラー25の練習曲」ブルグミュラー（全音楽譜出版社）</p>							
参考書（参考資料等）	<p>・ 講義の進度に応じて、適宜紹介をします。</p>							
その他 (受講生への要望等)	<p>※ピアノ授業・音楽理論・声楽ではスーツ・革靴・パンプスを着用すること。</p>							
教員 e-mail アドレス	<p>授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室（瓦林）・413 室（北嶋）にて質問・応答を受ける。</p>							

授業科目名	音楽 IV								
担当者名	瓦林 他								
科目コード	2200063	授業形態	演習						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	1	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保育士 必修	選択	レク 必修	認定 ベビーカー
						○			
授業の概要と方法	<p>「音楽IV」では、授業内容として①幼児唱歌②マーチ③自由曲（ブルグミュラー等）で構成され 90 分で実施している。但し、この教科は幼稚園教諭免許・保育士資格に必要な単位の選択科目として本学では設定している。また、幼稚園教諭・保育士として現場において音楽的表現活動がスムーズに行われるよう、その能力を高めるのを目標としている教科である。本学では基本的に必修選択として位置づけている。</p>								
授業の到達目標	<p>①音楽の授業を通して、幼稚園教育要領及び保育所保育指針とのつながりを重視し、「音楽IV」で身に付けた音楽的能力・表現力並びに音楽的感性を保育現場においてスムーズに行われることができる。</p> <p>②子どもに対して公平かつ受容的な態度で接することにより、自然に音楽的表現活動が可能となるようピアノ技術能力を高めることができる。さらに、個人の音楽的技術能力によりグレードを高めることができる。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 2. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 3. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 4. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 5. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 6. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 7. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 8. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 9. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 10. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 11. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 12. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 13. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 14. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 15. ピアノ技術指導（応用編）学生の能力に応じて「STEP BY STEP」のステップIVを中心に幼児唱歌及びブルグミュラーの修得を目指す。 								
成績評価の方法	<p>・ 日常の事前、事後学習状況並びに定期試験から評価を行う。 [評価項目と割合] 授業への取組み姿勢（30%）、定期試験（70%）</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・ ピアノ授業ではマンツーマンによる個人指導を行う。</p> <p>・ ピアノ授業では毎日の練習が技術向上に結びつけることになる。従って、事前及びレッスン終了後の練習が特に必要である。</p>								
使用テキスト	<p>○「最新マーチアルバム」中目徹 監修（音楽之友社）</p> <p>○「こどものうた 200」小林美実（チャイルド社）</p> <p>○「ブルグミュラー25の練習曲」ブルグミュラー（全音楽譜出版社）</p>								
参考書（参考資料等）	<p>・ 講義の進度に応じて、適宜紹介をします。</p>								
その他 (受講生への要望等)	<p>※ピアノ授業・音楽理論・声楽ではスーツ・革靴・パンプスを着用すること。</p>								
教員 e-mail アドレス	<p>授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階 404 室（瓦林）・413 室（北嶋）にて質問・応答を受ける。</p>								

授業科目名	音楽演習（合奏）							
担当者名	藤松 純子							
科目コード	2200072	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	※通年（わらべうた半期・合奏半期）として開講					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・概要は、発表会で練習の成果の発表を行ったり、リズム遊びや小編成でのアンサンブルを体験する中で子ども又は保育現場での合奏指導について考える。 ・楽器を奏でる楽しみや、アンサンブルをする楽しみを体感し、保育者として豊かな感性を育み、表現力の向上を図ることを目標とする。 							
※履修及び成績評価について	<p>「音楽演習」は通年科目であるが、「わらべうた」を半期、「合奏」を半期として開講をする。従って、「わらべうた」15回、「合奏」15回の受講が必要となる。</p> <p>また、出席回数についても原則として「わらべうた」及び「合奏」を半期の科目として取扱う。</p>							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種楽器の扱い方や奏法、基礎的な指揮法、音によるコミュニケーションの取り方を習得する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、楽器の説明と取り扱いについて 2. 打楽器の奏法① スティックを使用して演奏する大きな楽器 3. 打楽器の奏法② スティックを使用して演奏する小さな楽器 4. 打楽器の奏法③ 鍵盤打楽器 5. アンサンブル① 譜読み、練習 6. アンサンブル② 発表 7. タンバリンを使っの隊列移動しながらの表現① 譜読み、練習 8. タンバリンを使っの隊列移動しながらの表現② 練習 9. タンバリンを使っの隊列移動しながらの表現③ 発表 10. ミュージックベルを使っの表現① 譜読み、練習 11. ミュージックベルを使っの表現② 発表 12. 発表会に向けて ①選曲と構成、練習 13. 発表会に向けて ②練習 14. 発表会のリハーサル 15. 発表会での発表 							
成績評価の方法 ※「音楽演習」のうち「合奏」の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の数回の発表、表現発表と期末テストの結果で総合的に評価する。 <p>[評価項目と割合] 期末テスト（40%）、発表（60%）とする</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で譜読みした項目について、各自で練習してから次の授業にのぞむこと。 							
使用テキスト	<p>使用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜資料を配布する。 							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	特になし							
教員 e-mail アドレス	junkofujimatsu@gmail.com							

授業科目名	図画工作							
担当者名	都留 守							
科目コード	2200010	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	通年（前期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修 ○	保育士 必修 ○	レク 必修	認定 ベビーター
授業の概要と方法	<p>「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、豊かな情操を養うことを目指して授業を行う。</p> <p>（授業の概要）1年間を通して、材料・用具・表現方法・テーマなどとの出会い、発想を広げ、構想を練り、表現の見通しを立て、表現活動を行う。作品完成後に作品鑑賞会をする。毎時間「振り返りカード」で自己評価をする。毎時間繰り返すことで、豊かな情操を養う授業を行う。前期では、クレヨン・パス、絵の具によるモダンテクニックを活用した平面での表現活動とグループでの共同制作に取り組む。</p>							
授業の到達目標	<p>（通年目標）「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、感性をはたらかせ、つくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養う。保育者として必要な「造形への意欲・関心・態度」「発想・構造の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の育成を目指す。</p> <p>（前期目標）モダンテクニックを使って偶然できた色や形から発想を膨らませて表現する力を育成すると共にその喜びを味わわせる。パネルシアターをグループで制作することにより共同制作する力を育成すると共にその喜びを味わわせる。</p>							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション（本授業の目的、目標、授業内容・計画、評価方法など） 両面カーボン紙を使って広がる模様を描こう クレヨン・パスでぼかし遊び・ステンシル遊びをしよう（共同制作） クレヨン・パスでスクラッチ遊びをしよう①下塗りをして上塗りをしよう クレヨン・パスでスクラッチ遊びをしよう②テーマを決めてスクラッチしよう クレヨン・パスでスクラッチ遊びをしよう③作品を仕上げ、鑑賞会をしよう マーブリング遊びをしよう マドレー遊びをしよう ローラー遊びをしよう マーブリング・マドレー・ローラー遊びの作品を使ってコラージュをしよう パネルシアターをつくろう（1）パネルシアター鑑賞・制作計画 パネルシアターをつくろう（2）役割分担・下書き パネルシアターをつくろう（3）絵の具（ポスターカラー）で彩色 パネルシアターをつくろう（4）彩色や接着・接合・完成 パネルシアターをつくろう（5）発表会 わたしの作品バックのデザインをしよう 前期の振り返り・自己評価 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間「<u>振り返りカード</u>」を使って、<u>10項目の評価の観点</u>をそれぞれ<u>5段階</u>で自己評価する（50%）。 ・毎時間提出する「<u>振り返りカード</u>」の<u>記述</u>から評価する（50%）。 ・授業後、鑑賞した作家や作品について<u>自主的に調べたり、展覧会に行き鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価</u>する。 							
授業外で行うべき学修 （準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだモダンテクニックなどを使って、各自で表現活動を行い、表現力を高める活動をする。 ・授業で作成したパネルシアターを、幼稚園や保育所などの実習の際に活用する。 							
使用テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 「振り返りカード」毎時間配布します。毎時間提出します。 「作品鑑賞カード」「作品カード」必要に応じて配布します。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「小学校学習指導要領」（図画工作） ○文部科学省検定済教科書小学校図画工作用「<u>ずがこうさく1・2上、1・2下、図画工作3・4上、3・4下、図画工作5・6上、5・6下</u>」及び指導書 ○「幼児造形教育の基礎知識」花篤寛 監修（建帛社） ○幼稚園教育指導資料「<u>指導と評価に生かす記録</u>」文部科学省 							
その他 （受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ次に制作するための資料を集めてきてほしい。 ・制作を通して膨らんだイメージを大切に、授業時間外にも表現活動をして欲しい。 ・作品は、必ず作品観賞会、締め切りに間に合うように提出すること。 							
教員 e-mail アドレス	tsuru@hcc.ac.jp							

授業科目名	図画工作							
担当者名	都留 守							
科目コード	2200010	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修 ○	保 育 士 必修 ○	レク 必修	認定 ベビージャー
授業の概要と方法	<p>「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、豊かな情操を養うことを目指して授業を行う。</p> <p>（授業の概要）1年間を通して、材料・用具・表現方法・テーマなど出会い、発想を広げ、構想を練り、表現の見通しを立て、表現活動を行う。作品完成後に作品鑑賞会をする。毎時間「振り返りカード」で自己評価をする。毎時間繰り返すことで、豊かな情操を養う授業を行う。後期では、手袋・落ち葉・綿棒・新聞紙・水・紙粘土など身近な材料を活用した立体表現に取り組む。</p>							
授業の到達目標	<p>（通年目標）「表現」及び「鑑賞」の活動を通して、感性をはたらかせ、つくりだす喜びを味わい、造形的な創造活動の基礎的な能力を養い、豊かな情操を養う。保育者として必要な「造形への意欲・関心・態度」「発想・構造の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」の育成を目指す。</p> <p>（後期目標）目的や用途に合わせて素材を選び、つくり方を工夫し、色・形・素材の特性を生かした組み合わせを考えて表現をする力を育成する。と共にその喜びを味わわせる。グループ活動を通して認め合い・励まし合い・高め合う喜びを味わわせる。</p>							
授業計画	<p>16. 後期のシラバスについて知り、見通しをもとう カラー手袋で手袋人形をつくろう（1）手袋人形作りの計画をたてよう</p> <p>17. カラー手袋で手袋人形をつくろう（2）手袋人形をつくろう</p> <p>18. カラー手袋で手袋人形をつくろう（3）手袋人形発表会をしよう</p> <p>19. 和紙でランプシェードをつくろう（1）ランプシェードの土台をつくろう</p> <p>20. 和紙でランプシェードをつくろう（2）和紙を付けて飾りを付けよう</p> <p>21. 和紙でランプシェードをつくろう（3）中身を抜いて完成し、ランプシェードにあかりを灯そう</p> <p>22. 新聞紙でクリスマスツリーをつくろう（1）新聞紙を棒にして骨組みをつくろう</p> <p>23. 新聞紙でクリスマスツリーをつくろう（2）飾りをつけよう</p> <p>24. 新聞紙でクリスマスツリーをつくろう（3）幼稚園児にプレゼントしよう</p> <p>25. 紙粘土で遊ぼう（1） Kクレイで粘土遊びをしよう</p> <p>26. 紙粘土で遊ぼう（2） Kクレイでフォトスタンドをデザインしよう</p> <p>27. 綿棒で立体をつくろう 綿棒で立体をつくって鑑賞会をしよう</p> <p>28. 色水をつくって光らせて遊ぼう</p> <p>29. 木材を鋸で切ろう</p> <p>30. 1年間を振り返ってまとめと自己評価をしよう</p>							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間「<u>振り返りカード</u>」を使って、<u>10項目の評価の観点</u>をそれぞれ<u>5段階</u>で自己評価する（50%）。 ・毎時間提出する「<u>振り返りカード</u>」の<u>記述</u>から評価する（50%）。 ・授業後、鑑賞した作家や作品について<u>自主的に調べたり、展覧会に行つて鑑賞したりしたことをレポートで提出したものについては、重く評価</u>する。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・用途や目的に合わせた身近材の活用や表現方法の工夫などを使って、各自で表現活動を行い、表現力を高める活動をする。 ・授業で作成した手袋人形などを、幼稚園や保育所などの実習の際に活用する。 							
使用テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「振り返りカード」毎時間配布します。毎時間提出します。 2. 「作品鑑賞カード」「作品カード」必要に応じて配布します。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「小学校学習指導要領」（図画工作） ○文部科学省検定済教科書小学校図画工作用「<u>ずがこうさく1・2上、1・2下、図画工作3・4上、3・4下、図画工作5・6上、5・6下</u>」及び指導書 ○「幼児造形教育の基礎知識」花篤寛 監修（建帛社） ○幼稚園教育指導資料「<u>指導と評価に生かす記録</u>」文部科学省 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ次に制作するための資料を集めてきてほしい。 ・制作を通して膨らんだイメージを大切に、授業時間外にも表現活動をして欲しい。 ・作品は、必ず作品観賞会、締め切りに間に合うように提出すること。 							
教員 e-mail アドレス	tsuru@hcc.ac.jp							

授業科目名	体育							
担当者名	木原 寛子							
科目コード	2200011	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	通年（前期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必 修	教 免 必 修 ○	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビー シ ョ ン
授業の概要と方法	幅広い社会に貢献できる道徳的、社会的人柄の育成を目指し、パワフルでリズム感あふれる身体づくりと健康で安全な生活を営むために必要な知識や能力、態度の向上を図る。自己の身体練磨及び生涯にわたる健康管理の方法を学び、幼児体育に必要な生活の中にあるリズムを特色ある「天野式リトミック」を通して修得し、継続する大切さと身体を動かす楽しさを実感し体得する。それを、2年次後期の教科「保育・実践演習」に活用する。							
授業の到達目標	<p>①心豊かな保育者として子どもたちのお手本となる健康な身体と豊かな表現力を身につけ、安全な生活を営むために必要な知識や能力の向上を図る努力をする。</p> <p>②運動の重要性を理解し、「天野式リトミック」を体得する。身体を動かす楽しさを実感する。</p> <p>③個人とグループの実技試験に向けて、各自が協力を惜しまず、繰り返し練習し合格を目指し諦めない気持ちと努力することの大切さを学ぶ。</p> <p>④「水泳実習」から安全に実施するための留意点と水を怖がらずに楽しむ方法を学ぶ。</p> <p>⑤基本のリズムを使って全身運動に繋がる遊びを工夫する。（動物の模倣運動を表現したり、手拍子、足踏み、言葉で表現）</p>							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション・授業内容について （到達目標と天野式リトミック、運動の重要性を理解する） 「天野式リトミック」を通して、心身の繋がりと自己の身体を知る ストレッチ 1分間トレーニング（毎回） 音符の体得（四分音符、八分音符、二分音符、全音符）手拍子、足踏み、全身で正しく表現する 基本の音符（四分音符＝1拍）を理解し、展開する方法を学ぶ 手拍子、足踏み、歩く（前後～左右～斜め～回る）スキップ、ギャロップなど基本の動作を体得する 発令で手足の音符を表現する 個人で、2人組で、グループで、全員で音やリズムの変化を楽しみながら習得し、動く楽しさを感じる 「救命救急法」講義・実技 幼児に向けた水遊びとその留意点について 水中での身体操作を一人ひとりが体感し保育者として子どもたちが水を怖がらずに楽しむ方法を学ぶ ダンスステップ・基本のステップ（ツーステップ・ワルツ・バランス・スキップ） 音階（ドレミファソラド）を両手で表現し基本のステップに合わせる（季節の歌、わらべ歌、童謡を歌いながら表現する） 両手を使って「拍子」の体得（2・3・4・6拍子）カノン・分割・異拍子 ・手→拍子 ・足→音符で表現する（反復練習で習得） 総合練習 ・発令を聞き、瞬時に動ける身体をつくり集中力を高める・リズムを活かした模倣運動 前期まとめ ・個人テスト（基本のリトミック）・グループテスト（協力し繰り返し練習して臨む） 							
成績評価の方法	[評価項目と割合] 授業への取り組み姿勢（40%）、実技テスト（30%）、ノート・レポート（30%）							
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・前時間に学んだ内容をノートに記入し、今後自分の資料として活用できるようまとめる。また、学んだ動きを一日一分でもトレーニングし体得出来るようにする。 ・ストレッチを習慣化し体力づくり及び健康維持を心がける。 							
使用テキスト	・必要に応じて資料配布。							
参考書（参考資料等）	・必要に応じて資料配布。							
その他（受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始 10 分前に集合し授業内容の確認を行うこと。 ・服装は実習着、体育館シューズを着用し、アクセサリ等の装着は禁止する。 ・髪の毛の長い学生は結ぶこと。授業内では自己の身体と向き合い、素直に行動すること。 							
教員 e-mail アドレス	tomo119k@hcc.ac.jp							

授業科目名	体育							
担当者名	木原 寛子							
科目コード	2200011	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修 ○	保 育 士 必修 ○	レク 必修	認定 ベビーカー
授業の概要と方法	<p>前期に習得した「天野式リトミック」の基本のリズムを子どもたちと共有し、身体を動かす楽しさを共感する方法を学ぶ。保育現場に備えている手具（縄、ボール、輪）マット、跳び箱、平均台の特徴を活かした運動あそびの展開方法を体得する。またグループ活動を通して個人の能力向上に留まらず、個々の能力を集団の中で活かすことを目指し、工夫しながらそれぞれの教科とのつながりを見出し、活用能力を育てる。保育者として心身の健康に心がけ、豊かな表現力で子どもたちと関わる力を育成する。</p>							
授業の到達目標	<p>①「天野式リトミック」の基本を手具を使って運動あそびに展開する。 ②マット運動を通して手足を使って身体を支える方法を学ぶ（かえるの逆立ち、横転、前転、側転、三転倒立）。 ③跳び箱と平均台 ④動くことは全てリズムであることを理解して子どもの成長に合わせた様々な運動遊びを安全に魅力的に継続できるよう考え実践する。 ⑤リズムと運動と健康のつながりを理解し、1年間取り組んだ効果と自己の身体の変化を感じ、楽しく動くことを子どもたちと共感する。</p>							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学祭に向けて「全員リトミック」に取り組む （各クラスで基本のリズムを組み合わせることで全身で表現する） 2. 前期に習得したリズムの復習 3. 音符・拍子の総合練習 （各クラスで練習、リハーサルはなく練習時にイメージし、大学祭当日に発表） 4. 基本のリズムを組み合わせることでグループで動物・乗り物の模倣運動をつくる 5. グループで発表（後期テスト） 6. 基本のリズムを組み合わせることでリズムをつくる、手足で表現し暗譜する。 発令に合わせて動く（後期テスト） 7. 休止符による手足をコントロールするトレーニング（後期テスト） 8. 手具を使用して、それぞれの特徴を活かした運動あそびを考える 9. ボール・輪・縄 10. ボール・輪・縄を組み合わせることで運動あそびにつなげる 11. マット運動（横転・前転・側転・三転倒立）補助法を学ぶ 12. 跳び箱（馬乗り・開脚乗り・閉脚乗り・跳び越し・台上前転）跳び方と補助法を学ぶ 13. 平均台・バランス運動（歩く前後・四つんばい・両手支持） 14. 手具や器具を組み合わせることで運動あそびを展開する（安全の配慮、子どもにとって魅力的な環境をつくる） 15. リズムと運動、健康とのつながりを理解し、ストレッチと1分間トレーニングに取り組んだ効果を振り返る 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] 授業への取り組み姿勢（40%）、実技テスト（30%）、ノート・レポート（30%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時間に学んだ内容をノートに記入し、今後自分の資料として活用できるようまとめる。また、学んだ動きを一日一分でもトレーニングし体得出来るようにする。 ・ストレッチを習慣化し体力づくり及び健康維持を心がける。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料配布。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料配布。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始10分前に集合し授業内容の確認を行うこと。 ・服装は実習着、体育館シューズを着用し、アクセサリ等の装着は禁止する。 ・髪の毛の長い学生は結ぶこと。授業内では自己の身体と向き合い、素直に行動すること。 							
教員 e-mail アドレス	tomo119k@hcc.ac.jp							

授業科目名	国語（教職）							
担当者名	宮崎 楯昭							
科目コード	2200012	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	通年（前期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必 修	教 免 必 修 ○	保 育 士 必 修 ○	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
授業の概要と方法	乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深め、子どもが豊かな言語活動を身に付けていくにはどうすればよいのかを考察する。そのため、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」にもとづき、絵本・紙芝居・読み聞かせなどの児童文化財による言語活動や具体的保育の事例研究等を通して、保育者として子どもの心や言葉育ての支援の在り方を考える。演習、討論、発表、レポート等。							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深める。 ・「言葉の源」は意欲であり、伝えるもとになるメリハリのある生活環境と伝えたい人が必要であることを理解し、保育者の基礎としての能力を身に付ける。 ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」における領域「言葉」の内容を理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要およびコミュニケーション 2. 言葉をめぐるワークショップ 幼児の言葉体感 3. 言葉の前の言葉 言葉における乳児期の重要性 4. 1つの言葉で 一語文 5. 保育の中の言葉 言葉の育ち 言葉の機能 6. 人とつながる言葉 人との関わりと言葉 関わりたい思い 7. 言葉で考える 言葉で考えるための発達の道筋 8. 言葉のかかわりにおける配慮と相談 言葉の発達における保護者の心配ごと 9. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」 10. 遊び歌・数え歌 11. いろいろな言葉遊び（1） 言葉遊びについて 動物文字カード 回文等 12. いろいろな言葉遊び（2） いつでもどこでもパズル 反対言葉等 13. いろいろな言葉遊び（3） ひらがなビンゴ 早口言葉 つながり言葉等 14. 言葉みつけ 「まる」のつく言葉 階段言葉 文づくりなど 15. まとめ 心と体と言葉の一体的発達 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートおよび課題の提出 [評価項目と割合] 授業態度（20%）、提出物（20%）、レポート（60%） 							
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の連休明けに、①絵本、②幼少年童話、③児童文学をそれぞれ一冊ずつ読んで感想文をレポート用紙1枚に書いて提出してもらいます。 ・後期のブックトーク、ストーリーテリングの作品を夏休み中に探しててください。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜、資料を配布します。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「演習 保育内容 言葉」戸田雅美 編著（建帛社） ○「シードブック 保育内容 言葉」榎沢良彦、入江礼子 編著（建帛社） 							
その他（受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・教養を磨くため、自己挑戦的にノルマを決めて、毎日少しでも読書をする。 ・各活動で活用できる絵本、昔話、幼年童話等、1冊でも多く目を通す。 							
教員 e-mail アドレス	tateaki.m@hotmail.co.jp（金曜日 8:00～8:40 の間、2号館 4階非常勤講師室にて待機）							

授業科目名	国語（教職）							
担当者名	宮崎 楯昭							
科目コード	2200012	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必 修	教 免 必 修 ○	保 育 士 必 修 ○	選 択 レク 必 修	認 定 ベビーカー
授業の概要と方法	乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深め、子どもが豊かな言語活動を身に付けていくにはどうすればよいのかを考察する。そのため、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」にもとづき、絵本・紙芝居・読み聞かせなどの児童文化財による言語活動や具体的保育の事例研究等を通して、保育者として子どもの心や言葉育ての支援の在り方を考える。演習、討論、発表、レポート。							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の子どもの発達と言葉の習得過程の関連について理解を深める。 ・「言葉の源」は意欲であり、伝えるもとになるメリハリのある生活環境と伝えたい人が必要であることを理解し、具体的な言葉遊びの活動を通して保育者の基礎としての能力を身に付ける。 ・実践的な活動を通して、いろいろな言語活動を身につける。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物の名前 お店ごっこ 上位概念語 下位概念語 言葉の仲間 2. お話しづくり グループでつくる 個人でつくる 3. オリジナル絵本づくり 4. 「読み聞かせ」の重要性 5. 読み聞かせをしよう (1) グループ A 6. 読み聞かせをしよう (2) グループ B 7. オリジナル「かるたづくり」 8. 俳句で遊ぼう 9. ストーリーテリングのワークショップ 10. ストーリーテリングの実演会 11. 創作紙芝居づくり 12. 紙芝居の実演会 13. 文学作品を読む (1) 杉みき子『白さぎ』を読んで感想文を書く 14. 文学作品を読む (2) 詩を読んで疑問点を中心に感想を話し合う 15. まとめ <言葉を育てる児童文化財のいろいろ> 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートおよび課題の提出 <p>[評価項目と割合]</p> <p>授業態度 (20%)、提出物 (20%)、レポート (60%)</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・後期演習で実践する、ブックトーク、ストーリーテリング、読み聞かせ、紙芝居などの作品を夏休み等、事前に決定しておいてください。 ・14回目には、童話作品の感想文をレポート用紙1枚に書いてもらいます。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜、資料を配布します。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「演習 保育内容 言葉」戸田雅美 編著（建帛社） ○「シードブック 保育内容 言葉」榎沢良彦、入江礼子 編著（建帛社） 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教養を磨くため、自己挑戦的にノルマを決めて、毎日少しでも読書をする。 ・各活動で活用できる絵本、昔話、幼年童話等、1冊でも多く目を通す。 							
教員 e-mail アドレス	tateaki.m@hotmail.co.jp（金曜日 8:00～8:40 の間、2号館 4階非常勤講師室にて待機）							

授業科目名	保育制度論								
担当者名	上村 初美								
科目コード	2200013	授業形態	講義						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レク 必 修	認 定 ベビシッター
					○				
授業の概要と方法	<p>幼児教育を志す者にとっては、幼稚園、児童福祉施設等（保育所も含む）に関する現行制度を理解することが求められている。</p> <p>そこで、教育行政の立場から、幼児教育の制度の仕組みやその考え方を学ぶことを目的とする。プリント・資料を提出して進めていきたい。</p>								
授業の到達目標	<p>公教育の原則及び法制度的な理念に関する用語を理解し、現実の教育問題を制度的な視点から考察することを身に付ける。</p>								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと保育の基本について 2. 教育関係法にもとづく教育機関について 3. 4. 日本の学校制度の変遷と今後について 5. 幼稚園、保育所に関する制度と法規について 6. 幼稚園の管理運営の基本について 保育所の管理運営の基本について 7. 8. 保育者の身分や資格について 9. 保育者の勤務条件とこれからの改善点 10. 法規にもとづく施設設備に関する事 11. 保育所等、児童福祉における法的な措置について 12. 幼児教育関係文書について 13. 幼児教育の現状と課題 14. 保育関連、新制度などについて 15. まとめ 								
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業態度（20%）、定期試験（70%）、その他〔提出物〕（10%）</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・倉橋惣三 『育ての心』及び ルソー 著 『エミール』を読み、講義内容の理解に役立ててほしい。（エミールは特に上巻を中心に）</p>								
使用テキスト	<p>○「最新保育資料集」（ミネルヴァ書房）</p> <p>※テキストとは別にプリントを配布する。</p>								
参考書（参考資料等）	<p>・参考文献、資料は授業中に適宜紹介する。</p>								
その他 (受講生への要望等)	<p>・受講に際しては、礼節を弁えた態度で臨まれることを希望する。</p>								
教員 e-mail アドレス	<p>講義開始後に改めて連絡をします。</p>								

授業科目名	教育方法論								
担当者名	木本 節子								
科目コード	2200014	授業形態	講義						
学 年	1	開 講 期	後期						
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
					○				
授業の概要と方法	<p>教育・保育とは保育者が子どもの成長・発達を助長する営みである。その目的を実現するために保育者は毎日子どもを観察し保育方法を考え環境を工夫し、子どもにかかわっていくのである。この授業では幼児期を中心に発達段階に則した子どもの姿を取上げ、保育内容やその活動などの保育の展開（指導・援助）特に附属幼稚園での行事に参加することによって幼稚園教育要領（五領域）とのつながりを学び保育者として留意すべき観点を学ぶことを目的とする。</p>								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育方法の基本（保育の順序）を理解できる。 2. 幼稚園教育要領の改善点（環境による保育）について理解できる。 3. 保育形態の種類と問題点について理解できる。 4. 子どもへの接し方・指導方法について理解できる。 5. 附属幼稚園での演習を通して保育内容やその活動などの保育の展開（指導・援助）と幼稚園教育要領とのつながりが理解できる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育方法の基本（保育の営みについて） 2. 教育・保育方法の基本（保育の営みと方法について） 3. 保育の方法（保育の順序を理解する）① 4. 保育の方法（保育の順序を理解する）② 5. 「子ども理解」から生まれる方法（生活について） 6. 「子ども理解」から生まれる方法（あそびについて） 7. 筑紫オリンピック参加への準備（行事を展開するための方法） 8. 筑紫オリンピック参加とその総評について 9. 「保育者の願い」から生まれる方法（ねらいと内容）① 10. 「保育者の願い」から生まれる方法（ねらいと内容）② 11. 「環境」を生かした保育方法（環境による保育）① 12. 「環境」を生かした保育方法（環境による保育）② 13. 子どもにふさわしい園生活について 14. 子どもにふさわしい保育形態について 15. まとめ（子どもの接し方）カルテ作成、アンケート、定期試験について 								
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] 授業への取り組み姿勢（10%）、レポート(20%)、定期試験(70%)</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園した幼稚園などの保育形態などをインターネットなどで調べて授業に臨むこと。 								
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・資料配布 								
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「幼稚園教育要領」文部科学省 ・資料配布 								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの子ども観・保育観を持って授業に臨むこと。 ・幼稚園によって保育方法は多様である。幼き日に通園した幼稚園や保育園のことを思い出して授業に臨んでほしい。 								
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。								

授業科目名	保育指導論							
担当者名	岩橋 敏子							
科目コード	2200015	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ョ ン ナ ー
					○			
授業の概要と方法	指導とは、幼児を好ましい方向に導く総合的な捉えや行為である。そのことは保育者の大きな役割であり、保育者自身の保育観・資質によって子どもの育ちが変わってくる側面をもつ。1年次で修得した教育方法に繋げた指導論を学ぶことにより、実践力を学び指導力のある保育者を目指す。授業内容としては、講義を中心とし、数例の実践例から指導案作成を手がけていく。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育の基本の3つの重視事項を通して、具体的事例を基に指導力のある保育者としての姿が理解できる。 2. 幼児にとって、環境による教育・体験学習がなぜ大切であるかを理解できる。 3. 遊びをどのように捉え、援助していくか総合的指導の重要性について理解を深めることができる。 4. 幼児理解や援助のあり方により、保育が変わることが具体的に理解できる。 5. 子どもの自発性を尊重することと保育者の指導性の関係について理解を深めることができる。 6. 発達の時期に応じた保育のあり方について、指導案を作成する上で心がけるべき点などが理解できる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領解説 (1) 幼稚園教育要領及び保育所保育指針について再認識 2. 幼稚園教育要領解説 (2) ねらい及び内容と5領域の捉え方について 3. 環境による保育とはについて・・・人的、物的、自然的を捉えて 4. 総合的指導について・・・5領域と総合的指導の捉え 5. 保育方法の原理について・・・集団と個の育ち、自発性と指導性について 6. 指導計画について・・・指導計画とは何か、指導計画の必要性 7. 指導案作成 (1)・・・指導案の作成ポイント (日案作成事項) 8. 指導案作成 (2)・・・援助と指導の捉え方 9. 指導案作成 (3)・・・実践例を基に具体的に作成 (学生自身で作成) 10. 指導案作成 (4)・・・実践例を基に具体的に作成 (添削された部分を訂正) 11. 指導案作成 (5)・・・実践例を基に具体的に作成 (仕上げとまとめ) 12. 保育活動の実践について・・・遊びの中の総合的指導の捉え・援助・幼児理解 13. 保護者ニーズへの対応について・・・気になる子どもへの関わりについて 14. 子どもの気になる現状について・・・気になる子どもへの関わり方について 15. まとめ・・・・・・・・・・保育指導論のまとめと評価 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に2回指導案作成を行う。 ・定期試験を行い総合的に評価する。 <p>評価の比率は、 授業への取組み姿勢 (20%) 期末試験 (60%)、指導案作成 (20%) とする。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の他、授業中に次の授業までに行うべき予習、復習を実施すること。 							
使用テキスト	○「幼稚園教育要領解説」文部科学省 (フレーベル館)							
参考書 (参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ○「保育方法指導法の研究」森上史朗 他 (ミネルヴァ書房) ○「保育所保育指針解説」厚生労働省 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について理解不足の学生は授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けて下さい。 							
教員 e-mail アドレス	t0106h0730@hcc.ac.jp							

授業科目名	幼児の理解と教育相談							
担当者名	寺本 普見子							
科目コード	2200016	授業形態	講義					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
					○			
授業の概要と方法	近年、低年齢化した犯罪・学級崩壊・ひきこもり・情緒的問題（多動性障害・自閉症）等、幼児を取り巻く環境の変化は著しい。また、育児疲労・核家族化・相談者の欠如による孤独等の問題を抱える保護者も多い。このような現状を踏まえ、保育者は子育て支援のために保護者に対する心理学的援助を行うカウンセリングマインドを養う。本講義では、具体的な（身体的問題・精神的問題を抱える子をもつ保護者とのカウンセリング等）事例をあげて学習する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとのかかわりを習得する。 2. 子どもの問題行動を理解する。 3. 保育者の言葉かけを理解する。 4. 保護者との接し方を学び習得する。 5. 保育カウンセリングの方法を習得する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義オリエンテーション 2. 乳幼児の観察と理解 3. 子どもへの支援（1）－実習経験を振り返る 4. 子どもへの支援（2）－グループ討議 5. 子どもの自己肯定感を育てる 6. 子どもの心にとどく指導法（1）－子どもの思いを聴く 7. 子どもの心にとどく指導法（2）－子どもの力を信じる 8. 保育者の言葉かけ（1）－保育者の自己成長のための関係づくり 9. 保育者の言葉かけ（2）－保育者の価値観の多様性の分析 10. 保育者の言葉かけ（3）－保護者への対応の基本的な流れ 11. 聴き手に必要な態度条件 12. 保育カウンセリングの位置づけ 13. 保育カウンセリングの流れ 14. 保育カウンセリングの演習 15. まとめ・到達目標・カルテ作成 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験、授業態度にて評価。 [評価項目と割合] 定期試験（80%）、授業態度（20%）							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義にて、準備学習、事後学習について連絡する。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・より深く理解するために、プリントを配布する。 							
参考書（参考資料等）	○「やさしく学べる 保育カウンセリング」大竹直子 著（金子書房）							
その他 (受講生への要望等)	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業ファイルを作成（毎回の授業内容を記述、配布した資料を添付）すること。 ② 提出物は期日までに提出すること。 授業内容について質問等、対応が必要な学生には授業終了後、あるいはオフィスアワーを設けて対応する。 							
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。							

授業科目名	教育実習事前・事後指導							
担当者名	梶田 郁子							
科目コード	2200017	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
					○			
授業の概要と方法	幼稚園教育の概要（幼稚園の役割・幼稚園における保育の基本等）を学習し、教育実習にそなえて保育者としての人間性について学ぶ。また、教育実習に臨む心構えと態度、教育実習記録の書き方、まとめ方等の教育実習に関する内容について実例を通して学ぶ。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と心構えが理解できる。 2. 幼稚園の役割と幼児理解の大事さや発達過程が理解できる。 3. 実習の種類や実習記録の書き方が理解できる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義と目標—実習とは何か・実習の種類・実習の時期と単位 2. 実習の意義と目標—幼稚園の生活と保育者の職務を理解する 3. 実習の心構えと準備—実習の心構えと心得について 4. 実習の心構えと準備—実習段階における内容と実習方法について 5. 実習の心構えと準備—実習に向けた提出書類と実習先幼稚園への連絡方法について 6. 園生活と幼児理解—幼稚園の一日の流れ、幼児の遊びの姿について 7. 園生活と幼児理解—幼児の発達理解について学ぶ 8. 園生活と幼児理解—ビデオを通して教師の援助のあり方を学ぶ 9. 実習記録の書き方—実習記録とは何か 10. 実習記録の書き方—記録を書く目的や形式、書く視点の内容、記録をとる際の注意事項 11. 実習記録の書き方—観察実習の一日を記録するために 練習（1）週日案の書き方 12. 実習記録の書き方—観察実習の一日を記録するために 練習（2）生活の流れ、環境の構成、指導上の援助・配慮 13. 実習記録の書き方—観察実習の一日を記録するために 練習（3）園舎内・外 14. 観察実習の心構え—観察実習に向けた心構えと準備内容の確認 15. まとめ 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験はしない。 <p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取り組み姿勢（30%）、小テスト（70%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習で使う漢字や援助の書き方については復習をしてほしい。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「幼稚園実習保育所・施設実習 第2版」大豆生田啓友、高杉展、若月芳浩編（ミネルヴァ書房） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学 ○「幼稚園の教育実習実施要項」東筑紫短期大学 ○「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） ○「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館） 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の進度に応じて、適宜紹介をする。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前半は幼稚園や実習についての知識を講義にて学び、後半は実習記録の書き方を中心に演習で学ぶ。 							
教員 e-mail アドレス	i.masuda@hcc.ac.jp							

授業科目名	教育実習事前・事後指導							
担当者名	梶田 郁子							
科目コード	2200017	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
					○			
授業の概要と方法	<p>1.実習終了後、自分が立てた実習目標に従って学んだこと、幼児観を形成するのにどのような役立ったかなどについて学び合う。</p> <p>2.実習先で得た貴重な体験をグループで発表し合い、幼稚園教育についての理解を深める。さらに実習体験を今後の学習に生かすと共に、自己の保育観、幼児観が持てるようにする。</p>							
授業の到達目標	<p>1. 実習を基に、自分の幼児観や保育観を確かなものにでき、保育者像をもつことができる。</p> <p>2. 実習後自己評価して自分の課題を明確に持ち、保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</p> <p>3. 実践力育成のために、子どもの発達と保育の展開について実践や事例を通して学ぶ。</p>							
授業計画	<p>2 回目の実習目標 (1)</p> <p>1. ・1 回目の実習を振り返り、2 回目の実習目標を明確にする ・実習記録の書き方について</p> <p>2. 2 回目の実習目標 (2) 部分実習の指導案を書く</p> <p>3. 2 回目の実習目標 (3) 一日実習の指導案を書く</p> <p>4. 幼稚園実習のまとめ (1) 実習記録のまとめ方,自己研究のまとめ方</p> <p>5. 幼稚園実習のまとめ (2) 実習後の振り返りと自己評価について分析</p> <p>6. 実習後に学んでおくこと (1) 実習で学んだ保育者の仕事について</p> <p>7. 実習後に学んでおくこと (2) 実習で学んだ幼児の発達と遊びについて</p> <p>8. 実習後に学んでおくこと (3) 子どもが充実する遊びについて</p> <p>9. 幼児理解と評価 (1) 幼児理解と評価の考え方</p> <p>10. 幼児理解と評価 (2) よりよい保育をつくり出すために</p> <p>11. 幼児理解と評価 (3) 適切な幼児理解と評価のために</p> <p>12. 幼小の接続を考えた保育展開 (1) グループで言葉・数量・科学リテラシーを育てる保育を考える</p> <p>13. 幼小の接続を考えた保育展開 (2) グループで考えた保育の感想・課題を話し合う</p> <p>14. 子どもが求める保育者像とは？</p> <p>15. まとめ</p>							
成績評価の方法	<p>・定期試験は実施しない。 [評価項目と割合] 授業への取組み姿勢 (30%)、授業で書いたレポートや話し合いの記録等 (70%)</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・より理解でき実践力を高めるのに繋がると思うので、事前に教科書や資料を読んで学習に臨んでほしい。</p>							
使用テキスト	<p>○幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」文部科学省 (フレーベル館)</p> <p>○「幼稚園の教育実習実施要項」東筑紫短期大学</p> <p>○「実習の手引き」東筑紫短期大学</p> <p>○「幼稚園教育要領解説」文部科学省 (フレーベル館)</p>							
参考書 (参考資料等)	<p>・講義の進度に応じて、適宜紹介をする。</p>							
その他 (受講生への要望等)	<p>・実習に行く前は、実習に必要な内容を学習し、実習後はその実践を基に実践力を高めるような演習をする。</p>							
教員 e-mail アドレス	i.masuda@hcc.ac.jp							

授業科目名	教育実習								
担当者名	梶田 郁子								
科目コード	2200018	授業形態	実習						
学 年	1・2	開 講 期	後期（1年）・通年（2年）						
単 位 数	4	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レク 必 修	認 定 ベビーカー
					○				
授業の概要と方法	1年後期の附属幼稚園での観察実習、2年前期・後期2回の学外実習を通して、幼稚園の役割や機能を理解するとともに、幼児理解や保育理解を深める。また、部分実習や一日実習を通して、保育の計画—実践—評価—改善と継続的に保育を改善しながら実践していくことの大切さについて理解を深める。さらに、保育者として自己の課題を明確に持つようにする。								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習を通して幼児教育の重要性、保育者としてそなうべき人間性や技術の必要性等について理解する。 2. 附属幼稚園での観察実習では、保育の観察記録を作成することを通して、園生活の流れ、保育のあり方を学ぶと共に、幼稚園の施設・設備・遊具等の配置、活用状況を観察し、幼児教育のあり方を理解する。 3. 学外実習で幼児と触れ合う中で、幼児理解に努めると共に、部分実習や一日実習を通して幼児へのかかわり方や援助のあり方を理解する。また、具体的な保育者像を目指して自己課題を解決しようとする意欲をもつ。 								
授業計画	<p>1 年次後期 : 附属幼稚園観察実習</p> <p>2 年次前期 : 1 週間の学外実習 参加実習・部分実習</p> <p>2 年次後期 : 2 週間の学外実習 部分実習・一日実習</p>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験はしない。 <p>[評価項目と割合] 実習記録と実習評価（100%）</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活態度を身につけるよう心がけてほしい。 (時間を守る、身だしなみ等) 								
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「幼稚園教育要領解説」文部科学省 ○「教職課程履修の手引き」東筑紫短期大学 ○「幼稚園の教育実習の実施要項」東筑紫短期大学 								
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・相談等に応じて、適宜参考資料を紹介する。 								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の学内オリエンテーションは必ず出席すること。 ・実習記録は決められた期日までに必ず提出すること。 ・休んだり、実習記録が未提出だったりした場合は、追加補充実習参加となる。 ・無断欠席の場合は、実習中止になる場合がある。 								
教員 e-mail アドレス	i.masuda@hcc.ac.jp								

授業科目名	保育原理								
担当者名	前川 公一								
科目コード	2200019	授業形態	講義						
学 年	1	開 講 期	前期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レク 必 修	認 定 ベビシッパ
			○			○			
授業の概要と方法	乳幼児期の教育のあり方が将来の人間形成の基礎として極めて重要である。そのため、保育者には乳幼児を養護・教育し、心身の健やかな成長を助ける重要な責務と大きな期待が寄せられている。そこで、保育原理の授業では、保育の意義、保育の基本、保育の内容と方法、保育の思想、保育の現状と課題などを統合的に学ぶようにする。そして、保育についての幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、よりよい保育を考える力を育てることを目指す。								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義や目的、保育所保育の特性について理解できる。 2. 子どもの発達と保育内容について知ると共に、保育の形態について理解できる。 3. 教育課程や保育課程と指導計画について学び、それらの内容や編成の手順を理解できる。 4. 幼稚園や保育所等の保育にあたっては、家庭や小学校、地域との連携が重要であることを理解できる。 5. 幼稚園や保育園の成立や発展について理解すると共に、その現状と課題を理解できる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・教科の内容、講義の進め方、試験・評価の仕方 2. 保育の意義・理念と課題・・・幼児の教育 3. 現代の子どもの問題・・・家庭の養育力、地域環境 4. 期待される子ども像・・・社会的規範意識、コミュニケーション力 5. 発達理論、5領域、保育所保育指針と養護 6. 0, 1, 2歳児の発達と保育内容 7. 3, 4, 5歳児の発達と保育内容 8. 保育における国際化、外国人の子どもの保育 9. 保育形態・・・学級、グループ編成上の形態 10. 子育て支援 11. 教育課程、保育課程、保育計画 12. 保育者の資質向上と評価 13. 欧米における保育の歴史 14. 日本における保育の歴史 15. 保育原理のまとめと評価 								
成績評価の方法	・授業への取り組み姿勢(20%)、レポート(10%)、定期試験(70%)を行い、総合的に評価する。								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・授業の中で参考図書や文献を紹介するので、本学の図書館等で積極的に読んで欲しい。また、新聞やテレビなどを通して、最新の教育の動向や保育の課題について把握するようにする。								
使用テキスト	○「保育原理－保育者になるための基本－[改訂版]」金村美代子 編著 (同文書院)								
参考書 (参考資料等)	・授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。								
その他 (受講生への要望等)	・この授業は、保育にかかわる様々な課題や問題について広く学ぶので、保育園や幼稚園を見学し、教育や保育の実際についてイメージを膨らませておくようにする。								
教員 e-mail アドレス	maekawa@hcc.ac.jp								

授業科目名	教育原理							
担当者名	前川 公一							
科目コード	2000014	授業形態	講義					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
					○	○		
授業の概要と方法	<p>今、子どもたちに「生きる力」をはぐくむ保育者が求められている。そのため、保育者がそのような教育実践ができる高い専門的力量とそれを支える豊かな人間性や確固とした教育理念が必要である。そこで、教育原理の授業では、教育の意義や目的及び児童福祉等の関わり、教育思想と歴史的変遷、基礎理論、教育制度、生涯学習社会の現状と課題を学ぶようにする。それにより、教育について幅広い視野を養い、基礎的な知識を身に付け、考える力を育てることを目指す。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義や目的、教育と児童福祉について理解できる。 2. 欧米の教育思想が、日本の幼児教育の分野に大きな影響を及ぼしていることを理解できる。 3. 教育が制度として、どのように運営されているかについて理解できる。 4. 教育内容、方法、計画と評価のあり方について、歴史的な経緯を踏まえながら現代的な課題を理解できる。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・授業の内容、進め方などの説明。 2. 教育の意義と目的 3. 教育と児童福祉 4. 古代の教育、中世の教育、近世の教育思想 5. 近代の教育思想の成立、近代公教育制度の確立 6. 日本の教育思想と子ども観 7. 日本の教育制度の基礎、子どもの権利の特質、日本国憲法 8. 日本の教育法規・教育行政の基礎 9. 日本の学校教育に関する制度、教員に関する制度 10. 教育実践の基礎理論と教育の方法、 11. 教育内容と教育指導の原理 12. 教育実践の多様な取り組み 13. 生涯学習社会の概念、教育評価 14. 現代の教育課題 15. 教育原理のまとめと評価 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢(20%)、レポート(10%)、定期試験(70%)を行い、総合的に評価する。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で参考図書や文献を紹介するので、本学の図書館等で積極的に読んで欲しい。また、新聞やテレビなどを通して、最新の教育の動向や保育の課題について把握するようにする。 							
使用テキスト	○改定2版・保育士養成講座第2巻「教育原理」(全国社会福祉協議会)							
参考書(参考資料等)	・授業の中で、参考書や参考文献を紹介する。							
その他 (受講生への要望等)	・教育原理に取り上げる内容を十分理解し、保育者になる基礎的な知識を身に付け、それらを生かした保育実践ができるようになることを期待する。							
教員 e-mail アドレス	maekawa@hcc.ac.jp							

授業科目名	児童家庭福祉							
担当者名	藤岡 良幸							
科目コード	2200020	授業形態	講義					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビシッター
			○			○		
授業の概要と方法	児童家庭福祉の意義及び歴史的展開過程、法律、法体系・制度、行政・福祉機関・施設を学ぶとともに、福祉サービスの現状と課題、専門職としての保育士の役割、児童・家庭に対する相談援助活動について理解する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の現状を理解する。 2. 子どもの行動に関する問題を理解する。 3. 児童家庭福祉の歴史と仕組みを理解する。 4. 児童家庭福祉行政と実施機関を理解する。 5. 児童家庭福祉の実践を理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における児童家庭福祉 2. 児童家庭福祉の歴史的変遷 3. 子どもの権利擁護 4. 児童家庭福祉の法体系 5. 児童家庭福祉の実施体系 6. 少子化対策と子育て家庭への支援 7. 母子保健と健全育成 8. 子育てと保育サービス 9. 子どもと暴力 10. 保護が必要な子どもと支援 11. 障害のある子どもと支援 12. 少年非行と支援 13. 子どもと貧困 14. 多職種間の連携による支援 15. 諸外国の児童家庭福祉及び教科のまとめ 							
成績評価の方法	[評価項目と割合] 授業への取り組み姿勢 (20%)、定期試験 (80%)							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・授業終了後に、理解度、到達度のアンケートをとる。							
使用テキスト	○保育者養成シリーズ「新版・児童家庭福祉論」 山崎順子、高玉和子、和田上貴昭 編著 (一藝社)							
参考書 (参考資料等)	○「保育福祉小六法 2014 年度版」(みらい)							
その他 (受講生への要望等)	・各章ごとの予習、復習を必ず行うこと。							
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp							

授業科目名	児童家庭福祉演習							
担当者名	藤岡 良幸							
科目コード	2200021	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（前期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
						○		
授業の概要と方法	1 年次の「児童家庭福祉」を、教材作り、レポート作成、レポート発表等を通じて深めるとともに、保育所実習、幼稚園実習、施設実習などの体験を通して、児童家庭福祉を理解し、「保育実習Ⅰ（施設実習）」と関連づけて、被虐待児及び発達障害者・児を含めた障害者・児への対応を習得する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期の発達について理解する。 2. 児童家庭福祉について、演習、見学、レポート発表を通して深く理解する。 3. 保育所・幼稚園・施設における実習の経験を通して児童家庭福祉を理解する。 4. 大学祭や保育・教職実践演習につながる教材作りを学ぶ。 5. 視覚障害、身体障害の体験実習を通して児童家庭福祉について理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要及びオリエンテーション 2. 児童家庭福祉の現状について（DVD 視聴等） 下記のテーマを自由に選んでレポート作成。 3. 里親制度、肢体不自由児、LD 児、ADHD 児、ダウン症、自閉症児、盲聾啞児・軽度発達障害児、いじめ、児童虐待、子どもの自殺、非行、子どもの貧困 等 4. 児童虐待事例に関するレポート作成 5. レポート発表（3回目・4回目分） 6. 第1回 絵カードづくり：教科担当者指定の絵カード作成 7. 第2回 絵カードづくり：オリジナル（自分で考えた）絵カード作成 8. 知的障害児について学ぶ（DVD 視聴等） 9. 児童発達支援センター（到津ひまわり学園）見学 10. 第1回 手作り教材づくり（1）：教科担当者指定の教材作成 11. 第2回 手作り教材づくり（2）：オリジナル手作り教材作成 12. ADHD（注意欠陥多動性障害児）について学ぶ（DVD 視聴等） 13. 第3回 手作り教材づくり（3）：牛乳パックを用いた手作り教材作成 14. 視覚障害者、身体障害者の体験（手引き歩行、白杖歩行、車椅子歩行） 15. 教科のまとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取り組み姿勢（20%）、レポート（20%）、作品提出（60%）</p>							
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	・授業終了後の到達度アンケート実施							
使用テキスト	<p>使用しない</p> <p>・参考資料等随時配布する。</p>							
参考書（参考資料等）	<p>○「新プリマーズ／保育／福祉 児童家庭福祉」</p> <p>福田公教、山縣文治 編著（ミネルヴァ書房）</p>							
その他（受講生への要望等）	・事前の準備、教材作りのための材料及びハサミ、カッター等工具類の準備をすること。							
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp							

授業科目名	児童家庭福祉演習							
担当者名	藤岡 良幸							
科目コード	2200021	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	1 年次の「児童家庭福祉」を、教材作り、レポート作成、レポート発表等を通じて深めるとともに、保育所実習、幼稚園実習、施設実習などの体験を通して、児童家庭福祉を理解し、「保育実習Ⅰ（施設実習）」と関連づけて、被虐待児及び発達障害者・児を含めた障害者・児への対応を習得する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児や障害児等の生活習慣形成に必要な絵カードを作成する。 2. 保育者として必要な子どもの生活習慣の指導法を学ぶ。 3. 子どもの基本的な生活習慣について考察し、レポートを作成する。 4. 発達障害についての理解、環境構成考案など保育者としての心構えを習得する。 5. 子どもが示す様々な信号を受け止め、適切な対応法を学ぶ。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵カード作り (1)：担当者指定の絵カード作成 2. 手作り教材作り (1)：ペン立てを作る 3. レポート作成（遊びに関すること）(1) 4. 子どもと保護者の対応を学ぶ（ビデオ視聴等）(1) 5. 絵カード作り (2)：オリジナル（自分で考えた）絵カード作成 6. 手作り教材作り (2)：ペットボトルを利用した教材を作る 7. レポート作成（食事に関すること）(2) 8. 子どもと保護者の対応を学ぶ（ビデオ視聴等）(2) 9. 手作り教材作り (3)：紙芝居又は絵本を作る 10. レポート作成（排泄に関すること）(3) 11. 児童虐待事例の対応について学ぶ（DVD 視聴その他） 12. レポート作成（着脱に関すること）(4) 13. 子どもと保護者の対応を学ぶ（ビデオ視聴等）(3) 14. 発達障害（アスペルガー症候群）について学ぶ 15. 保育者としての心構え及び教科のまとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取組み姿勢（20%）、レポート（30%）、作品提出（50%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業終了後の到達度アンケート実施 							
使用テキスト	<p>使用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考資料等随時配布する。 							
参考書（参考資料等）	<p>○「新プリマーズ／保育／福祉 児童家庭福祉」 福田公教、山縣文治 編著（ミネルヴァ書房）</p>							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前の準備、教材作りのための材料及びハサミ、カッター等工具類の準備をすること。 							
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp							

授業科目名	社会福祉								
担当者名	藤岡 良幸								
科目コード	2200022	授業形態	講義						
学 年	1	開 講 期	前期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
			○			○			
授業の概要と方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義・理念について理解させる。 2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解させる。 3. 社会福祉サービス体系における公私の役割活動について理解させる。 4. 社会福祉援助技術及び福祉専門職の役割を理解させる。 5. 福祉関連領域～医療福祉・地域福祉・ボランティア活動の概要を把握させる。 6. 現代における利用者保護制度を理解させる。 								
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の全般について理解する。具体的には、社会福祉の意義、理念、法体系、制度及び行財政、福祉専門職、関連領域について理解する。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要及びオリエンテーション、 ①社会福祉の考え方 2. ②社会福祉を取り巻く環境 3. ③社会福祉の歴史 4. ④社会福祉の仕組み 5. ⑤社会福祉サービスの利用の仕組み 6. ⑥社会福祉の機関と施設 7. ⑦社会保障 8. ⑧低所得者福祉 9. ⑨児童家庭福祉 10. ⑩高齢者福祉 11. ⑪障害者福祉 12. ⑫地域福祉 13. ⑬利用者保護制度 14. ⑭社会福祉援助技術 15. ⑮社会福祉の担い手及び全体のまとめ 								
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] 定期試験 (90%)、レポート (10%)</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の各章を予習し、理解しておくこと。 ・授業終了後に、理解度、到達度のアンケートをとる。 								
使用テキスト	<p>○「新・プライマーズ／保育／福祉 社会福祉[第4版]」 石田慎二、山縣文治 編著 (ミネルヴァ書房)</p>								
参考書 (参考資料等)	<p>○「保育福祉小六法 2016年度版」(みらい)</p>								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各章ごとの予習、復習を必ず行うこと。 								
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp								

授業科目名	相談援助							
担当者名	竹並 正宏							
科目コード	2200023	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビシッター
						○		
授業の概要と方法	<p>相談援助の理論や技術を用いる専門職の基本的姿勢及び、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等について修得する。また日々の保育の中で行われる子どものソーシャルスキルや発達を促すためのグループを活用した援助（グループワーク）、保育者が抱える子育てなどの問題を解決するための相談援助（ケースワーク）、地域のボランティアや子育て支援の形成（コミュニティワーク）のように様々な援助技術を用いることが重要であることを学び、子どもの気持ちや現実寄り添った具体的な援助が可能となり、質の高いサービスの提供の技術を修得する。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 多様な福祉制度やサービスを活用し、ケアの提供を行うことを通して、個人及び家族の生活困難や生活問題を解決・緩和しより人間らしい暮らしを実現することを目指す姿勢が身に付いている。 対象、過程、技術、アプローチについて学び、本質である信頼感や安心感がどのように相談援助の方法と技術に係わっているか理解することができる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ケースワーク①・・・・・・・・ケースワークの定義、構成要素など ケースワーク②・・・・・・・・ケースワークの原則 ケースワーク③・・・・・・・・ケースワークの過程 グループワーク①・・・・・・・・グループワークの定義、構成要素など グループワーク②・・・・・・・・グループワークの原則 グループワーク③・・・・・・・・グループワークの過程 コミュニティワーク①・・・・・・・・コミュニティワークの定義、構成要素など コミュニティワーク②・・・・・・・・コミュニティワークの原則 コミュニティワーク③・・・・・・・・コミュニティワークの過程 ケアマネジメント①・・・・・・・・ケアマネジメントの定義、構成要素など ケアマネジメント②・・・・・・・・ケアマネジメントの原則 ケアマネジメント③・・・・・・・・ケアマネジメントの過程 総合事例演習①・・・生活課題を抱えるクライアントに対する総合的な援助演習 総合事例演習②・・・生活課題を抱えるクライアントに対する総合的な援助演習 ま と め 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に数回、小テストを行う。 授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を行い、総合的に判断する。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> 保育者として、計画、記録、評価、関係機関との協働、多様な専門職との連携、社会資源の活用、調整、開発に対する姿勢を身に付けることが、保育士にとって重要であることを認識して臨む。 							
使用テキスト	<p>使用しない</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料等を配布予定。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入して参考資料としていく。 視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> 相談援助について学ぶことは、人間の信頼関係を築く手段、信頼関係を築く援助技術で心を開き保育者として、計画、記録、評価、関係機関との協働、多様な専門職との連携、社会資源の活用、調整、開発に対する姿勢が身に付くことを要望する。 							
教員 e-mail アドレス	takenami@knwu.ac.jp							

授業科目名	社会的養護					
担当者名	古谷 俊雄					
科目コード	2200024	授業形態	講義			
学 年	1	開 講 期	後期			
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択必修	教免必修	保育士 必修 選択
						レク 必修
					○	認定 ベビーカー
授業の概要と方法	<p>この授業では、社会的養護の理念と概念を理解した上で、</p> <p>①現代社会における社会的養護の意義</p> <p>②社会的養護の制度・体系</p> <p>③社会的養護における子どもの人権と自立支援</p> <p>④社会的養護の現状と課題等について検討を加える</p> <p>毎回、関係資料を基に授業を進めるが、適宜 DVD 視聴等を通して関心を高める。</p>					
授業の到達目標	<p>①社会的養護が求められている現代社会の現状について理解を深める。</p> <p>②子ども観の歴史的変遷を通して、子どもの人権について理解を深める。</p> <p>③社会的養護を担う里親、児童福祉施設等の役割について理解を深める。</p> <p>④社会的養護の意義を理解することを通して、保育士が果たすべき役割について認識を深める。</p>					
授業計画	<p>1. 社会的養護の理念と概念 —社会的養護とは—</p> <p>2. 社会的養護の歴史的変遷と現状 —養護問題と社会環境—</p> <p>3. 社会的養護と子ども観 (1) —子どもの人権の変遷—</p> <p>4. 社会的養護と子ども観 (2) —子どもの人権の現状—</p> <p>5. 社会的養護の仕組みと実施体系 —児童相談所の機能と役割—</p> <p>6. 社会的養護の体系 —家庭養護と施設養護の概要—</p> <p>7. 家庭養護の制度 —里親・ファミリーホームの役割と実際—</p> <p>8. 施設養護の基本原則 —個別化による自立支援と家族調査—</p> <p>9. 施設養護の特質 —特質としての集団生活—</p> <p>10. 施設養護の実際 —日常生活支援の内容—</p> <p>11. 虐待問題と児童養護 —家庭・施設の実態と自動虐待—</p> <p>12. 施設の運営管理 —最低基準とサービス評価—</p> <p>13. 社会的養護援助者の資質と役割 —専門性と人間性—</p> <p>14. 社会的養護の現状と課題 (1) —将来像の実現に向けて—</p> <p>15. 社会的養護の現状と課題 (2) —まとめ—</p>					
成績評価の方法	<p>・定期試験 (筆記)、レポート (もしくは小テスト)、授業への取組みで総合的に評価する。</p> <p>評価の割合は、 定期試験 (70%)、レポート (20%)、授業への取組み (10%)</p>					
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・子ども虐待や貧困問題等、マスコミで頻繁に報道されている内容に普段から関心を抱き、考え、問題意識を深めておくこと。</p>					
使用テキスト	<p>○「よくわかる社会的養護 (第2版)」山縣文治、林浩康 編 (ミネルヴァ書房)</p> <p>○「保育福祉小六法 2016年版」(みらい)</p>					
参考書 (参考資料等)	<p>・講義の進度に応じて、適宜紹介をしていきます。</p>					
その他 (受講生への要望等)	<p>・保護者のいない子ども、被虐待児など家庭環境上、社会的養護を必要とする子どもは約4万6千人いる。このような子ども達のために、何をしなければならぬのか、何ができるのか、一緒に考えてみましょう。</p>					
教員 e-mail アドレス	<p>講義開始後に改めて連絡をします。</p>					

授業科目名	教育職の研究								
担当者名	上村 初美								
科目コード	2000015	授業形態	講義						
学 年	1	開 講 期	前期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
					○	○			
授業の概要と方法	<p>教育職とは、未発達な子どもを対象とし、人間を教育する職業であり、人間の生涯に大きな影響を与える重要な仕事である。従って、「教育職」の職務内容をあらゆる角度から検討し、教師の本来的役割を考察することを目標とする。なお、できる限り現実的事象を教材として取り上げ、進路決定へのプロセスの中で教科を捉えることを心がける。</p>								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の場における教職の意義とその役割及び職務内容をあらゆる角度から検討し、保育現場に即した指導力を養う。 2. 保育者としての学習目標や計画を考察し、自らの課題を明確にできる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のねらいと進め方、テキストの使い方、成績評価の方法など 2. 保育の意義 3. 保育者としての適性と義務 4. 保育の歴史と思想（日本の幼稚園、保育所の歴史） 5. 世界の歴史と思想（世界の幼稚園、保育所の歴史） 6. 幼稚園と保育所等の目的、制度的技能について 7. 幼稚園教諭の役割と職務内容について 8. 保育生の役割と職務内容について 9. 保育者としての保育技術を磨く 10. 保育者になるための学習過程について 12. 今、保育者に求められるもの <ul style="list-style-type: none"> ・研究する保育者 ・職業人としての保育者 14. 教育職（保育者）としての課題……子育て支援等について 15. まとめ（要点の復習） 								
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取組み姿勢（20%）、定期試験（60%）、その他〔提出物〕（20%）</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・倉橋惣三 『育ての心』及び ルソー 著 『エミール』を読み、講義内容の理解に役立ててほしい。（エミールは特に上巻を中心に） 								
使用テキスト	<p>○「保育者論」榎田三二子、大沼良子、増田時枝 編著（建帛社）</p>								
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進行状況に応じて、適宜紹介をする。 								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・受講に際しては、礼節を弁えた態度で臨まれることを希望する。 								
教員 e-mail アドレス	<p>講義開始後に改めて連絡をします。</p>								

授業科目名	教育心理学																																				
担当者名	毛利 泰剛																																				
科目コード	2000016	授業形態	講義																																		
学 年	1	開 講 期	前期																																		
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー																													
					○	○																															
授業の概要と方法	教育心理学とは、学校、家庭、職場等の教育的事象に潜む法則を心理学の方法論を用いて解明する分野である。「保育」は養護と教育が一体となった営みであり、保育を実践していく上で教育心理学的な知識と技術の適用は不可欠である。また、教育心理学を学ぶことは、今日の子どもにかかわる多くの課題に対応するための示唆を得る上でも非常に重要である。																																				
授業の到達目標	①子どもの学習メカニズムや記憶の過程について理解し、効果的な学習指導法についての知識を習得する。 ②子どもの各発達段階に応じた発達論的基礎理論を習得する。 ③教育臨床上の問題や配慮が必要な子どもたちについての基本的な知識を習得する。																																				
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1. 保育と教育心理学</td> <td>教育心理学の領域と保育</td> </tr> <tr> <td>2. 子どもの発達①</td> <td>発達の生物学的基礎～愛着</td> </tr> <tr> <td>3. 子どもの発達②</td> <td>兄弟関係～家族</td> </tr> <tr> <td>4. 学習行動の基礎</td> <td>学習～記憶の仕組み</td> </tr> <tr> <td>5. 学びの動機づけ</td> <td>動機づけとは何か</td> </tr> <tr> <td>6. 知的能力の発達</td> <td>知能とは何か、知能検査</td> </tr> <tr> <td>7. パーソナリティの発達</td> <td>パーソナリティの発達と形成</td> </tr> <tr> <td>8. 教育・保育における評価</td> <td>教育評価とは何か</td> </tr> <tr> <td>9. 小学校とのつながり</td> <td>教科教育とのつながり</td> </tr> <tr> <td>10. 発達障害のある子どもの教育①</td> <td>発達障害児への対応</td> </tr> <tr> <td>11. 発達障害のある子どもの教育②</td> <td>事例からの検討</td> </tr> <tr> <td>12. 保育の中で生かす教育心理学</td> <td>エンカウンター</td> </tr> <tr> <td>13. 家庭ぐるみの教育的支援</td> <td>保護者の役割、 保育者のカウンセリングマインド</td> </tr> <tr> <td>14. 子どもをめぐる教育的問題</td> <td>不登校・不登園～児童虐待</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>							1. 保育と教育心理学	教育心理学の領域と保育	2. 子どもの発達①	発達の生物学的基礎～愛着	3. 子どもの発達②	兄弟関係～家族	4. 学習行動の基礎	学習～記憶の仕組み	5. 学びの動機づけ	動機づけとは何か	6. 知的能力の発達	知能とは何か、知能検査	7. パーソナリティの発達	パーソナリティの発達と形成	8. 教育・保育における評価	教育評価とは何か	9. 小学校とのつながり	教科教育とのつながり	10. 発達障害のある子どもの教育①	発達障害児への対応	11. 発達障害のある子どもの教育②	事例からの検討	12. 保育の中で生かす教育心理学	エンカウンター	13. 家庭ぐるみの教育的支援	保護者の役割、 保育者のカウンセリングマインド	14. 子どもをめぐる教育的問題	不登校・不登園～児童虐待	15. まとめ	
1. 保育と教育心理学	教育心理学の領域と保育																																				
2. 子どもの発達①	発達の生物学的基礎～愛着																																				
3. 子どもの発達②	兄弟関係～家族																																				
4. 学習行動の基礎	学習～記憶の仕組み																																				
5. 学びの動機づけ	動機づけとは何か																																				
6. 知的能力の発達	知能とは何か、知能検査																																				
7. パーソナリティの発達	パーソナリティの発達と形成																																				
8. 教育・保育における評価	教育評価とは何か																																				
9. 小学校とのつながり	教科教育とのつながり																																				
10. 発達障害のある子どもの教育①	発達障害児への対応																																				
11. 発達障害のある子どもの教育②	事例からの検討																																				
12. 保育の中で生かす教育心理学	エンカウンター																																				
13. 家庭ぐるみの教育的支援	保護者の役割、 保育者のカウンセリングマインド																																				
14. 子どもをめぐる教育的問題	不登校・不登園～児童虐待																																				
15. まとめ																																					
成績評価の方法	[評価項目と割合] 定期試験 (70%)、 授業内で提出を求めるミニレポート及びコメントシート (30%)																																				
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをまとめ、語句を暗記するのではなく、理論を理解してもらいます。 ・レポートや課題はありませんが、1時間程度の復習を求めます。 																																				
使用テキスト	使用しない																																				
参考書 (参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に、適宜紹介します。 																																				
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者全体の理解度や到達度により授業内容及び進度が若干前後することがあります。不明な点や質問、もっと知りたい部分があれば積極的に申し出てください。 																																				
教員 e-mail アドレス	yasu.m@hcc.ac.jp																																				

授業科目名	発達心理学 I							
担当者名	毛利 泰剛							
科目コード	2200025	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修 選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
授業の概要と方法	<p>本科目は保育士資格取得のための必修科目である。「発達心理学 I」では、子どもの心理面の発達過程を人格、社会性、遊び、子育てなどの様々な面からの基礎的な理論や体系を学んでいく。また保育士として、子どもの心の理解だけでなく、保護者の気持ちの理解や子育ての助言方法などについても習得していく。</p>							
授業の到達目標	<p>①心理学の観点から、子どもの発達過程を理解する。 ②保育士として子どもの心の変化や発達を見とっていき力をつける。 ③子どもの環境と課題を学び、教育、福祉、家庭など様々な分野からのアプローチを考える。 ④保護者の立場や気持ちを理解し、適切な助言方法を習得する。</p>							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達心理学とは？ 2. 子どもを取り巻く人間関係と文化 3. 子どものパーソナリティの発達① 自己意識と自我の発達 4. 子どものパーソナリティの発達② 達成動機 5. 子どものパーソナリティの発達③ 価値観と性役割 6. 子どもの社会性の発達 道徳性と向社会的行動 7. 遊びの心理・機能 ボディイメージ・運動機能 8. 遊びの発達① 遊びとは何か 9. 遊びの発達② 描画の発達 おもちゃ・漫画・アニメの意味 10. 遊びによる発達支援・演習 遊戯療法の理論から 11. 乳幼児～児童期までの現状と課題 発達の課題と移行対象 12. 保育の現状を考える 小さな哲学者とは？ 13. 心理学理論を使った演習 他領域との比較 14. 乳幼児期の子育て論 子育て支援・保育実習の語り 15. まとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] 定期試験 (60%)、授業中の課題及びコメントシート (40%) なお、授業課題に参加しない者、受講態度が良くない者は評価の対象としない。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・心理学を現場に生かせるかどうかは、子どもをしっかり観察できるかどうかで決まります。基礎的な理論を押さえたうえで、保育実習で実際に子どもをよく観察してきてください。また講義後、ノートを見直し、復習をしてください。</p>							
使用テキスト	<p>使用しない。 ・授業中に資料を配布する。</p>							
参考書 (参考資料等)	○「新・プリマーズ保育心理 発達心理学」無藤隆 他 (ミネルヴァ書房)							
その他 (受講生への要望等)	<p>・授業内で様々な演習課題を行います。積極的な参加を求めます。質問や演習中の発言なども歓迎します。</p>							
教員 e-mail アドレス	yasu.m@hcc.ac.jp							

授業科目名	発達心理学 II																																				
担当者名	毛利 泰剛																																				
科目コード	2200026	授業形態	講義																																		
学 年	2	開 講 期	前期																																		
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー																													
						○																															
授業の概要と方法	「発達心理学II」では、「発達心理学I」で学んだ基礎的な知識の上に立って、特に児童期までの子どもの発達を深く理解することを目指す。また保育現場における事例を取り上げながら、より実践的な内容にも触れる。																																				
授業の到達目標	①子どもの心身の発達の中でも、特に乳児期から児童期までの子どもたちの発達について理解する。 ②保育における子どもの健全な発達支援に関わる知識と対応方法について理解する。																																				
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1. 発達の基礎理論</td> <td>発達とは何か、発達の原理</td> </tr> <tr> <td>2. 胎児期の発達①</td> <td>母親の自覚、胎児期、新生児期の発達</td> </tr> <tr> <td>3. 乳児期の発達①</td> <td>自己の発達、好みの発達</td> </tr> <tr> <td>4. 乳児期の発達②</td> <td>運動機能、ことば、認知機能の発達</td> </tr> <tr> <td>5. 乳児期の発達③</td> <td>他者とのかかわり、愛着</td> </tr> <tr> <td>6. 幼児期の発達①</td> <td>集団生活、遊び</td> </tr> <tr> <td>7. 幼児期の発達②</td> <td>思考の発達、言葉の獲得</td> </tr> <tr> <td>8. 幼児期の発達③</td> <td>仲間関係、就学への準備</td> </tr> <tr> <td>9. 児童期の発達①</td> <td>社会性、動機づけの発達</td> </tr> <tr> <td>10. 児童期の発達②</td> <td>認知機能、パーソナリティの発達</td> </tr> <tr> <td>11. 対人職のための対人関係演習</td> <td>保育士と職場の人間関係</td> </tr> <tr> <td>12. 子どもへの伝え方</td> <td>自分の情報を整理する</td> </tr> <tr> <td>13. 子どもをとりまく心理的問題①</td> <td>発達障害の理解</td> </tr> <tr> <td>14. 子どもをとりまく心理的問題②</td> <td>気になる子の保護者への対応</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>							1. 発達の基礎理論	発達とは何か、発達の原理	2. 胎児期の発達①	母親の自覚、胎児期、新生児期の発達	3. 乳児期の発達①	自己の発達、好みの発達	4. 乳児期の発達②	運動機能、ことば、認知機能の発達	5. 乳児期の発達③	他者とのかかわり、愛着	6. 幼児期の発達①	集団生活、遊び	7. 幼児期の発達②	思考の発達、言葉の獲得	8. 幼児期の発達③	仲間関係、就学への準備	9. 児童期の発達①	社会性、動機づけの発達	10. 児童期の発達②	認知機能、パーソナリティの発達	11. 対人職のための対人関係演習	保育士と職場の人間関係	12. 子どもへの伝え方	自分の情報を整理する	13. 子どもをとりまく心理的問題①	発達障害の理解	14. 子どもをとりまく心理的問題②	気になる子の保護者への対応	15. まとめ	
1. 発達の基礎理論	発達とは何か、発達の原理																																				
2. 胎児期の発達①	母親の自覚、胎児期、新生児期の発達																																				
3. 乳児期の発達①	自己の発達、好みの発達																																				
4. 乳児期の発達②	運動機能、ことば、認知機能の発達																																				
5. 乳児期の発達③	他者とのかかわり、愛着																																				
6. 幼児期の発達①	集団生活、遊び																																				
7. 幼児期の発達②	思考の発達、言葉の獲得																																				
8. 幼児期の発達③	仲間関係、就学への準備																																				
9. 児童期の発達①	社会性、動機づけの発達																																				
10. 児童期の発達②	認知機能、パーソナリティの発達																																				
11. 対人職のための対人関係演習	保育士と職場の人間関係																																				
12. 子どもへの伝え方	自分の情報を整理する																																				
13. 子どもをとりまく心理的問題①	発達障害の理解																																				
14. 子どもをとりまく心理的問題②	気になる子の保護者への対応																																				
15. まとめ																																					
成績評価の方法	[評価項目と割合] 定期試験 (70%)、授業内課題及びコメントシート (30%)																																				
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・実習等で子どもをよく観察しておいてください。気づいたことを授業内で提示してもらい、子どもの心について考える題材とします。																																				
使用テキスト	使用しない																																				
参考書 (参考資料等)	○「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学」岡本依子 他 (新曜社) ○「幼児学用語集」小田豊 他 (北大路書房)																																				
その他 (受講生への要望等)	・単位を取るためではなく、保育者として必要な心理学の知識を身につけたいという姿勢で取り組んでください。																																				
教員 e-mail アドレス	yasu.m@hcc.ac.jp																																				

授業科目名	発達心理学 III							
担当者名	毛利 泰剛							
科目コード	2200027	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	「発達心理学Ⅲ」では、児童期以降の発達に焦点を当てた内容を取り扱う。児童期では、保育を終えた子どもたちがどのような発達をするのかを学び、青年期では、受講者が自分自身を振り返り、自己理解を深める機会として位置づけたい。老年期については、高齢者が抱える問題やこれからの生き方について考えたい。							
授業の到達目標	①一生涯の発達の中でも、特に児童期以降の子どもたちの発達とそれぞれの時期の発達課題や特徴を理解する。 ②保育者としての自己理解を行い、職業人として、大人として、自分らしい生き方について考える。							
授業計画	1. 発達の基礎理論 発達とは何か 2. 児童期の発達① 児童期の発達課題 3. 児童期の発達② 不登校、いじめ 4. 青年期の発達① 思春期、青年期とは何か 5. 青年期の発達② 思春期、青年期の身体とこころ 6. 青年期の発達③ 異界体験を探る 7. 青年期の発達④ 青年期の分析 8. 青年期の発達⑤ 自分とは何か 9. 成人期の発達① 成人期の発達課題、中年期危機 10. 成人期の発達② 大人の発達障害と心の悩み 11. 老年期の発達① 老年期の身体・感覚・認知機能のエイジング 12. 老年期の発達② 老年期における家族と社会 13. 老年期の発達③ 高齢化社会での生き方について考える 14. 老年期の発達④ 老年期の分析 15. まとめ 生きるということ、成長・発達							
成績評価の方法	[評価項目と割合] レポート (50%)、小テスト (30%)、授業内課題 (20%)							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析の課題を行います。詳細は授業中に指示します。 課題後に復習をすること。 							
使用テキスト	使用しない							
参考書 (参考資料等)	○「シリーズ生涯発達心理学⑤ エピソードでつかむ老年心理学」 大川一郎 他 (ミネルヴァ書房) ○「幼児学用語集」小田豊 他 (北大路書房)							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児以外の発達を知ること大切なことです。自分自身の心についても考えてもらえればと思います。 							
教員 e-mail アドレス	yasu.m@hcc.ac.jp							

授業科目名	臨床心理学								
担当者名	松本 明夫								
科目コード	2200028	授業形態	講義						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
						○			
授業の概要と方法	臨床心理学とは、こころの悩みや病を抱える人の心理学的な理解と援助方法を研究し実践する学問である。具体的にはクライアント（来談者）に対して心理アセスメントやカウンセリング等を行う。本講義では心理検査について概説し、子どものこころを理解するための新たな視点を提供したい。さらにカウンセリング技法について概説し、保育現場で出会う「気になる子どもとその保護者」に対する心理的な支援を行う際のヒントを提供したいと考えている。								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理検査の概要について正しく理解することができる。 2. 子どもの心を理解するための新たな視点を得る。 3. カウンセリング技法の概要について理解することができる。 4. 子どもやその保護者に対する心理的な支援を行う際のヒントを得る。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 人格検査(1) 質問紙法 3. 人格検査(2) 投影法 4. 人格検査(3) 描画法 5. 知能検査(1) ビネー法 6. 知能検査(2) ウェクスラー法 7. 発達検査 8. 精神分析 9. 分析心理学 10. 来談者中心療法 11. 行動療法 12. 家族療法 13. 遊戯療法 14. 箱庭療法 15. まとめ 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・コメントシート、期末テストをもとに成績評価を行う。 評価の比率は、コメントシート（50%）、期末テスト（50%）とする。 								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・事後の復習に励んでほしい。 								
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、プリントを配布する。 								
参考書（参考資料等）	特になし								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では心理テストを実施し自らの性格分析を行うなど、体験的に理解が深まるようなワークを設定している。 								
教員 e-mail アドレス	a-matsumoto@knwu.ac.jp								

授業科目名	小児保健 I							
担当者名	井上 和子							
科目コード	2200029	授業形態	講義					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ッ ー
			○			○		
授業の概要と方法	子どもは将来の社会を創り出し、明るい未来につながる可能性を秘め、健全な身体と健全な心を持って発育していく。そのために子どもの保健に関する医学的知識と実践が必要となる。授業はパワーポイントを中心に講義を行い、必要に応じて DVD 学習を行う。							
授業の到達目標	○小児の成長・発達過程・生活・疾病を理解する。 ○医学的側面より小児を理解する。							
授業計画	<p>オリエンテーション：授業の進め方の説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の誕生について DVD 学習し、生命の尊さを学び、レポート提出。 2. 子どもの発育・発達と保健 3. 生理機能の発達と保健 4. 運動機能の発達と保健 5. 健康と病気、異常：免疫について DVD 学習 6. 乳幼児の病気①感染症について（ウイルス・細菌・その他の感染症） 7. 乳幼児の病気②（発育と栄養障害、アレルギー、消化器） 8. 乳幼児の病気③（呼吸器、循環器、泌尿器） 9. 乳幼児の病気④（代謝、内分泌） 10. 乳幼児の病気⑤（運動器、眼・鼻・皮膚） 11. 乳幼児の病気⑥（こころ・精神・神経系、悪性腫瘍、川崎病） 12. 事故と応急処置①（子どもの事故と事故防止） 13. 事故と応急処置②（応急処置について） 14. 感染症と予防接種 15. 前期小児保健のまとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>定期試験（100%）</p> <p>・提出レポートも参考にする。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・各授業項目の事前および事後学習を行うこと。							
使用テキスト	○「子どもの保健」巷野悟郎 編（診断と治療社出版）							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	・講義の内容は、授業中に理解するようにしてください。							
教員 e-mail アドレス	授業終了後 20 分間は、小倉北区キャンパス保健室にて待機。							

授業科目名	小児保健 II								
担当者名	井上 和子								
科目コード	2200030	授業形態	講義						
学 年	1	開 講 期	後期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
			○			○			
授業の概要と方法	子どもは将来の社会を創り出し、明るい未来につながる可能性を秘め、健全な身体と健全な心を持って発育していく。そのために子どもの保健に関する医学的知識と実践が必要となる。授業はパワーポイントを中心に講義を行い、必要に応じて DVD 学習を行う。								
授業の到達目標	・小児の成長、発達過程を理解し、安全な養育および保育が実践できる。								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：授業の進め方の説明、前期試験の解説 等 2. 子ども保健の基本 3. 身体発育の概念 4. 精神機能の発達一言語、情緒、社会性の側面 5. 新生児の特徴と正常、異常について 6. 子どもの食事（発育に必要な栄養について） 7. 子どもの生活環境（日常生活動作の発達過程、遊びを通しての生活環境） 8. 子どもの精神保健（子どもの発達障害や虐待） 9. 環境（日本の環境汚染について NHK 地球データマップの DVD 学習） 10. 保育の多様化①（安全な保育ができるよう健康管理） 11. 保育の多様化②（感染症の取り扱い） 12. 子どもの発達と事故について学び、事故防止のための安全教育 13. 感染症対策および感染拡大防止策について（インフルエンザ、ノロウイルス） 14. 母子保健の動向、母子保健の現状、母子保健行政 15. 児童養護施設の DVD 学習、後期小児保健のまとめ 								
成績評価の方法	[評価項目と割合] 定期試験（100%）								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・前期講義「小児保健 I」の復習を行うこと。								
使用テキスト	○「子どもの保健」巷野悟郎 編（診断と治療社出版）								
参考書（参考資料等）	特になし								
その他 (受講生への要望等)	・講義の内容は、授業中に理解するようにしてください。								
教員 e-mail アドレス	授業終了後 20 分間は、小倉北区キャンパス保健室にて待機。								

授業科目名	小児保健演習							
担当者名	奥川 満子							
科目コード	2200031	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修	レク 必修	認定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	<p>子どもの健康と安全を守り、豊かな心身の発育・発達を助けることは、保護者が行っている毎日の育児の中でなされているが、より専門的な機能は保育士や幼稚園教諭に期待される。そこで、子どもの健康状態を把握し、異常の早期発見や健康教育などについて、実践のできる知識と技術を学ぶことを目的とする。授業は、講義において援助方法の根拠や手順などについて学び、さらに、演習を通して援助方法のあり方を深めていく。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の大切さを理解し、子どもの健やかな成長を手助けすることができる。 2. 健全な子どもを理解し、子どもの保健活動の場を理解することができる。 3. 子どもの特性を理解し、乳幼児期の健康状態を正確に観察・記録ができる。 4. 子どもの疾病を理解し、その予防及び救急時の対応について理解することができる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の健康とは：小児期の分類、健康指針と観察と記録の必要性 2. 形態的成長とその評価：乳幼児に必要な身体計測 3. バイタルサイン（体温・呼吸・脈拍・血圧・意識状態）の意義と測定 4. 精神神経の発達と乳児健診：感覚・運動・情緒・社会性等（母子手帳も含む） 5. 栄養（乳児）：母乳・人工栄養・混合栄養・調乳について 6. 栄養（幼児）：離乳食・食習慣のしつけ方・現在の問題点（偏食・生活習慣病） 7. 排泄：乳幼児のオムツのあて方・幼児のトイレトレーニングの必要性 8. 睡眠：睡眠習慣のしつけ方・乳幼児の抱き方・おんぶひもの使用時の留意点 9. 歯の健康：清潔習慣（手洗い・うがい・歯みがき）のしつけ方 10. 清潔：沐浴の意義と観察の必要性（人形を使用して沐浴を行う） 11. 予防と健康Ⅰ：病気への対応と感染対策について 12. 予防と健康Ⅱ：乳幼児の事故と応急処置・心肺蘇生法について 13. 保育実習を通して…グループワーク 14. 子どもの保健活動の場：保育所・児童養護施設・知的障害施設・乳児院 15. まとめ 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回行う小テスト（10%）、授業態度（10%）、定期試験（80%）などで総合的に評価する。定期試験を最も重視する。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習に関しては、「一人で実施できる」まで事後学習をすること。再指導を希望する場合は、事前に申し込んで下さい。メールでも受け付けます。特にオムツの当て方等。 							
使用テキスト	○「子どもの保健Ⅱ」佐藤益子 編著（ななみ書房）							
参考書（参考資料等）	・授業の中で参考書や資料を紹介する。							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、本授業のガイドラインである。授業の進行状況により変更する場合もある。授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールをすること。但し、提出物は受け付けない。 <p><課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること></p>							
教員 e-mail アドレス	mokgawa@hcc.ac.jp							

授業科目名	子どもの食と栄養							
担当者名	室井 由起子							
科目コード	2200032	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（前期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
			○			○		
授業の概要と方法	<p>人間の食生活の基礎は乳幼児期に形作られ、この時期からの食生活習慣形成能力を高めていくことは不可欠であり、現場で、食育を実施する際、保育士の担う役割は非常に大きい。現場で食育を充実させるうえでの管理栄養士・栄養士・調理士との連携及び、子どもたちの栄養の基本を学び実践できる知識を身につける。</p>							
授業の到達目標	<p>まず、自らの食事に目をむけ、身体をつくる食事の重要性についての認識、健康的に食べるために食品を選べる知識を身につける。 発達段階に応じた食や栄養の特徴を知ること及び、現場での多職種との連携方法を学び実践できるようにする。</p>							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに・・・「子どもの食と栄養」を学ぶ目的 2. 栄養に関する基本的知識①・・・食品の分類、それぞれの機能 3. 栄養に関する基本的知識②・・・三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質） 4. 栄養に関する基本的知識③・・・ビタミン、ミネラル、水分 5. 子どもの食生活の問題 6. 子どもの発育、食べる機能の発達 7. 子どもの消化吸収機能 8. 献立と食品構成、食事バランスガイド 9. 衛生配慮、食の安全について 10. 栄養成分表示 11. 保育所における食育 12. 食育の内容 13. 食育の計画 14. 食育の実践 15. 前期のまとめ、レポートについて 							
成績評価の方法	<p>〔評価項目と割合〕 授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の課題（20%）、レポート（60%）を総合的に判断する。</p>							
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<p>・日常生活の中で、食事に対して興味をもつようにしてください。</p>							
使用テキスト	<p>○「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」 堤ちはる、土井正子 編著（萌文書林）</p>							
参考書（参考資料等）	<p>特になし</p>							
その他（受講生への要望等）	<p>・まず自分の食事をしっかり選んで食べられるようになってください。</p>							
教員 e-mail アドレス	<p>muroi1120@knwu.ac.jp</p>							

授業科目名	子どもの食と栄養							
担当者名	室井 由起子							
科目コード	2200032	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビージャー
			○			○		
授業の概要と方法	人間の食生活の基礎は乳幼児期に形作られ、この時期からの食生活習慣形成能力を高めていくことは不可欠であり、現場で、食育を実施する際、保育士の担う役割は非常に大きい。現場で食育を充実させるうえでの管理栄養士・栄養士・調理士との連携及び、子どもたちの栄養の基本を学び実践できる知識を身につける。							
授業の到達目標	まず、自らの食事に目をむけ、身体をつくる食事の重要性についての認識、健康的に食べるために食品を選べる知識を身につける。発達段階に応じた食や栄養の特徴を知ること及び、現場での多職種との連携方法を学び実践できるようにする。							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期・妊娠期・授乳期の食生活 2. 乳児期の食生活①・・・母乳栄養 3. 乳児期の食生活②・・・人工栄養 4. 乳児期の食生活③・・・離乳、離乳食 5. 乳児期の食生活④・・・ベビーフード 6. 幼児期の食生活①・・・食機能の発達、食事の仕方とマナー 7. 幼児期の食生活②・・・間食、むし歯予防 8. 幼児期の食生活③・・・お弁当、食生活上の問題 9. 学童期・思春期の食生活・・・栄養上の問題 10. 特別な配慮を要する場合①・・・食物アレルギーへの対応 11. 特別な配慮を要する場合②・・・体調不良、疾病への対応 12. 保育所給食／行事食 13. 乳幼児の食事・おやつの計画 14. 乳幼児の食事・おやつの実践 15. まとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取り組み姿勢（20%）、授業中の課題（20%）、定期試験（60%）を総合的に判断する。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・日常生活の中で、食事に対して興味をもつようにしてください。							
使用テキスト	○「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」 堤ちはる、土井正子 編著（萌文書林）							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	・まず自分の食事をしっかり選んで食べられるようになってください。							
教員 e-mail アドレス	muroi1120@knwu.ac.jp							

授業科目名	家庭支援論								
担当者名	竹並 正宏								
科目コード	2200033	授業形態	講義						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択必修	教免必修	保育士 必修	選択	レク必修	認定 ベビシッター
						○			
授業の概要と方法	<p>家庭支援に関する基本的な知識や技術を修得するとともに、演習を通して具体的な保育場面で家族に対してどのような対応や援助を行うべきなのかを考え、子どもや子育てに関する様々な問題が増大し、また多様化、複雑化している。これらの問題の解決は子どもに対するケアだけでは難しく、子どもの家族やその周辺に対してもケアを行うことが求められる。保育士は子どもだけでなく家族に対するケアを行う視点と技術、知識が求められその内容について把握する。</p>								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭支援の仕組みそのものが、さまざまななかかわりの中で機能することを理解し、子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する姿勢が身に付いている。 2. 保育者は子どものみならず個別の家庭環境を考慮して子育て不安や不満といった悩みの解決を図っていかなければならない意志を持ち、自己の責務を果たすことを理解する。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭支援の基礎知識① 保育士と家庭支援、家族の抱える問題とは何か 2. 家庭支援の基礎知識② 地域における子育ての社会資源の基本的視点 3. 家庭支援の基礎知識③ 地域における子育ての社会資源の支援拠点事業 4. 保育所での家庭支援の実際① 面接相談援助①要保護者への対応 5. 保育所での家庭支援の実際② 面接相談援助②さまざまな家庭への支援 6. 保育所での家庭支援の実際③ 面接相談援助③多文化への対応 7. 保育所での家庭支援の実際④ Eメール、連絡帳での相談援助 8. 保育所での家庭支援の実際⑤ グループワークを活用した援助①捉え方 9. 保育所での家庭支援の実際⑥ グループワークを活用した援助②実践方法 10. 保育所での家庭支援の実際⑦ コミュニティワークを活用した援助 11. 虐待事例への対応① 虐待を防止するために 12. 虐待事例への対応② 虐待発見時の対応 13. 障害児の家族への援助① 障害児の家族についての理解 14. 障害児の家族への援助② 障害児の家族への援助 15. ま と め 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回、小テストを行う。 授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を行い、総合的に判断する。 								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・法や相談機関を深く学び、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する姿勢を身に付けることが、保育士にとって重要であることを認識して臨む。 								
使用テキスト	○「保育者が学ぶ家庭支援論」植木信一（建帛社）								
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育や KJ 法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭支援について学ぶことは、家庭を構成する家族メンバーやその相互関係に働きかけ、必要な機能や役割が円滑に果たせるよう、回復できるよう支援する役割を担う保育士にとって重要であることを認識して臨む。 								
教員 e-mail アドレス	takenami@knwu.ac.jp								

授業科目名	教育・保育課程論					
担当者名	前川 公一					
科目コード	2200034	授業形態	講義			
学 年	1	開 講 期	後期			
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修 選 択
					○	○
授業の概要と方法	<p>保育者は、保育の計画のもつ意義を理解し、それを立案する素地的能力を身に付ける必要がある。そこで、具体的な教育課程や保育課程、指導計画をもとに、その園での目的や目標を達成するための内容や編成の仕方などについて、基礎的な理解をするとともに、ワークを通して幼児の発達や生活の特徴に応じた計画立案能力を付けていくことを目指す。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育に計画が必要な理由が理解できる。 2. 教育課程や保育課程についての概念、その編成や展開の仕方等が理解できる。 3. 指導計画及びその種類と作成の基本について理解できる。 4. 幼児の発達や生活の特徴及びその指導計画のあり方を具体的に理解できる。 5. ゲームや手遊び、絵本、製作活動などの部分指導計画が立案できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 教育課程・保育課程の考え方・教育課程とは、教育要領や保育指針 3. 長期の指導計画の考え方・指導計画の作成の手順、指導計画の種類と実際 4. 幼稚園における教育課程・教育課程の編成、教育課程の実際 5. 保育所における保育課程・保育課程の編成、保育課程の実際 6. 保育所の幼児の指導計画・0歳児、1歳児、2歳児の発達と生活の特徴 7. 幼稚園3歳児の指導計画・3歳児の発達と生活の特徴、指導計画の実際 8. 幼稚園4歳児の指導計画・4歳児の発達と生活の特徴、指導計画の実際 9. 幼稚園5歳児の指導計画・5歳児の発達と生活の特徴、指導計画の実際 10. 幼稚園文化祭の計画と実際・計画的保育の理解 11. 指導計画立案過程の理解・ねらいや内容の設定、環境構成 12. 「手遊び」の指導計画の立案・中心となる活動の理解と立案過程のワーク 13. 「絵本」の指導計画の立案・中心となる活動の理解と立案過程のワーク 14. 「製作活動」の指導計画の立案・中心となる活動の理解と立案過程のワーク 15. 教育・保育課程論のまとめ 					
成績評価の方法	<p>・授業への取組み(10%)、レポート(20%)、定期試験(70%)を行い、総合的に評価する。</p>					
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・教科書をもとに事前、事後の学修をし、分からないことを積極的に質問するようにする。</p>					
使用テキスト	<p>○「教育課程保育課程論」河邊貴子 編著（東京書籍）</p>					
参考書（参考資料等）	<p>・授業に関係する参考書は、その都度紹介する。</p>					
その他 (受講生への要望等)	<p>幼児教育について、具体的な指導計画案などの書き方も指導するので、主体的な参加を期待する。教育・保育課程についての知識は、実際に教育・保育を行う際に極めて重要であるので、授業内容を理解するようにする。</p>					
教員 e-mail アドレス	maekawa@hcc.ac.jp					

授業科目名	保育内容総論							
担当者名	梶田 郁子							
科目コード	2200035	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（前期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
			○		○	○		
授業の概要と方法	幼稚園や保育所で行われている生活の内容や、特別に催される園の行事などの保育内容が、どのような保育の目的・目標・ねらいのもとに創造されているか、その拠り所を明確にする。また、目標やねらいを考えられるようにする。さらに、そのねらいを達成する環境や経験、活動の内容について学習する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育要領や保育所保育指針における「目標」や「子どもの発達」「保育内容」を関連付けて保育内容を理解する。 2. 幼稚園教育要領や保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 発達や幼児理解に基づく保育内容のあり方について理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と保育内容（1）保育内容とは何か 2. 保育の基本と保育内容（2）保育の構成と保育内容総論で学ぶこと 3. 幼稚園教育要領と保育内容（1） 幼稚園教育要領の法的位置づけと改訂の柱・領域と総合的活動 4. 幼稚園教育要領と保育内容（2） 幼児教育の特質と保育内容① ねらい及び内容 5. 幼稚園教育要領と保育内容（3） 幼児教育の特質と保育内容② 環境の構成と保育の展開 6. 保育所保育指針と保育内容（1） 保育所保育指針の法的位置づけと保育内容 7. 保育所保育指針と保育内容（2） 保育所保育の特質と保育内容① 養護に関わるねらい及び内容 8. 保育所保育指針と保育内容（3） 保育所保育の特質と保育内容② 教育に関わるねらい及び内容 9. 成熟社会の中の子どもと保育・教育（1）発達の見え方 10. 成熟社会の中の子どもの保育・教育（2） 生きる力としての保育・教育内容 11. 幼児理解と保育内容（1）幼児理解とは 12. 幼児理解と保育内容（2）保護者との連携 13. 幼児理解と保育内容（3）子どもを見る目 14. 幼児理解と保育内容（4）幼児理解と保育の展開 15. まとめ 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は実施する。 <p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取り組み姿勢（30%）、定期試験（70%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を事前に読んでおくと、より理解が容易になる。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○新保育シリーズ「保育内容総論」小田豊、神長美津子、西村重稀 編著（光生館） ○「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） ○「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館） 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進度に応じて、適宜紹介する。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心に授業を進めていくが、必ず毎時間演習をして、考える力を育成するようにする。 ・必ず毎時間参考資料として幼稚園教育要領解説書、保育所保育指針解説書を持参すること。 							
教員 e-mail アドレス	i.masuda@hcc.ac.jp							

授業科目名	保育内容総論							
担当者名	梶田 郁子							
科目コード	2200035	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必 修	教 免 必 修 ○	保 育 士 必 修 ○	レク 必 修	認 定 ベビーカー
授業の概要と方法	前期の学習を基に、保育の基本をふまえた保育内容の展開について、環境や遊びを充実させるための保育者のかかわりなど具体的に学習する。また、保育の計画の考え方を計画の具体例をもとに学習する。さらに、保育内容の変遷、現代における保育内容に関する課題や問題点についても学習する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本である「環境を通して行う教育」や「遊びを通しての総合的指導」「保育の計画」などについて事例を通して具体的に理解する。 2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容についての理解を深める。 3. 保育の多様な展開の現状を知り、保育内容の課題について考える。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境と保育内容（1）幼児の発達と環境 2. 環境と保育内容（2） 環境を通して行う教育① 環境の構成の意味 3. 環境と保育内容（3） 環境を通して行う教育② 環境を構成する視点 4. 遊びと学び（1）幼児にとっての遊び、遊びの中で学んでいること 5. 遊びと学び（2）遊びを通しての総合的指導 6. 遊びと学び（3） 遊びの援助の在り方① 遊びを中心とする教育の在り方と援助 7. 遊びと学び（4） 遊びの援助の在り方② 遊びを学びとして根づかせるために 8. 保育内容と計画（1）幼稚園における教育課程と指導計画の実際 9. 保育内容と計画（2）保育所における保育課程と指導計画の実際 10. 保育内容の変遷（1）戦前の保育内容の変遷 11. 保育内容の変遷（2）戦後の保育内容の変遷 12. 保育内容における現状と課題（1）特色ある保育の問題 13. 保育内容における現状と課題（2） 小学校教育との関連、家庭や地域との関連 14. 保育内容における現状と課題（3）保育者の資質の向上 15. まとめ 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は実施する。 [評価項目と割合] 授業への取組み姿勢（30%）、定期試験（70%）							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を事前に読んでおくと、より理解が容易になる。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○新保育シリーズ「保育内容総論」小田豊、神長美津子、西村重稀 編著（光生館発行） ○「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）、 ○「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館） 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進度に応じて、適宜紹介する。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心に授業を進めていくが、必ず毎時間演習をして、考える力を育成するようにする。 ・必ず毎時間参考資料として幼稚園教育要領解説書、保育所保育指針解説書を持参すること。 							
教員 e-mail アドレス	i.masuda@hcc.ac.jp							

授業科目名	健康（指導法）							
担当者名	木本 節子 ・ 岩橋 敏子							
科目コード	2200036	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修 ○	保 育 士 必修 ○	レク 必修	認定 ベビーカー
授業の概要と方法	<p>子どもを取り巻く環境の変化と共に幼稚園と保育所を中心にいろいろな改革案が内閣府より出され、認定子ども園など社会的な重要課題としてスポットライトを浴びている。その中で平成 21 年度に再度文部科学省・厚生労働省より「教育要領」「保育所指針」が改定された。上記のことを踏まえ学生自身、今何を学ばなければならないのか、何が大事なことなのか、何が起きているのか広い範囲の中で心と体の健康を理解すると共に保育内容「健康」の位置づけを明確にし、健康面における教材・教具の選び方を学び大学祭や保育・教職実践演習に繋がることを理解した上で「生きる力」の素地を培う事の出来る保育者として子ども自ら健康で安全な生活を作り出す力を修得する。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容を理解し「生きる力」の基礎を育む保育者であることの必要性が体得できる。 2. 「健康」の意義について学び、養護と健康の関係の深さを修得できる。 3. 教育要領に位置づけられた、食習慣と食育、特に保育内容（5）について理解し、その指導法について体得できる。 4. 人間が生きていく土台となる基本的生活習慣について理解し、保育現場での指導法について体得できる。 5. 幼時期の心身の発達と特徴について理解できる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「健康」の意義 — 現代社会における人間にとっての健康・養護とは 2. 子どもと健康について — 子どもの生活病理（子どもに及ぼす悪影響） 3. 保育内容「健康」のねらい — 編成と位置づけ 4. 保育内容「健康」の内容① — 「内容」事項及び解説 5. 保育内容「健康」の内容② — 附属幼稚園の事例を挙げながら指導法について学ぶ 6. 保育内容「健康」の内容③ — 附属幼稚園の事例を挙げながら指導法について学ぶ 7. 健康な生活の基礎 — 基本的生活習慣の意義と内容 8. 子どもにとっての運動遊びについて① — 筑紫オリンピック大会準備 9. 子どもにとっての運動遊びについて② — 筑紫オリンピック大会参加 10. 健康と安全（安全マニュアル）① — 安全の意義と安全指導 11. 健康と安全（事例研究）② — 幼児の事故（固定遊具・交通安全・病気への予防） 12. 発達段階に即した遊び及び安全① — グループ研究を行いその関わりについて演習 13. 発達段階に即した遊び② — 子どもの生活と発達における学び・関わりについてグループ研究を行い演習 14. ビデオ鑑賞 — 感想をレポートする 15. まとめ 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にノート、作品などの提出を行い、定期試験を行って総合的に評価します。 ・評価の比率は、授業への取組み姿勢（20%）、提出物（20%）、定期試験（60%） 							
授業外で行うべき学修 （準備学修・事後学修等）	<ol style="list-style-type: none"> ① 附属幼稚園と連携したシラバスの中で、園児たちと行事などを共有することが保育現場での応用力に繋がる。 ② 子どもが育つ環境と社会の変化について自分なりに考えてみてほしい。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） ○『保育内容「健康」』井筒紫乃（圭文社） 							
参考書（参考資料等）	○『附属幼稚園「安全マニュアル」』							
その他 （受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育要領・保育所指針を理解することは保育者になる為の基礎知識です。また、健康の領域は養護と密接な関わりがあり、乳幼児期の発達段階を考慮した保育のあり方をこの授業の中で学んで下さい。 ・授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けて下さい。 							
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。							

授業科目名	人間関係（指導法）							
担当者名	寺本 普見子・竹並 正宏							
科目コード	2200037	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必修 ○	教 免 必 修 ○	保 育 士 必 修 ○	レ ク 必 修 ○	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー ○
授業の概要と方法	<p>人は、お互い支えあって生きていく存在であり、人との結びつき、人間関係の中にこそ認められるといえる。平成 20 年に文部科学省より「幼稚園教育要領」が改訂された。他領域とくらべ、「人間関係」には「生きる力」の育成を中心とした幼児にふさわしい道徳性を目指す位置として「人間関係」が重要な役割を担う領域であることが示されている。自分の力で行動することの充実感を味わう、親しみ、かかわり、愛情、信頼感を持ち、望ましい習慣や態度を身に付けることを「ねらい」とする。子どもの視点から人とのかかわりをとらえ明確にし、生活や遊びを総合的に援助できるような保育士の姿勢を理解するとともに、他領域との関連性の重要さを学ぶ。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「人間関係」に示されている「ねらい」「内容」等について理解する。 2. 領域「人間関係」と他の領域との相互関係を踏まえながら理解する。 3. 子どもの発達の姿と人間関係を理解する。 4. 子どもの視点から人とのかかわりをとらえ、園生活と人間関係を学ぶ。 5. 領域「人間関係」において地域、高齢者とのかかわりを理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、授業内容の説明 2. 保育における「人間関係」の領域のとらえ方 3. 保育における「人間関係」の領域のねらい 4. 保育における「人間関係」の領域の内容の取扱い 5. 保育における「人間関係」の五領域との関連性 6. 子どもの発達と人間関係・・乳幼児の発達を支える人間関係 7. 子どもの発達と人間関係・<家庭、地域、園>子どもを取り巻く人的環境 8. 子どもの発達と人間関係・・人間関係の発展と発達の諸側面 9. 園生活と人間関係・・園生活の構造 10. 園生活と人間関係・・園生活の中で育つ人間関係 11. 園生活と人間関係・・さまざまな保育形態の中で育つ人間関係 12. 地域・高齢者との活動 13. 人間関係がもたらすもの・・・・・グループ研究① 14. 社会性の発達・・・・・グループ研究② 15. ま と め 							
成績評価の方法	・授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を行い、総合的に判断する。							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・毎回の授業内容については教科書を事前に予習しておく。							
使用テキスト	○「演習 保育内容人間関係」田代和美、松村正幸（建帛社） ○「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）							
参考書（参考資料等）	・教科書補足のため、プリント配布する。							
その他 (受講生への要望等)	①授業ファイル（毎回の授業内容を記述）を作成、提出すること。 ②提出物の期日を守ること。 ③授業内容について質問等、対応が必要な学生は授業終了後、あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けること。							
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。							

授業科目名	環境（指導法）																																				
担当者名	高井 真夫																																				
科目コード	2200038	授業形態	演習																																		
学 年	1	開 講 期	後期																																		
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必修 ○	教 免 必修 ○	保 育 士 必修 ○	レ ク 必修 ○	認 定 ベビシッター ○																													
授業の概要と方法	<p>養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくために必要な知識、技術、判断力を習得する。特に、領域「環境」に示されているねらいと内容について、その基本的な考え方を他の領域との相互の関連性を踏まえながら解説し、幼児が好奇心や探究心を持って周囲のさまざまな環境とかかわり、主体的に生活（あそび）を展開できるようにするための具体的な指導法および活動事例などについて学ぶ。</p>																																				
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「環境」に示されている「ねらい」や「内容」等について、その基本的な考え方を理解する。 2. 子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うための領域「環境」に関する多くの活動事例を学び、その指導法について理解する。 3. 保育者として知っておいて欲しい身近な動物、植物及び自然事象などの自然環境や自然科学に関する多くの知識を身に付けることができ、それらに興味、関心を示すことができる。 																																				
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>授業内容全体の説明</td> </tr> <tr> <td>2. 幼児教育(保育)のめざす方向</td> <td>幼児教育(保育)の基本</td> </tr> <tr> <td>3. 領域「環境」の考え方</td> <td>領域「環境」のとらえ方と保育の展開</td> </tr> <tr> <td>4. 領域「環境」のねらい、内容</td> <td>領域「環境」のねらい、内容および内容の取扱い</td> </tr> <tr> <td>5. 幼児の発達と環境の構成</td> <td>幼児の発達、環境の構成および幼児の活動</td> </tr> <tr> <td>6. 植物とのふれあい</td> <td>植物とふれあうことの意義と活動の事例</td> </tr> <tr> <td>7. 動物とのふれあい</td> <td>動物とふれあうことの意義と活動の事例</td> </tr> <tr> <td>8. 物とのふれあい</td> <td>身近な素材とふれあう活動と事例</td> </tr> <tr> <td>9. 遊具・用具とのふれあい</td> <td>用具への親しみと遊具を使って遊ぶ事例</td> </tr> <tr> <td>10. 自然事象とのかかわり 1</td> <td>気象現象にかかわる活動と事例</td> </tr> <tr> <td>11. 自然事象とのかかわり 2</td> <td>季節、天体にかかわる活動と事例</td> </tr> <tr> <td>12. 地域とのかかわり</td> <td>地域の行事および施設にかかわる活動と事例</td> </tr> <tr> <td>13. 情報とのかかわり</td> <td>情報機器、絵本・言語情報にかかわる活動と事例</td> </tr> <tr> <td>14. 数量・図形とのかかわり</td> <td>数量・図形にかかわる活動と事例</td> </tr> <tr> <td>15. ま と め</td> <td></td> </tr> </table>							1. オリエンテーション	授業内容全体の説明	2. 幼児教育(保育)のめざす方向	幼児教育(保育)の基本	3. 領域「環境」の考え方	領域「環境」のとらえ方と保育の展開	4. 領域「環境」のねらい、内容	領域「環境」のねらい、内容および内容の取扱い	5. 幼児の発達と環境の構成	幼児の発達、環境の構成および幼児の活動	6. 植物とのふれあい	植物とふれあうことの意義と活動の事例	7. 動物とのふれあい	動物とふれあうことの意義と活動の事例	8. 物とのふれあい	身近な素材とふれあう活動と事例	9. 遊具・用具とのふれあい	用具への親しみと遊具を使って遊ぶ事例	10. 自然事象とのかかわり 1	気象現象にかかわる活動と事例	11. 自然事象とのかかわり 2	季節、天体にかかわる活動と事例	12. 地域とのかかわり	地域の行事および施設にかかわる活動と事例	13. 情報とのかかわり	情報機器、絵本・言語情報にかかわる活動と事例	14. 数量・図形とのかかわり	数量・図形にかかわる活動と事例	15. ま と め	
1. オリエンテーション	授業内容全体の説明																																				
2. 幼児教育(保育)のめざす方向	幼児教育(保育)の基本																																				
3. 領域「環境」の考え方	領域「環境」のとらえ方と保育の展開																																				
4. 領域「環境」のねらい、内容	領域「環境」のねらい、内容および内容の取扱い																																				
5. 幼児の発達と環境の構成	幼児の発達、環境の構成および幼児の活動																																				
6. 植物とのふれあい	植物とふれあうことの意義と活動の事例																																				
7. 動物とのふれあい	動物とふれあうことの意義と活動の事例																																				
8. 物とのふれあい	身近な素材とふれあう活動と事例																																				
9. 遊具・用具とのふれあい	用具への親しみと遊具を使って遊ぶ事例																																				
10. 自然事象とのかかわり 1	気象現象にかかわる活動と事例																																				
11. 自然事象とのかかわり 2	季節、天体にかかわる活動と事例																																				
12. 地域とのかかわり	地域の行事および施設にかかわる活動と事例																																				
13. 情報とのかかわり	情報機器、絵本・言語情報にかかわる活動と事例																																				
14. 数量・図形とのかかわり	数量・図形にかかわる活動と事例																																				
15. ま と め																																					
成績評価の方法	・授業への参加度(発表、課題提出) (20%)、定期試験成績 (80%) で評価する。																																				
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・授業のはじめに前回の授業内容の復習はするが、領域「環境」の内容が広い範囲にわたるため、毎回の授業内容については、教科書、ノートでその都度確実に理解しておいて欲しい。																																				
使用テキスト	○「新子どもと環境〈理論編〉」奥井智久、芦田宏（三晃書房）																																				
参考書（参考資料等）	○「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） ○「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）																																				
その他 (受講生への要望等)	・教科書に沿って段階的に授業を進めるが、発表、課題提出を課すため欠席すると不利になるので注意すること。																																				
教員 e-mail アドレス	takai@hcc.ac.jp																																				

授業科目名	言葉（指導法）							
担当者名	寺本 普見子							
科目コード	2200039	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修 ○	選 択 必 修	教 免 必 修 ○	保 育 士 必 修 ○	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
授業の概要と方法	<p>「言葉」は、幼児の様々な側面と刺激し合い育ち合うものであり、人と人との関係の中で「心」を大切にすることによって生きるものである。乳幼児がいかに主体的に環境と関わり、生活体験を通しての言葉を自分のものとしていくか、又、いかに言葉を使って自分の気持ちや考えを表現していくのか。つまり「言葉の獲得」を援助する保育者としての立場から考える。教材としての童話・絵本・紙芝居・人形劇等について立体的に授業を進めていき、子どもの言葉の発達と指導法の在り方を学習する。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「言葉」の領域について理解する。 子どもの「言葉」獲得にあたっての発達的な特徴について理解する。 保育における「言葉」に対する援助の実際、及び園行事について理解する。 発達段階別絵本の扱い方を理解する。 言葉獲得のための文化財の活用の仕方を理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 授業内容の説明 保育における「言葉」の領域のとらえ方 保育における「言葉」の領域のねらい、内容の取扱い 保育における「言葉」の五領域との関連性 子どもの「言葉」獲得にあたっての発達的な特徴について 日々の保育を豊かにする園行事の展開 ことばが育つ環境について ことばを豊かにする「ことばあそび」 子どもを育てる言葉の文化財（絵本・素話・紙芝居） 子どもを育てる言葉の文化財（指人形・手遊び） 子どもを育てる言葉の文化財（パネルシアター） 子どもを育てる言葉の文化財（ペープサート） 子どもの言語障害について 保育者の言語感覚について まとめ・到達目標・カルテ作成 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(80%)、授業への取組み姿勢（10%）、提出物（10%）の割合で総合的に評価する 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> 各回の講義にて、準備学習、事後学習について連絡します。 							
使用テキスト	○「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館）							
参考書（参考資料等）	・教科書補足のため、プリント配布							
その他 (受講生への要望等)	<ol style="list-style-type: none"> 授業ファイルを作成（毎回の授業内容を記述、配布した資料を添付）してください。 提出物は期日までに必ず提出してください。 授業内容について質問等、対応が必要な学生には授業終了後、あるいはオフィスアワーを設けて対応します。 							
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。							

授業科目名	表現（指導法）																																											
担当者名	木本 節子																																											
科目コード	2200040	授業形態	演習																																									
学 年	2	開 講 期	前期																																									
単 位 数	1	履 修 方 法	必修 ○	選択 必修	教免 必修 ○	保 育 士 必修 ○	レク 必修	認定 ベビージャー																																				
授業の概要と方法	<p>表現という、音楽、造形的なものとして考えることが多い。しかし本当の意味の表現とは自分の内面的な「こころ」の動きを表出するものであり、その表出も心の育ちの度合いによって異なってくる。その「こころ」の内面を人間の持っているあらゆる手段（書く、描く、歌う、体など）を通して表出することが表現活動である。その子どもの表現活動を豊かにするために保育者自身が豊かな感性を持つことが重要であり、それが子どもの豊かな表現意欲へと繋がってゆくのである。そこで附属幼稚園の生活や遊びの姿を通して子どもたちの心の動きやつぶやきを観察しそれを受容共感したり、見守ったりしながら表現する過程を大切に、自己表現を楽しみ、大学祭・保育教職実践演習との関連性を学ぶ。</p>																																											
授業の到達目標	<p>①領域「表現」のねらいと内容を理解し、キャリア教育・保育教職実践演習との関連性について理解できる。 ②「表現の意義」、保育者の豊かな感性について学び、子どもと感動体験を共有することの大切さを附属幼稚園の保育現場を通して体得しそれを保育に展開する方法を学ぶ。 ③附属幼稚園の行事について理解し事前準備の必要性、教材、教具の選び方や環境構成について理解する。 ④創作絵本の内容を理解し、自分なりの表現活動を楽しむ。 ⑤生活や遊びの連続性を確保し適切な環境を構成することの必要性を理解する。</p>																																											
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1. 領域「表現」とは何か</td> <td>表現と感性について—Aグループ</td> <td>こいのぼり造形活動を共有する</td> </tr> <tr> <td>2. 心身の健康に関する領域「健康」と表現活動</td> <td>—Aグループ</td> <td>こいのぼり交流会に参加</td> </tr> <tr> <td>3. 人とかかわりに関する領域「人間関係」と表現活動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 身近な環境とかかわりに関する領域「環境」と表現活動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 言葉の獲得に関する領域「言葉」と表現活動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 感性と表現に関する領域「表現」と表現活動</td> <td>—Bグループ</td> <td>運動会道具づくり演習</td> </tr> <tr> <td>7. 生活的表現活動</td> <td rowspan="2">} 領域「表現」の位置づけを具体化する。</td> <td rowspan="2">—Bグループ 運動会リハーサル参加 ・(6月)運動会参加</td> </tr> <tr> <td>8. 創作的表現活動</td> </tr> <tr> <td>9. 創作絵本（一本のすももの木）を黙読したり、他者（園児）へ読み聞かせをする。</td> <td rowspan="2">—Cグループ 誕生会準備・参加 —Dグループ 学園内のすももの木</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>10. 一本のすももの木を通して五領域の関連性について学ぶ (総合的指導)</td> </tr> <tr> <td>11. 感性と創造性を育む表現 ①表現を豊かにする環境と援助 ②季節と表現活動 (体の動き、うた、弾く、演じるなど)</td> <td></td> <td>公開保育を通して活動と展開方法を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>12. アクティブラーニングを立案</td> <td rowspan="3"></td> <td rowspan="3">自分達で制作した作品を活用して表現活動へつなげていくことにより他の授業との関連性を学ぶ (附属幼稚園園児参加)</td> </tr> <tr> <td>13. アクティブラーニングを計画</td> </tr> <tr> <td>14. アクティブラーニングを実施（発表）</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ・ 到達目標・カルテ作成</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							1. 領域「表現」とは何か	表現と感性について—Aグループ	こいのぼり造形活動を共有する	2. 心身の健康に関する領域「健康」と表現活動	—Aグループ	こいのぼり交流会に参加	3. 人とかかわりに関する領域「人間関係」と表現活動			4. 身近な環境とかかわりに関する領域「環境」と表現活動			5. 言葉の獲得に関する領域「言葉」と表現活動			6. 感性と表現に関する領域「表現」と表現活動	—Bグループ	運動会道具づくり演習	7. 生活的表現活動	} 領域「表現」の位置づけを具体化する。	—Bグループ 運動会リハーサル参加 ・(6月)運動会参加	8. 創作的表現活動	9. 創作絵本（一本のすももの木）を黙読したり、他者（園児）へ読み聞かせをする。	—Cグループ 誕生会準備・参加 —Dグループ 学園内のすももの木		10. 一本のすももの木を通して五領域の関連性について学ぶ (総合的指導)	11. 感性と創造性を育む表現 ①表現を豊かにする環境と援助 ②季節と表現活動 (体の動き、うた、弾く、演じるなど)		公開保育を通して活動と展開方法を学ぶ	12. アクティブラーニングを立案		自分達で制作した作品を活用して表現活動へつなげていくことにより他の授業との関連性を学ぶ (附属幼稚園園児参加)	13. アクティブラーニングを計画	14. アクティブラーニングを実施（発表）	15. まとめ・ 到達目標・カルテ作成		
1. 領域「表現」とは何か	表現と感性について—Aグループ	こいのぼり造形活動を共有する																																										
2. 心身の健康に関する領域「健康」と表現活動	—Aグループ	こいのぼり交流会に参加																																										
3. 人とかかわりに関する領域「人間関係」と表現活動																																												
4. 身近な環境とかかわりに関する領域「環境」と表現活動																																												
5. 言葉の獲得に関する領域「言葉」と表現活動																																												
6. 感性と表現に関する領域「表現」と表現活動	—Bグループ	運動会道具づくり演習																																										
7. 生活的表現活動	} 領域「表現」の位置づけを具体化する。	—Bグループ 運動会リハーサル参加 ・(6月)運動会参加																																										
8. 創作的表現活動																																												
9. 創作絵本（一本のすももの木）を黙読したり、他者（園児）へ読み聞かせをする。	—Cグループ 誕生会準備・参加 —Dグループ 学園内のすももの木																																											
10. 一本のすももの木を通して五領域の関連性について学ぶ (総合的指導)																																												
11. 感性と創造性を育む表現 ①表現を豊かにする環境と援助 ②季節と表現活動 (体の動き、うた、弾く、演じるなど)		公開保育を通して活動と展開方法を学ぶ																																										
12. アクティブラーニングを立案		自分達で制作した作品を活用して表現活動へつなげていくことにより他の授業との関連性を学ぶ (附属幼稚園園児参加)																																										
13. アクティブラーニングを計画																																												
14. アクティブラーニングを実施（発表）																																												
15. まとめ・ 到達目標・カルテ作成																																												
成績評価の方法	<p>・レポート 作品提出 研究発表など [評価項目と割合] 授業への取組み姿勢 (20%)、小テスト (10%)、レポート (10%)、定期試験 (60%)</p>																																											
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>①附属幼稚園と連携を密にしたシラバスの中で、公開保育などを通して園児と表現活動や行事などを共有することが保育現場での応用力につながる。 ②表現力を身につけるためには、感動体験が不可欠である。幼い頃の感動した絵本や心に残った原体験などをまとめて授業に臨んでほしい。</p>																																											
使用テキスト	○「みんなおともだち」木本節子 著																																											
参考書（参考資料等）	○「幼稚園教育要領」文部科学省 ○「保育所保育指針」厚生労働省																																											
その他 (受講生への要望等)	・授業内容について理解不足の学生は授業終了後の合間、あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けること。																																											
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。																																											

授業科目名	保育内容（子どもと環境）								
担当者名	富永 睦子								
科目コード	2200041	授業形態	演習						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 選 択 必 修	保 育 士		レク 必 修	認 定 ベビーカー
					○		○		
授業の概要と方法	子どもたちが環境にどの様に関わり、その関わりが領域「環境」の内容に示されている具体的な経験として積み重ねる為に、「何が必要か、何を保障し、支えなければならないか」等、環境の捉えに対する感性や、環境構成、援助について考える力を養う。								
授業の到達目標	<p>①身近な環境が、子どもの育ちや学びにどんな意味を持っているか、環境の重要性を理解する。</p> <p>②環境と体験学習との関係や、子どもの豊かで多様な経験を支える為に、保育環境をどう捉え、活動を実践していくか、具体的事例を基に視点と理解を深める。</p>								
授業計画	1. 環境による教育で幼児期に育てておくべきものについて								
	2. 保育環境の中に埋め込まれている学びや芽生えの捉え								
	3. 環境を活かす為の指導計画の視点								
	4. ◇春の季節を活かす								
	5. ・風との出会い（まわる、転がる、とぶ、揺れる、膨らむ）草花を活かす（作る、染める）								
	6. ・施設を活かす（砂場、段差、フェンス、ブロック塀、遊具）								
	7. ◇夏の季節を活かす								
	8. ・雨や水との出会い（集める、音や色作り、泡あそび、スポンジを使って）								
	9. ・カタツムリ、オタマジャクシとの出会い／新聞紙の特徴を活かす								
	10. ◇秋の季節を活かす								
	11. 秋の自然物との出会わせ方と環境構成（落葉、実、ススキ、イモのつる）								
	12. クリスマス（材料を工夫して利用する／ごっこあそび）								
	13. ◇冬の環境を活かす								
	14. ・お正月をテーマに（廻るものに着目／伝統文化を知る）								
	15. ・冬の自然環境の不思議さとおもしろさへの出会い／節分・ひなまつりを楽しむ）								
成績評価の方法	<p>・ノート、レポートを提出させ総合的に評価する。</p> <p>〔評価項目と割合〕 ノート(60%)、レポート(40%)</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・各回の講義にて、事後学修等について連絡をします。								
使用テキスト	使用しない								
参考書（参考資料等）	特になし								
その他 (受講生への要望等)	・子どもが自ら環境に働きかけ、意欲的に活動し、好奇心や探究心を膨らませていく様な「身近な環境への出会わせ方や活かし方」を具体的に学んでほしい。								
教員 e-mail アドレス	講義開始 10 分前と終了後 10 分間は、2 号館 4 階非常勤講師室にて対応。								

授業科目名	保育内容（子どもの生活と遊び）								
担当者名	富永 睦子								
科目コード	2200042	授業形態	演習						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 選 択 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ー ジ ン ン ン ン ン ン ン
					○		○		
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちに関わる「生活と遊び」の意味や本質に関する知識を深める ・子どもの思いや願いを捉え、遊びの体験の中に五領域のねらいを相互に関連させながら、総合的活動を展開していく方法を学ぶ。 								
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの「生活の自立と生活指導の重要性」について理解する。 ②子どもにとっての「遊びの意味」や「教育的意義」について理解する。 ③子どもは遊びを通して、どんな学びや芽生えのきっかけを手に入れているか、遊びの発達段階、課題、展開、援助について実践例を基に理解する。 								
授業計画	1. 子どもと生活	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちと生活の関係、生活指導の目的と重要性の理解 ・園生活の中にある生活指導場面、年齢別の援助、課題の捉え 							
	2. 子どもと遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的指導の為の計画、具体的活動展開、援助の方法 							
	4. ◇春の季節を活かす								
	5. ・風の力をあそびにつなげて、光と影のあそび、こいのぼりと運動あそび								
	6. ・チューリップを使って（葉、花、球根）／朝顔の栽培の中で「気付く」「知る」								
	7. ◇夏の季節を活かす								
	8. ・雨や水を活かして（色、音、集める方法）／カタツムリの飼育で学ぶ（生態、命、作る）								
	9. ・スポンジの特徴を活かして／砂や石を使って大きな顔と口を作ろう								
	10. ◇秋の季節を活かす								
	11. ・木の葉、実を活かした遊び（色、量、形、命）／おひさまの不思議								
	12. ・クリスマスをテーマに（ごっこあそびへの展開／材料を工夫する製作）								
	13. ◇冬の季節を活かす								
	14. ・お正月をテーマに（廻るに着目、文字や数への興味、伝統文化を知る）								
	15. ・雪、氷との出会い／節分、ひなまつりの遊びの展開								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、レポートを提出させ総合的に評価する。 [評価項目と割合] ノート(60%)、レポート(40%)								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義にて、事後学修等について連絡をします。 								
使用テキスト	使用しない								
参考書（参考資料等）	特になし								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちに必要な多くのことが埋め込まれている遊びを、単にマニュアルとして知るのではなく、「何がどう育つか、育てるか」を総合的活動の実践例を通して読み取ってもらいたい。 								
教員 e-mail アドレス	講義開始 10 分前と終了後 10 分間は、2 号館 4 階非常勤講師室にて対応。								

授業科目名	保育内容（子どもの文化と表現）								
担当者名	福田 美香								
科目コード	2200043	授業形態	演習						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 選 択 必 修	保 育 士		レク 必 修	認 定 ベビーカー
					○	必 修	選 択		
授業の概要と方法	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの日々の生活を通して様々な文化を提供出来る保育者はその子ども達が五感を働かせ生き生きと夢中になれる楽しい時間と空間を創りだし、豊かな感性を育むことができる。 現場で役立つ演習、授業を通して保育者としての喜びや楽しさ、期待感、使命感をもたせたい。 								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童文化財の内容を知り、その教育的意義がわかる。 ② 保育における子どもの発達に合わせた児童文化財の活用方法や指導法を理解する。 ③ 児童文化財を教材として作成し、現場で役立つ指導法を体得しながらスキルアップを目指す。 								
授業計画	1. 子どもの文化の歴史と教育的意義及び現状について								
	2. 子どもの発達と文化財について								
	3. 伝承あそびの実践と指導法（お手玉作りなど）								
	4. 保育に生かす教材作り ①ネームプレート作り								
	5. // ②壁面構成作り								
	6. // ③廃品利用のおもちゃ作り								
	7. 感性を育てる教材作り ①紙芝居作り ○テーマ決め、ストーリー構成								
	8. // ○製作								
	9. // ○指導法、演習発表								
	10. // ②エプロンシアター作り ○テーマ決め、製作法調べ								
	11. // ○エプロン製作								
	12. // ○人形製作								
	13. // ○制作～完成								
	14. // ○まとめと講評								
	15. // ○指導案、演習発表								
成績評価の方法	・授業、演習態度、作成した教材の提出などを総合的に加味して判断する。								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・各回の講義にて、事後学修等について連絡をする。								
使用テキスト	・授業に応じ、毎回資料を作成し配布する。								
参考書（参考資料等）	・大学図書館での関連資料を活用する。								
その他 (受講生への要望等)	・製作に必要な材料は事前に準備し、当日必ず携帯して臨むこと。								
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。								

授業科目名	乳児保育 I							
担当者名	早川 とも子							
科目コード	2200044	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
						○		
授業の概要と方法	近年、乳児の保育・子育て支援が社会的に要求され「乳児保育」の充実が求められてきている。乳児が心身共に健全に発育するために保育者として乳児の生活の支援、援助、配慮のあり方を理論的、具体的に学ぶ。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の誕生を喜び、乳児の発達過程を理解し、保育することに喜びを持つ。 2. 乳児保育の役割と機能、乳児への適切な支援、配慮する方法を理解する。 3. 乳児の基本的信頼関係を育み、母子関係、愛着関係の大切さを理解する。 4. 乳児や家庭を取り巻く現状を把握し、保護者とのパートナーシップの大切さを考える。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育とは何か。児童福祉法、制度を理解する。 2. 乳児保育とは何か。「人間発達における乳児期の意味」について理解する。(DVD 視聴、グループ討議) 3. 「赤ちゃんの生後1年間の驚くべき能力」DVD 視聴を通して理解する。 4. 愛着関係と自我の育ち、人とかかわることの大切さを理解する。レポート作成 5. 現代の親の特徴と子育て支援の方向性を理解する。 6. 6ヶ月未満児の身体機能を学ぶ。 7. 6ヶ月未満児の生活(授乳、排泄、睡眠機能)を学び、配慮、援助を理解する。(人形を使用して、授乳、オムツ換えの演習) 8. 6ヶ月未満の言葉の発生、人とかかわりを学び、配慮、援助、環境構成について理解する。 9. 6ヶ月児～1歳3ヶ月児の身体機能の発達を学ぶ。 10. 6ヶ月児～1歳3ヶ月児の生活(離乳、排泄、睡眠機能)を学び、配慮、援助、環境構成について理解する。 11. 6ヶ月児～1歳3ヶ月児の人とかかわり(言葉、社会性)を学び、配慮、援助環境構成について理解する。 12. 誕生から1歳3ヶ月児の発達を促す遊びを学ぶ。(わらべうた、絵本) 13. 乳児の発達を促す手作りおもちゃ作成 14. 集団生活の中で病気や配慮点、安全について理解する。 15. 保育所を中心とした子どもの育ちをめぐる連携を理解する。(事例研究) 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢毎の発達表を作成(2回)、レポート、期末テストを行い評価する。 [評価項目と割合] 授業への取組み(10%)、レポート・発達表(20%)、期末テスト(60%)、提出物(10%) 							
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成時に、関係者からの聞き取りを行っておくこと。 ・年齢毎の発達、配慮、援助の授業終了時、事後学修として、「発達表」を作成すること。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「改訂 新・乳児の生活と保育」 松本園子 編著(ななみ書房) ・補足資料を配布予定。 							
参考書(参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ○「演習 乳児保育の基本」阿部和子(萌文書林) ○「新保育講座14 乳児保育」(ミネルヴァ書房) ○「乳児保育の実践 子育て支援」(ミネルヴァ書房) ○DVD「現代心理学 発達と支援」 							
その他(受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・提出の期日を守ること。 							
教員 e-mail アドレス	質問等、対応が必要な時、授業終了後10分間は2号館4階非常勤講師室にて待機。							

授業科目名	乳児保育 II							
担当者名	早川 とも子							
科目コード	2200045	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修	レク 必修	認定 ベビージャー
						○		
授業の概要と方法	近年、乳児の保育・子育て支援が社会的に要求され「乳児保育」の充実が求められてきている。乳児が心身共に健全に発育するために保育者として乳児の生活の支援、援助、配慮のあり方を理論的、具体的に学ぶ。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「人」の誕生の重さを理解し、保育することに喜びを感じる。 2. 乳児の発達の道筋を理解し、適切な配慮、援助する方法を理解する。 3. 乳児保育を保育課程から指導計画を立案することを学ぶ。 4. 保育の記録、反省、評価することを理解し、保育に生かすことを知る。 5. 乳児や家庭を取り巻く現状を把握し、保護者とのパートナーシップの大切さを考える 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1歳3ヶ月児～2歳児の身体機能の発達を学ぶ。 2. 1歳3ヶ月児～2歳児の生活（食事、排泄、睡眠機能）学び、配慮、援助を理解する。 3. 1歳3ヶ月児～2歳児の人とのかかわり（言葉、社会性）を学び、配慮、援助、環境構成を理解する。 4. 1歳児の発達を促す遊びを学ぶ。（わらべうた、文学遊び、絵本） 5. 2歳児の身体機能の発達を学ぶ。 6. 2歳児の生活（食事、排泄、睡眠機能）を学び、配慮、援助を理解する。 7. 2歳児の人とのかかわり（言葉、社会性）を学び、配慮、援助、環境構成を理解する。 8. 2歳児の発達を促す遊びを学ぶ。（わらべうた、文学遊び、絵本、ごっこ遊び） 9. 乳児の発達、その特質を現場の乳児の姿を通して理解する。 10. 保育指針より乳児保育を学ぶ。 11. 保育計画（保育課程から指導計画作成するための観点、要点を学ぶ） 12. 記録、反省、評価について（次の保育に生かす方法を学ぶ） 13. 保育所での保育と乳児院での養護との違いについて理解する。 14. 保護者と信頼関係を築く子育て支援の在り方を理解する。 15. 乳児と生活を共にする保育者の役割を学ぶ。 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢毎の発達表を作成（2回）、期末テスト、授業態度を評価する。 [評価項目と割合] 発達票（25%）、期末テスト（60%）、授業態度（15%）とする。 							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢毎の発達、配慮、援助の授業終了時、事後学修として、「発達表」を作成すること。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「改訂 新・乳児の生活と保育」松本園子 編著（ななみ書房） ・授業中に適宜、資料を配布する。 ・DVD 「保育指針」を視聴する。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「演習 乳児保育の基本」阿部和子（萌文書房） ○「新保育講座 14 乳児保育」（ミネルヴァ書房） 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達個人差があることを認識し、発達に伴う、配慮、援助を意識して学ぶように。 							
教員 e-mail アドレス	質問等、対応が必要な時、授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。							

授業科目名	障害児保育 I								
担当者名	水江 富美子								
科目コード	2200046	授業形態	演習						
学 年	1	開 講 期	前期						
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
授業の概要と方法	障害児保育について、幅広く基本を学び、気になる子どもや、障害のある子どもの状態を理解する。また、保育の在り方や、個別のニーズに応じた支援方法を学ぶ。								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な障害についての知識の習得。 2. 障害児保育の歴史を知り、現在の障害児保育の流れを知る。 3. 統合保育の現場での関わり方や、保育士の役割の基本を知る。 4. 行動の背景やコミュニケーションについて事例を検討する。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 統合保育の歴史 3. 障害の理解 ①障害の分類 4. 障害の理解 ②障害とその特性 5. 発達障害とは 6. 統合保育の現状 7. 統合保育に必要な視点および基本的な考え方 8. 統合保育の場でよく起こっていること 9. 保育所・幼稚園で陥りやすい関わり方 10. 統合保育を進める上での保育士の役割、関わりのポイント 11. 子どもの得意・不得意 12. 統合保育の場でできる援助とは：環境 13. 統合保育の場でできる援助とは：視覚支援 14. 専門的指導法 15. まとめ 								
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取組み姿勢(30%)、定期試験(70%)</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。								
使用テキスト	○「保育における特別支援」竹田契一 監修（日本文化科学社）								
参考書（参考資料等）	・講義中に適宜、資料を配布する。								
その他 (受講生への要望等)	・いろいろなメディアで障害について発信されていることに、関心をもって欲しい。 ※授業に使うことがあるので、レポート用紙を準備すること。								
教員 e-mail アドレス	授業終了後 10 分間は、2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。								

授業科目名	障害児保育 II							
担当者名	水江 富美子							
科目コード	2200047	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
						○		
授業の概要と方法	「障害児保育 I」での基本をベースに、「障害児保育 II」は具体的な支援方法について学ぶ。ビデオを視聴して分析をしたり、視覚支援教材を作成したりする。また、事例の検討を継続的に行う。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例の検討を通して、様々な行動に対応できるようになる。 2. 子どもを肯定的に受け入れ、子どもの視点に立って考えられる保育士を目指す。 3. 保育実習で、気になる子どもとの出会いの中で、学んだことを活かす。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 気になる行動（行動問題）への対応 2. 日常保育への参加の支援 3. 個別の関わり：生活の支援 ①排泄・着脱・食事 4. 個別の関わり：生活の支援 ②課題分析 5. 環境の設定と視覚支援・手順書の作成 6. 行事への参加 7. ことばやコミュニケーションの支援 ①コミュニケーションの原則 8. ことばやコミュニケーションの支援 ②支援の必要性 9. ことばやコミュニケーションの支援 ③支援の方法 10. 遊びの支援 11. 造形の支援 12. 行動観察 13. 個別指導計画の立て方 14. 保護者支援、学校・専門機関・医療機関との連携 15. まとめ 							
成績評価の方法	[評価項目と割合] 授業への取組み姿勢(30%)、定期試験(70%)							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・各回の講義にて、事後学習等について連絡をする。							
使用テキスト	○「保育における特別支援」竹田契一 監修（日本文化科学社）							
参考書（参考資料等）	・講義中に適宜、資料を配布する。							
その他 (受講生への要望等)	・いろいろなメディアで障害について発信されていることに、関心をもって欲しい。 ※授業に使うことがあるので、レポート用紙を準備すること。							
教員 e-mail アドレス	授業終了後 10 分間は、2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。							

授業科目名	社会的養護内容							
担当者名	竹並 正宏							
科目コード	2200048	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビシッター
						○		
授業の概要と方法	里親制度や児童福祉施設（特に児童養護施設、乳児院、障害児施設、児童自立支援施設など）の目的と機能、用いられる援助技術および現状と課題を理解するとともに、子どもとその家族を支えるための様々な機関等の理解や連携の必要性と方法について理解を深める。また児童養護及び里親家庭における児童養護の制度や援助内容について把握する。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についての姿勢が身に付いている。 2. 児童福祉法に触れながら、個々の児童に応じた支援計画を作成して、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について身に付いている。 3. 目標を定め実施のための計画を立て、ソーシャルワークの方法と技術について適切に行動することができる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童養護とは・・・児童養護の概念を理解する 2. 児童養護の理念、原則、方法・技術①児童養護の理念、原則について理解する 3. 児童養護の理念、原則、方法・技術②児童養護の方法について理解する 4. 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護①里親制度の概要について理解する 5. 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護②里親制度の現状について理解する 6. 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護③乳児院について理解する 7. 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護④児童養護施設の概要について理解する 8. 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護⑤児童養護施設の現状について理解する 9. 家庭・家族に困難をもつ子どもの養護⑥母子生活支援施設について理解する 10. 子どもの養護①知的障害児施設、自閉症児施設について理解する 11. 子どもの養護②肢体不自由児施設、重症心身障害児施設について理解する 12. 子どもの養護③心身の発達に援助を求める地域療育システムについて理解する 13. 子どもへの援助と養護①情緒障害や非行のある子どもの特徴についての理解 14. 子どもへの援助と養護②情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設の援助理解 15. ま と め 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に数回、小テストを行う。 <p>[評価項目と割合] 授業態度（30%）、レポート（20%）、定期試験（50%）を行い、総合的に判断する。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉の目的や状況に応じた適切な言動をとることができる姿勢を身に付けることが、保育士にとって重要であることを認識して予習及び復習に取り組む。 							
使用テキスト	○「子どもの養護－社会的養護の原理と内容－」松本峰雄（建帛社）							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布して重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育やKJ法を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護内容を通して、家庭支援、児童家庭福祉の目的や状況に応じた適切な言動をとることができ、身に付くことを認識して臨むこと。 							
教員 e-mail アドレス	takenami@knwu.ac.jp							

授業科目名	保育相談支援							
担当者名	山下 薫子 ・ 早川 とも子							
科目コード	2200049	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	後期					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修	レク 必修	認定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	<p>子育て中の母親の孤立、子育て経験の不足や悩み、不安を抱える親を支える身近な家族、地域力の弱体化する中、子どもと子育て家族を取り巻く環境の変化が著しい。そこで、保育士の専門性をいかした保護者支援の在り方を理論的、具体的に事例を通じて、内容や方法を学ぶ。</p> <p>更に、地域の専門機関、関係機関との連携を図り、支援活動の役割、機能を理解する。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者支援の意義と原則について理解する。 2. 保護者支援の基本を理解する。 3. 保護者相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 4. 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て、子育ての現状及び子育て（保護者）支援の理念への理解 2. 保育士の特性と専門性を生かした保護者支援の視点（事例研究） 3. 保育士資格の法制化と保育士の課題（DVD 視聴） 4. 子ども・家庭福祉の理念・サービスと保育士の位置関係（子どもの最善の利益と福祉の重視） 5. 保育指導の意義と基本視点（手作り絵本作成） 6. 信頼関係を基本とした保育相談支援と保育ソーシャルワーク 7. 地域の資源活用と関係機関との連携・協力（DVD 視聴） 8. 保育支援を必要とする保護者への対応（事例研究・グループ討議） 9. 求められる保護者支援の内容、方法（事例研究） 10. 保護者支援の展開過程と基本技術構造 11. 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス 12. 保育所（園）における保育相談 13. 保育所（園）における特別な対応を必要とする家庭への支援（グループ討議） 14. 児童擁護施設等要保護児童の家庭に対する支援（DVD 視聴 事例研究 ・グループ討議） 15. 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援（DVD 視聴 事例研究・グループ討議） 							
成績評価の方法	<p>・小テスト、レポート、提出物、期末テストを行い評価する。 <small>[評価項目と割合]</small> 授業への取組み（15%）、期末テスト（50%）、小テスト（10%）、レポート（10%）、提出物（15%）</p>							
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<p>・レポート作成にあたって事前勉強をしておくこと。</p>							
使用テキスト	<p>○「保育相談支援」柏女霊峰、橋本真紀 編著（ミネルヴァ書房） ・授業中に適宜、資料配布する。</p>							
参考書（参考資料等）	<p>○「保育者の保護者支援」柏女霊峰、橋本真紀（フレーベル館） ○「保護者支援（スキルアップ講座）」柏女霊峰、西村真実（ひかりのくに社） ○「保育の友 園と家庭をつなぐコミュニケーション事例集」（全国社会福祉協議会）</p>							
その他（受講生への要望等）	<ol style="list-style-type: none"> ① 手作り絵本の材料準備をすること。 ② 提出物の期日を守ること。 							
教員 e-mail アドレス	授業終了後 10 分間は 2 号館 4 階非常勤講師室にて待機。							

授業科目名	保育実習 I					
担当者名	岩橋 敏子・藤岡 良幸					
科目コード	2200050	授業形態	実習			
学 年	1年—2年	開 講 期	後期（1年）—前期（2年）			
単 位 数	4	履 修 方 法	必修	選択必修	教免必修	保育士 必修 選択
						レク必修
					○	○
授業の概要と方法	<p>保育士は、保育所や児童養護施設等の社会的な役割を具体的に理解した上で、子どもの観察や関わりを通してより一層理解を深めていくことが求められるため、既習の教科の内容を踏まえ、子どもや保護者への支援についても総合的に学ばなければならない。この授業の中で、保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学んだ上で、保育士としての役割や職業人としての倫理観についての素地を習得することによって、学内での行事や保育・教職実践演習へのつながりを学ぶ。</p>					
授業の到達目標	<p>○保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ○観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。 ○既習の教科の内容を踏まえて、子どもに対する保育や保護者への支援の在り方などを学ぶ。 ○保育の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に理解する。 ○保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</p>					
授業計画	(保育所実習内容)		(施設実習内容)			
	1. 保育所の役割と機能についての理解① ～保育所の生活と1日の流れ	1. 施設の役割と機能についての理解① ～施設の生活と1日の流れ				
	2. 保育所の役割と機能についての理解② ～保育所保育指針の理解と保育の展開	2. 施設の役割と機能についての理解② ～施設の役割と機能				
	3. 子ども理解① ～子どもの観察とその記録による理解	3. 子ども理解① ～子どもの観察とその記録による理解				
	4. 子ども理解② ～子どもの発達段階の理解（0・1・2歳児）	4. 子ども理解② ～個々の状態に応じた援助や関わり				
	5. 子ども理解③ ～子どもの発達段階の理解（3・4・5歳児）	5. 養護内容・生活環境の理解と学習① ～計画に基づく活動や援助				
	6. 子ども理解④ ～子どもへの援助や関わり	6. 養護内容・生活環境の理解と学習② ～子どもの心身の状態に応じた対応				
	7. 保育内容・保育環境についての理解と学習① ～保育計画に基づく保育内容	7. 養護内容・生活環境の理解と学習③ ～子どもの活動と生活の環境				
	8. 保育内容・保育環境についての理解と学習② ～子どもの発達段階に応じた保育内容	8. 養護内容・生活環境の理解と学習④ ～健康管理・安全対策の理解				
	9. 保育内容・保育環境についての理解と学習③ ～子どもの生活や遊びと保育環境	9. 計画と記録についての理解① ～支援計画の理解と活用				
	10. 保育内容・保育環境についての理解と学習④ ～子どもの健康と安全	10. 計画と記録についての理解② ～記録に基づく省察・自己評価				
	11. 保育の計画、観察、記録についての理解① ～保育過程と指導計画の理解と活用	11. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 についての理解と学習①～保育士の業務内容				
	12. 保育の計画、観察、記録についての理解② ～記録に基づく省察・自己評価	12. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 についての理解と学習②～職員間の役割分担や連携				
	13. 専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習① ～保育士の業務内容	13. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 についての理解と学習③ ～保育士の役割と職業倫理				
	14. 専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習② ～職員間の役割分担や連携	14. 実習の心得				
	15. 専門職としての保育士の役割と職業人としての倫理についての理解と学習③ ～保育士の役割と職業倫理	15. まとめ				
成績評価の方法	<p>・実習先からの評価表・実習記録・提出物（80%）、 オリエンテーション記録を含むレポート提出（20%）</p>					

授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。
使用テキスト	○「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学 ・参考資料随時配布
参考書（参考資料等）	特になし
その他 (受講生への要望等)	1. 保育所・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導Ⅰ」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導する。
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp（藤岡）、t0106h0730@hcc.ac.jp（岩橋）

授業科目名	保育実習指導 I							
担当者名	岩橋 敏子・藤岡 良幸							
科目コード	2200051	授業形態	演習					
学 年	1	開 講 期	後期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レ ク 必 修	認 定 ベ ビー シ ャ ー
						○		○
授業の概要と方法	<p>学外で保育実習を受けるには、保育実習の意義・目的・実習内容を理解した上で保育者として自らの課題を明確にしていくことが求められる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務については必ず遵守しないといけないものである。学生は、実習の計画、観察、記録、自己評価を行うとともに、事前事後指導を通して実習の総括を行う。その上で、自分の新たな課題を明確にしていける保育者としての素地を習得する。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益への考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。 5. 実習の事後指導を通して総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習の意義・目的及び実習に向けてのスケジュールについて（保育所） 2. 施設実習の意義・目的（施設） 3. 保育所の役割と機能及び保育士の勤務内容・勤務体制について（保育所） 4. 施設実習の基本的理解（施設） 5. 子どもの人権と最善の利益の考慮について（保育所） 6. 施設実習に対する不安（施設） 7. 保育所実習における達成すべき自己課題について（保育所） 8. 施設別の実習の内容（施設） 9. 保育所実習記録の書き方・使い方指導（保育所） 10. 施設保育士とソーシャルワーク（施設） 11. オリエンテーションの捉え方について（保育所） 12. 施設実習までに身につけておくこと（施設） 13. お礼状の書き方指導（保育所） 14. 施設実習課題の設定（施設） 15. 保育所実習前学内オリエンテーション（保育所） 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] 授業への取り組み (20%)、レポート (40%)、小テスト (20%)、ノート提出 (20%)</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義にて、事後学修等について連絡をする。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「保育所保育指針」厚生労働省（フレーベル館） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学 ・参考資料随時配布 							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・施設実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導 I」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解できない時は、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導する。 							
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp（藤岡）、t0106h0730@hcc.ac.jp（岩橋）							

授業科目名	保育実習指導 I							
担当者名	岩橋 敏子・藤岡 良幸							
科目コード	2200051	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保 育 士 必修	レク 必修	認定 ベビーカー
						○		○
授業の概要と方法	<p>学外で保育実習を受けるには、保育実習の意義・目的・実習内容を理解した上で保育者として自らの課題を明確にしていくことが求められる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務については必ず遵守しないとイケないものである。学生は、実習の計画、観察、記録、自己評価を行うとともに、事前事後指導を通して実習の総括を行う。その上で、自分の新たな課題を明確にしていける保育者としての素地を修得する。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益への考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。 5. 実習の事後指導を通して総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の反省、総括及び自己評価について①（保育所） 2. 保育の仕事と福祉施設（施設） 3. 実習の反省、総括及び自己評価について②（保育所） 4. 福祉施設実習での学びの目的（施設） 5. 実習時における記録の捉え方について（保育所） 6. 福祉施設理解と概要（施設） 7. 年齢別発達段階再認識①（保育所） 8. 福祉施設実習での実習生の学び（施設） 9. 年齢別発達段階再認識②（保育所） 10. 利用者の日常生活から実習生が学んでほしいこと（施設） 11. 年齢別発達段階再認識③（保育所） 12. 福祉施設実習へ向けての心構えと基礎理解（施設） 13. 実習に向けての課題・目的確認及びまとめ（保育所） 14. 福祉施設実習の準備及び事前学習（施設） 15. 施設実習前学内オリエンテーション（施設） 							
成績評価の方法	<p>〔評価項目と割合〕 授業への取り組み(20%)、レポート(40%)、小テスト(20%)、ノート提出(20%)</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の講義にて、事後学修等について連絡をする。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ○「保育所保育指針」厚生労働省（フレーベル館） ○「実習の手引き」東筑紫短期大学 ・参考資料随時配布 							
参考書（参考資料等）	特になし							
その他 (受講生への要望等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習の手続きと並行して進めていく。 2. 学外の実習に出るため、学内での「保育実習指導 I」の授業は必ず出席すること。 3. 授業内容について理解できないときは、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導する。 							
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp（藤岡）、t0106h0730@hcc.ac.jp（岩橋）							

授業科目名	保育実習 II (保育所)					
担当者名	岩橋 敏子					
科目コード	2200052	授業形態	実習			
学 年	2	開 講 期	前期			
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択必修	教免必修	保育士 選択必修 選択
						レク必修 認定ベビーカー
				○		
授業の概要と方法	<p>「保育実習 I」をふまえ「保育実習 II」は、保育士の資格を取得するために必要な教科目の一つである。その為には今まで学んできた教科目（理論）を習得し保育の現場において保育内容を計画・実践・記録及び自己評価を行い、保育士としての役割を体得するとともに保護者とのかかわりや職業人としての倫理観について学び専門性を豊かにすることを目的とする。</p>					
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めることができる。 2. 子どもの観察やかかわりの視点を明確にしていくことで保育への理解を深めることができる。 3. 既習の教科や「保育実習 I」の経験を踏まえ、子どもへの保育及び子育て、保護者支援について総合的に学び理解することができる。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み理解を深めることができる。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解することができる。 6. 保育士としての資質や自己の課題を明確化することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開についての理解① — 養護と教育が一体となっていく保育とは— 2. 保育所の役割や機能の具体的展開についての理解② — 保育所の社会的役割と責任— 3. 観察に基づく保育理解① — 子どもの心身の状態や活動観察 4. 観察に基づく保育理解② — 保育士等の動きや実践の観察 5. 観察に基づく保育理解③ — 保育所の流れや展開の把握 6. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携についての理解と学習① — 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育に対する理解 7. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携についての理解と学習② — 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 8. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携についての理解と学習③ — 地域社会との連携 9. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価についての理解① — 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の課程の理解 10. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価についての理解② — 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 11. 保育士の業務と職業倫理についての理解① — 多様な保育の展開と保育士の業務 12. 保育士の業務と職業倫理についての理解② — 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 13. 実習の心得 14. 自己の課題の明確化 15. 実習前オリエンテーション 					
成績評価の方法	<p>・実習先からの評価、実習記録、レポートなどにより総合的に評価します。 授業への取り組み (20%)、実習先の評価及び実習記録簿 (60%)、レポート (20%)</p>					

授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・実習中に実施する設定保育内容に対する準備は自分でシュミレーションすると共にすべて事前に用意しておくこと。
使用テキスト	・講義中に適宜、参考資料を配布する。
参考書 (参考資料等)	○「保育所保育指針」厚生労働省 (フレーベル館) ○「実習の手引き」東筑紫短期大学
その他 (受講生への要望等)	・学外の実習に出る為、校内での「保育実習指導Ⅱ」の授業には必ず出て下さい。 ・実習前の事前指導及びオリエンテーションには必ず出席して下さい。 ・実習後のレポートは期日を守って提出して下さい。
教員 e-mail アドレス	t0106h0730@hcc.ac.jp

授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）								
担当者名	藤岡 良幸								
科目コード	2200053	授業形態	実習						
学 年	2	開 講 期	前期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択必修	教免必修	保育士 選択必修	選択	レク必修	認定 ベビーカー
						○			
授業の概要と方法	<p>1. 児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。</p> <p>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を習得する。</p>								
授業の到達目標	<p>1. 児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得する。</p> <p>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p>								
授業計画	<p>1. 施設の養護全般に参加し、生活支援・養護技術を習得する。</p> <p>2. 子どもの個人差を理解し、対応方法を習得させる。特に発達の遅れや被虐待児、生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その方法を学ぶ。</p> <p>3. 援助計画を立案し、演習する。</p> <p>4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。</p> <p>5. 地域社会に対する理解を深め、連携方法を学ぶ。</p> <p>6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。</p> <p>7. 保育士としての倫理観を具体的に学ぶ。</p> <p>8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を確立する。</p> <p>9. 東筑紫短期大学の保育学科の学生として、実習を行うことの意義・責任を学ぶ。</p>								
成績評価の方法	<p>・オリエンテーション、施設実習、実習日誌、施設の評価レポート等により評価。 [評価項目と割合] レポート（20%）、 その他[学内・施設オリエンテーション、施設実習10日間、実習日誌、施設の評価]（80%）</p>								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<p>・実習終了後のアンケート（北九州市児童養護施設連絡協議会、その他施設）を行う。 ・インターンシップを利用して、保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。</p>								
使用テキスト	○「実習の手引き」（本学及び北九州市児童養護施設連絡協議会分）								
参考書（参考資料等）	○「福祉施設実習ハンドブック」岡本幹彦 他（みらい）								
その他 (受講生への要望等)	<p>1. 実習前の事前指導、オリエンテーション学内・施設は必ず出席すること。</p> <p>2. 実習後のレポートは、期日を守って提出すること。</p> <p>3. 実習及び講義は、常に実習にふさわしい服装・髪型その他で出席すること。</p> <p>4. 「保育実習指導Ⅲ」の授業には必ず出席すること。</p>								
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp								

授業科目名	保育実習指導 II								
担当者名	岩橋 敏子								
科目コード	2200054	授業形態	演習						
学 年	2	開 講 期	通年（前期）						
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 選 択 必 修	選 択	レク 必 修	認 定 ベビーカー
						○			
授業の概要と方法	保育について総合的に学ぶ為に、実習や既習の教科内容における関連性を踏まえて保育能力を培うことが必要である。そのため、実習においては保育内容の計画・保育指導案作成・保育環境準備・実践などを通して学ぶだけでなく、保育士としての専門性や職業人としての倫理についても十分な理解を求められることから実習前の演習の中で、保育に対する認識や自己課題が明確にできる力を習得する。								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができる。 2. 実習や既習の内容からその関連性を踏まえ、保育実践力を培うことができる。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶことができる。 4. 保育士の資質・職業倫理について理解することができる。 5. 実習の事後指導を通して、総括と自己評価を行い保育に対する課題や認識を明確にすることができる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習 II の意義と目的 — 1 回目の実習を振り返り 2 回目の実習の目的を明確にする。 2. 保育実習 II の段階及び実習内容について — 実習の手引き、参考プリント読み合わせをする。 3. 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解を考える — 子どもの最善の利益を考慮した保育とはどのようなものかをグループで考え発表する。 4. 子どもの保育と家庭支援について — 実習先で観察してきた事例などをグループ内で意見交換し発表する。 5. 保育実践① — 手作り教材作成（ポケットサイズのパネル） 6. 保育士の専門性と職業倫理について — 保育士の専門性とは、職業倫理とはどのようなものかを討議する。 7. 保育実践② — 手作り教材を使って手遊び披露をする。 8. 保育計画（保育課程、指導計画）について① — 保育計画の必要性を考える。 9. 保育計画（保育課程、指導計画）について② — グループで月別カリキュラムを作成する。 10. 保育実習 II における課題の捉え方について — 1 回目の実習から振り返って考える自己課題とグループ討議。 11. 実習記録日誌の書き方指導① — 実習記録日誌の書き方について学ぶ。 12. 実習記録日誌の書き方指導② — 実習記録のまとめ方、自己課題のまとめ方について学ぶ。 13. 手作り教材作成 ① — 未満児用にタオル野菜作成：作業開始 14. 手作り教材作成 ② — 未満児用にタオル野菜作成：仕上げ 15. 実習に対する心構え（テーマ有） — レポート作成 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験は実施しない。 ・ 授業中に書いたレポート及び手作り教材の提出などで総合的に評価する。 授業への取り組み姿勢（30%）、レポート・手作り教材等（70%） 								
授業外で行うべき学修 （準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手作り教材は、時間内で仕上がらなかった場合、次回の発表時に間に合うよう仕上げてくること。 ・ 事前の学内オリエンテーションは必ず出席すること。 								
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中に適宜参考資料を配布する。 								
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「実習の手引き」 東筑紫短期大学 ○ 「保育所保育指針」 厚生労働省（フレーベル館） 								
その他 （受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外実習に出る為、学内での「保育実習指導 II」の授業には必ず出て下さい。 								
教員 e-mail アドレス	t0106h0730@hcc.ac.jp								

授業科目名	保育実習指導 II							
担当者名	岩橋 敏子							
科目コード	2200054	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 選 択 必 修	レク 必 修	認 定 ペ ー ジ ン グ
						○		
授業の概要と方法	<p>保育所実習後の振り返りや総括を行う中で、保育士として必要な資質及び子どもの最善の利益を考慮した保育に対して具体的に理解していくことが必要である。また、保育実践力の総括として実習時に行った設定保育の発表や関連する教科目で習得してきた童謡・わらべうた・絵本など各年齢における年間計画を作成することで保育技術を豊かにし総合的な保育実践力につなげていく。そのために総括と自己評価を行うことが大切であり、自己課題を明確にしていくことを目的とする。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶことができる。 2. 実習や既習の内容からその関連性を踏まえ保育実践力を培うことができる。 3. 保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶことができる。 4. 保育士の専門性と保育者としての資質・職業倫理について理解することができる。 5. 実習の事後指導を通して総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習における総合的な学び① —実習の振り返り、総括及び保育士の資質に必要なものを考える。 2. 保育実習における総合的な学び② —子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解について 3. 保育実習における総合的な学び③—子どもの保育と保護者支援について 4. 計画と記録・自己評価①—保育の全体計画に基づいた具体的な計画と実践について 5. 計画と記録・自己評価②—保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善について 6. 保育士の専門性と職業倫理とは 7. 保育実践力の育成①—子どもの状態に応じた保育士の適切な関わりとは？ 8. 保育実践力の育成②—保育技術を生かした保育実践発表①（年齢別設定保育の実践） 9. 保育実践力の育成③—保育技術を生かした保育実践発表②（年齢別設定保育の実践） 10. 保育実践力の育成④—保育技術を生かした保育実践発表③（年齢別設定保育の実践） 11. 保育実践力の育成⑤—保育課程に基づく年齢別・月別一覧表作成（童謡・わらべうた） 12. 保育実践力の育成⑥—保育課程に基づく年齢別・月別一覧表作成（童謡・わらべうた） 13. 保育実践力の育成⑦—保育課程に基づく年齢別・月別一覧表作成（童謡・わらべうた） 14. 事後指導における総括と自己評価 15. 課題の明確化・まとめ 							
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は実施しない。 ・授業中に発表した設定保育を独自に整理し直した記録提出などで総合的に評価します。 <p>授業への取組み姿勢（30%）、レポート及び設定保育や話し合いの記録等（70%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進度に応じて、次回までに行うべき準備学修及び事後学修について指示します。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に適宜参考資料を配布する。 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「実習の手引き」東筑紫短期大学 ○「保育所保育指針」厚生労働省（フレーベル館） 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・後期は実習後なのでその経験を基に実践力を高めるような演習をします。人前で発表するのでしっかりと自分の考えをまとめて臨んでほしい。 							
教員 e-mail アドレス	t0106h0730@hcc.ac.jp							

授業科目名	保育実習指導 III							
担当者名	藤岡 良幸							
科目コード	2200055	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（前期）					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 選 択 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ばせるとともに、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培わせる。また、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ばせる。さらには、保育士の専門性と職業倫理を理解させ、実習の事前事後を通じて総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にさせる。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理を理解する。 5. 実習の事前事後を通して、総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にする。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設実習とは何か（保育実習Ⅲの目的・意義を再確認する） 2. 施設実習の基本的理解（グループ討議） 3. 実習に対する不安、実習までに身につけておくこと（グループ討議） 4. 実習生に求められるもの（守秘義務等） 5. 実習課題の設定（実習課題の作成） 6. 実習初日の心得（グループでの自己紹介の練習） 7. 各施設の一日の流れと実習内容 8. 実習日誌とは（各自、実習日誌を書いてみる） 9. 指導計画案とは（各自、指導計画案の作成） 10. 部分実習・責任実習・レクリエーションの実際（マジックショーをやってみる） 11. 日々の振り返りと反省会 12. 実習におけるトラブルシューティング（グループ討議） 13. 実習終了後の作業（実習先への礼状を書く、実習の振り返り） 14. 学内オリエンテーション 15. まとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] レポート（50%）、グループ討議への参加度（20%）、実践発表（30%）</p>							
授業外で行うべき学修（準備学修・事後学修等）	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを利用して保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料随時配布 							
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ○「施設実習ガイド」駒井美智子 編著（萌文書林） ○「福祉施設実習」小野澤昇、田中和則、大塚良一 編著（ミネルヴァ書房） 							
その他（受講生への要望等）	<ul style="list-style-type: none"> ・前期で行う「保育実習Ⅲ」の施設と同様（種別）の施設において、ボランティア活動等を行うことが望ましい。 							
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp							

授業科目名	保育実習指導 III							
担当者名	藤岡 良幸							
科目コード	2200055	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年（後期）					
単 位 数	1	履 修 方 法	必修	選択 必修	教免 必修	保育士 選択 必修	レク 必修	認定 ベビーカー
						○		
授業の概要と方法	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ばせるとともに、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培わせる。また、保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ばせる。さらには、保育士の専門性と職業倫理を理解させ、実習の事前事後を通じて総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にさせる。							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理を理解する。 5. 実習の事前事後を通して、総括と自己評価を行い、保育課題等を明確にする。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設①）を発表する。 2. 事例発表 各施設別、実習中の事例（乳児院①）を発表する。 3. 事例発表 各施設別、実習中の事例（母子生活支援施設）を発表する。 4. 事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児入所施設）を発表する。 5. 事例発表 各施設別、実習中の事例（児童発達支援センター）を発表する。 6. 事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児支援施設①）を発表する。 7. 事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設②）を発表する。 8. 事例発表 各施設別、実習中の事例（児童相談所）を発表する。 9. 事例発表 各施設別、実習中の事例（就労継続支援B型施設）を発表する。 10. 事例発表 各施設別、実習中の事例（知的障害者通所施設）を発表する。 11. 事例発表 各施設別、実習中の事例（総合療育センター）を発表する。 12. 事例発表 各施設別、実習中の事例（児童養護施設③）を発表する。 13. 事例発表 各施設別、実習中の事例（乳児院②）を発表する。 14. 事例発表 各施設別、実習中の事例（障害児支援施設②）を発表する。 15. まとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取組み（20%）、発表レポート（50%）、実践発表（30%）</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	・インターンシップを利用して保育所及び児童福祉施設等でボランティア活動を行う。							
使用テキスト	・参考資料等随時配布する							
参考書（参考資料等）	<p>○「施設実習パーフェクトガイド」守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵 共著（わかば社）</p> <p>○「新版 施設実習の常識」教育・保育実習を考える会 編（蒼丘書林）</p>							
その他 (受講生への要望等)	・「保育実習Ⅲ」で行った施設の他に、種別の違う施設へのボランティア活動を行ってほしい。							
教員 e-mail アドレス	y-fujioka7@hcc.ac.jp							

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）								
担当者名	木本 節子 ・ 前川 公一 ・ 寺本 普見子 ・ 都留守 ・ 柘田 郁子								
科目コード	2200056	授業形態	演習						
学 年	2	開 講 期	後期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必修	選択必修	教免必修	保育士 必修	選択	レク必修	認定 ベビシッター
					○	○			
授業の概要と方法	<p>保育・教職実践演習の授業は、教職課程の他の授業科目を通して学生が身に付けてきた知識・技能を点検・確認するとともに学生が不足している授業内容を補完・向上させ、教育や保育の現場で保育者としての使命感、責任感、教育的愛情などを身に付けていくことが目標である。そこで、学生が自分の課題をもって授業に参加できるようにするため、授業最初のオリエンテーションで「保育者として必要な資質能力に関する意識調査」を実施し、それを踏まえて、教職の意義、職務内容、コミュニケーション能力、幼児の理解、子どもの指導や学級経営などの指導案を作成し、模擬授業を実施する。</p>								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育要領や保育指針について理解し、それを保育現場で生かそうとする。 2. 保育者としての使命感、責任、愛情をもって、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 3. 授業を通して、教育要領（五領域・養護を含む）への理解を深めることができる。 4. 子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流ができる。 5. 模擬授業を通して、その展開方法や環境づくりについて体得できる。 								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（授業概要の説明、到達度チェック） 2. 教職の意義や教員の役割 3. グループ分け（模擬授業グループと表現活動グループ） 4. 模擬授業グループ（活動計画の作成）表現活動グループ（活動計画の作成） 5. 指導案の書き方 表現活動の演習(1) 役割分担 6. 指導案の作成 表現活動の演習(2) 部分練習 7. 指導案の検討 表現活動の演習(3) 環境構成 8. 模擬授業の準備 表現活動の演習(4) 台詞の検討 9. 模擬授業の準備 表現活動の演習(5) 舞台配置の検討 10. 模擬授業の実施 表現活動の演習(6) 舞台稽古 11. 模擬授業の実施 表現活動の演習(7) 演技の修正 12. 実践演習（表現活動）の発表会 13. 公開模擬授業の実施と反省会① 14. 公開模擬授業の実施と反省会② 15. 保育・教職実践演習のまとめと学修成果の確認 								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者として最小限必要な資質能力が身に付いているか否かという観点から、レポート(40%)、模擬授業及び実践発表会(40%)、グループ討議等授業への取り組み姿勢(20%)を踏まえて総合的に評価する。 								
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習や保育実習等での報告書などを活用するため資料を整理し、活用できるようにしておく。 ・今までに学んできたことをしっかり修得しておくようにする。 ・自分の目標を明確にし、自分なりに教材研究し、指導技術を学んでおく。 								
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程の教科で指定された全テキスト、参考書、参考資料等を活用する。 ・プリントを適宜配付する。 								
参考書（参考資料等）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関係する参考書は、その都度紹介する。 								
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待する。 								
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。								

授業科目名	キャリア教育演習 I									
担当者名	学科教員									
科目コード	2200069	授業形態	演習							
学 年	1	開 講 期	通年							
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	選 択	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
					○					
授業の概要と方法	<p>保育者として、いかに自己実現していくかという観点から、教育・保育現場の実状や必要とされる知識・技能について学ぶことを目的とする。演習では、保育者の生き甲斐や悩みなどに触れ、保育者として自己実現していくための課題について討議しながら考えていく。基本的な教育・保育課題に関わって求められる方法や技能について具体例を提示して考え、身に付けることを目指す。</p>									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的な常識について理解し、適切な行動をとることができる。 2. 学校行事等に積極的に参加し、協働して取り組み、学校生活を充実することができる。 3. 保育実習や施設実習等に関わる授業を通して、職場に必要な知識を理解し、適切な行動ができる。 4. 就職活動に関わる諸活動を通して、必要な知識や技能を身に付けることができる。 									
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 学園の歴史と記念館見学 3. 母校へのメッセージ 4. 製作活動一名札作り 5. 救急救命 6. 先輩からのメッセージ 7. 禁煙教育「ノーモア・煙草」 8. 認定こども園 9. 附属幼稚園との交流「弁当の日」 10. ニーズにあった施設 11. 学外研修 12. 施設の特徴と実態 13. リプロダクティブ・ヘルス・ライツ 14. 第1回 同和教育 15. 情報化社会の怖さ 					<ol style="list-style-type: none"> 16. 後期の学習と生活への心構え 17. 大学祭の意義と目的 18. 接遇—おもてなしの心 19. 教養ある社会人として 20. 大学祭を盛り上げよう 21. 筆談サポーター養成講座 22. 犯罪から身を守るセミナー 23. 接遇の仕方—実践編 24. 先輩からの実習報告 25. 実習に対する心構え 26. 第2回 同和教育 27. 教職実践演習発表会参観 28. 専攻科ガイダンス 29. 先輩の就職活動体験記 30. 進級へ向けて 				
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] キャリア教育演習の成果が出ているか、授業や諸活動に対する取組み姿勢(50%)、レポート(50%)など、総合的に評価する。</p>									
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に次の授業でまでに必要な内容を指示するので、新聞やテレビ、インターネット、著書、論文などで集め、準備しておくようにする。 									
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な資料は、適宜配付する。 									
参考書(参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関係する参考書等は、その都度紹介する。 									
その他(受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待する。 ・キャリアについての意識を強くもつように努め、自分の進路を考えていくようにする。 									
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。									

授業科目名	キャリア教育演習 II																																							
担当者名	学科教員																																							
科目コード	2200070	授業形態	演習																																					
学 年	2	開 講 期	通年																																					
単 位 数	1	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	選 択	教 免 必 修	保 育 士 必 修 選 択		レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー																														
					○																																			
授業の概要と方法	<p>保育者として、いかに自己実現していくかという観点から、教育や保育の現場で必要とされる知識・技能について深く学ぶことを目的とする。演習では、保育者の生き甲斐や悩みなどに触れ、保育者として自己実現していくための課題について討議しながら考えていく。教育や保育の課題に関わる知識・技能について具体例を提示して考え、身に付けることを目指す。</p>																																							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的な常識について理解し、適切な行動をとることができる。 2. 学校行事等に積極的に参加し、協働して取り組み、学校生活を充実することができる。 3. 保育実習や施設実習等に関わる授業を通して、職場で必要な知識を理解し、適切な行動ができる。 4. 就職に関わる諸活動を通して、必要な知識・技能を身に付けることができる。 																																							
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1. 学園の伝統を学ぶ、レクスポ準備</td> <td>16. 就職演習(2)履歴書の書き方</td> </tr> <tr> <td>2. 附属幼稚園入園式に参加</td> <td>17. 就職演習(3)作文・小論文の書き方</td> </tr> <tr> <td>3. 理想の保育者像</td> <td>18. 保育現場から</td> </tr> <tr> <td>4. 幼稚園と保育園の違い</td> <td>19. 幼稚園現場から</td> </tr> <tr> <td>5. 情報化社会の恐怖</td> <td>20. 学外実習報告会(1年生対象)</td> </tr> <tr> <td>6. 学科長講話(保育者としての心構え)</td> <td>21. 高校生への保育学科案内</td> </tr> <tr> <td>7. 特別講座(施設について)</td> <td>22. 小学校訪問—開放週間参観</td> </tr> <tr> <td>8. 将来の職業選択</td> <td>23. 2年生の就職・進学活動体験</td> </tr> <tr> <td>9. 特別講座(認定こども園について)</td> <td>24. 子どもの安全・防犯対策</td> </tr> <tr> <td>10. 私立幼稚園連盟就職懇談会</td> <td>25. 針供養・成人祭等</td> </tr> <tr> <td>11. 保育園連盟就職懇談会</td> <td>26. 幼稚園教育の課題(外部講師の講話)</td> </tr> <tr> <td>12. 適性検査による自己分析・自己診断</td> <td>27. 学科長講話(食物感謝祭等)</td> </tr> <tr> <td>13. 就職演習(1)「自己を知る」</td> <td>28. 卒業生からのメッセージ</td> </tr> <tr> <td>14. 専攻科ガイダンス</td> <td>29. 地域貢献(公園等の美化活動)</td> </tr> <tr> <td>15. 定期試験と夏休みの過ごし方</td> <td>30. 卒業・就職に向けて</td> </tr> </table>										1. 学園の伝統を学ぶ、レクスポ準備	16. 就職演習(2)履歴書の書き方	2. 附属幼稚園入園式に参加	17. 就職演習(3)作文・小論文の書き方	3. 理想の保育者像	18. 保育現場から	4. 幼稚園と保育園の違い	19. 幼稚園現場から	5. 情報化社会の恐怖	20. 学外実習報告会(1年生対象)	6. 学科長講話(保育者としての心構え)	21. 高校生への保育学科案内	7. 特別講座(施設について)	22. 小学校訪問—開放週間参観	8. 将来の職業選択	23. 2年生の就職・進学活動体験	9. 特別講座(認定こども園について)	24. 子どもの安全・防犯対策	10. 私立幼稚園連盟就職懇談会	25. 針供養・成人祭等	11. 保育園連盟就職懇談会	26. 幼稚園教育の課題(外部講師の講話)	12. 適性検査による自己分析・自己診断	27. 学科長講話(食物感謝祭等)	13. 就職演習(1)「自己を知る」	28. 卒業生からのメッセージ	14. 専攻科ガイダンス	29. 地域貢献(公園等の美化活動)	15. 定期試験と夏休みの過ごし方	30. 卒業・就職に向けて
1. 学園の伝統を学ぶ、レクスポ準備	16. 就職演習(2)履歴書の書き方																																							
2. 附属幼稚園入園式に参加	17. 就職演習(3)作文・小論文の書き方																																							
3. 理想の保育者像	18. 保育現場から																																							
4. 幼稚園と保育園の違い	19. 幼稚園現場から																																							
5. 情報化社会の恐怖	20. 学外実習報告会(1年生対象)																																							
6. 学科長講話(保育者としての心構え)	21. 高校生への保育学科案内																																							
7. 特別講座(施設について)	22. 小学校訪問—開放週間参観																																							
8. 将来の職業選択	23. 2年生の就職・進学活動体験																																							
9. 特別講座(認定こども園について)	24. 子どもの安全・防犯対策																																							
10. 私立幼稚園連盟就職懇談会	25. 針供養・成人祭等																																							
11. 保育園連盟就職懇談会	26. 幼稚園教育の課題(外部講師の講話)																																							
12. 適性検査による自己分析・自己診断	27. 学科長講話(食物感謝祭等)																																							
13. 就職演習(1)「自己を知る」	28. 卒業生からのメッセージ																																							
14. 専攻科ガイダンス	29. 地域貢献(公園等の美化活動)																																							
15. 定期試験と夏休みの過ごし方	30. 卒業・就職に向けて																																							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合] キャリア教育演習の成果が出ているか、授業や諸活動に対する取り組み姿勢(50%)、レポート(50%)など、総合的に評価する。</p>																																							
授業外で行うべき学修(準備学修・事後学修等)	<p>・授業中に次の授業までに必要な内容を指示するので、新聞やテレビ、インターネット、著書、論文などで集め、準備しておくようにする。</p>																																							
使用テキスト	<p>・授業で必要な資料は、適宜配付する。</p>																																							
参考書(参考資料等)	<p>・授業に関係する参考書等は、その都度紹介する。</p>																																							
その他(受講生への要望等)	<p>・授業は、演習形式で進めるので積極的な参加を期待する。キャリアについての意識を強くもつように努め、自分の進路を考えていくようにする。</p>																																							
教員 e-mail アドレス	<p>講義開始後に改めて連絡をします。</p>																																							

授業科目名	在宅保育論							
担当者名	木本 節子 ・ 今津 尚子							
科目コード	2200071	授業形態	講義					
学 年	2	開 講 期	前期					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修 選 択	レク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ッ タ ー
								○
授業の概要と方法	<p>新たな保育制度の中で保育者養成校として家庭内保育（ベビーシッター）への取り組みが内閣府改革案の中に求められている。今日、ベビーシッター資格についての意識はまだまだ一般的ではないが、本学で保育士の資格を取得し、さらに専門性のある教科目を学ぶことによって、「質の高い温かな専門性豊かな認定ベビーシッターの資格」を取得することを目的としている。</p> <p>また、今後これからの社会のニーズに合った職業に活かせる資格の一つとして考えられる。</p>							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨今の子育てを取り巻く環境の変化と保育制度の広がりを知る。 2. 家庭内保育（居宅型保育・訪問型保育）の制度と意義の必要性について理解する。 3. 家庭訪問保育者（ベビーシッター）の社会的役割と実務を理解し温かな心ある保育者としての自覚をもつ。 4. 家庭訪問サービス（子育て支援）の現状を知る。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉における在宅保育 2. ベビーシッター概論 3. 在宅保育における保育マインド 4. 在宅での子育て支援 5. 家族とのコミュニケーション・カウンセリングマインド 6. さまざまなベビーシッターサービス ① 産後ケア 7. さまざまなベビーシッターサービス ② 病後児保育、障害児保育 ③ 送迎保育、 同行保育 8. さまざまなベビーシッターサービス ④ 多胎児（双生児）保育 ⑤ 外国の子どもの保育、グループ保育、学童保育 9. ベビーシッターの基本姿勢 10. ベビーシッターの仕事の実際 11. 小児保健と子どもの発達 12. 子どもの健康管理 13. 在宅での事故の予防と対応 14. 在宅における保育技術（年齢別保育、栄養、睡眠、排泄、入浴など） ①乳児保育 ②幼児保育 15. まとめ 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業への取り組み姿勢（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%）などにより総合的に評価を行う。</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な保育について自主的に学んでおく。 ・保育実習において0歳児～3歳児までの対応の仕方を体得する。 ・この資格（認定ベビーシッター）は保育士資格取得が必要条件である。 							
使用テキスト	○「在宅保育論 - 家庭訪問保育の理論と実際 -」 巷野悟郎（中央法規社）							
参考書（参考資料等）	・講義中に適宜、資料を配布する。							
その他 (受講生への要望等)	・授業内容について理解不足の学生は、授業終了後あるいはオフィスアワーを活用して指導を受けること。							
教員 e-mail アドレス	講義開始後に改めて連絡をします。							

授業科目名	レクリエーション概論								
担当者名	木原 寛子								
科目コード	2200058	授業形態	講義						
学 年	2	開 講 期	前期						
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	選 択	レ ク 必 修	認 定 ベ ビ ー シ ャ ー
								○	
授業の概要と方法	理論で学んだことを踏まえ、レクリエーション運動の必修活動を理解して実践する。ホスピタリティやアイスブレイキングを身につけ、子どもから高齢者まで幅広いコミュニケーション・ワークに役立てる。北九州市レクリエーション協会が主催する行事や活動に現場実習として参加し地域の皆様と様々なレクリエーション活動体験し、学習して個々の力にする。								
授業の到達目標	①人と向き合う力（相手の話をきちんと聞く姿勢） ②集団を育てる力（一緒に楽しみ、脇役にまわる） ③地域と繋がる力（ボランティア活動・子育て支援・町内会の行事）								
授業計画	1. コミュニケーション・ワークを学ぶ 2. ホスピタリティの理解と実践（地域のボランティアに参加） アイスブレイキングの意義 3. ①アイスブレイキングとは～ ②アイスブレイキングの活用が期待される現場・局面 ③アイスブレイキングの基礎技術を習得 4. レクリエーションの種目について ネイチャーゲーム（自然観察・ウォーキング） 野外活動を体験 5. ニュースポーツを楽しむ チャレンジ・ザ・ゲーム インディアカ 6. レクリエーションダンス ・歌（対象者を理解して展開を考える） 7. 生涯スポーツに関する種目（健康体操・リハビリ・予防体操・子育て支援） 8. レク財の復習とアレンジ法 ・個々の練習を繰り返し、グループで発表、全員の前で発表する 9. クラフト（もの作りを楽しむ）①板じめによるうちのクラフト （新聞紙、牛乳パック、はがき） 10. 制作したもので遊びを展開する（個々で考え、グループで楽しむために工夫する） 11. 対象者の特性を考えた事業計画を立案する（計画～準備） 12. 北九州市レクリエーション協会が主催する地域のレクリエーション祭りに参加 13. レクリエーション祭りに参加し、事業計画と実践したことを振り返る （計画 - 準備 - 実行 - 反省） 14. 自己の課題について 15. レクリエーション支援の総まとめ								
成績評価の方法	[評価項目と割合] 授業態度（60%）、ノート・レポート（20%）、発表（個人・グループ）（20%）								
授業外で行うべき学修 （準備学修・事後学修等）	・授業ノートを作成し、毎回の授業内容の記述と配布した資料を添付する。								
使用テキスト	・必要に応じて資料配布								
参考書（参考資料等）	・必要に応じて資料配布								
その他 （受講生への要望等）	・日本レクリエーション協会よりレクリエーションインストラクターの資格認定をされるための規定授業数を受講するため、欠席は不可。 ・提出物は期限を厳守。								
教員 e-mail アドレス	tomo119k@hcc.ac.jp								

授業科目名	レクリエーション実技							
担当者名	木原 寛子							
科目コード	2200059	授業形態	演習					
学 年	2	開 講 期	通年					
単 位 数	2	履 修 方 法	必 修	選 択 必 修	教 免 必 修	保 育 士 必 修	レク 必 修	認 定 ベビーカー
							○	
授業の概要と方法	<p>日本のレクリエーション運動は 50 年を超える歴史がある。その半世紀に及ぶ成果を踏まえ、新しい時代にふさわしいあり方を求めてレクリエーション運動は大きく変わろうとしている。子どもたちから高齢者までさまざまな人々が心身ともに健やかで生き生きとした暮らしが展開される地域社会を目指している。</p> <p>そして、多種多様なレクリエーション活動を通して温かな豊かな絆を創りあげることです。レクリエーション・インストラクターの資格を取得して子どもから高齢者までさまざまな人々と楽しさを共有し共感し、社会に貢献できる人材を育成する。</p>							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しさや心地よさを活用して子どもから高齢者、さまざまな人々支援をするための基礎的な考え方や技術を学び、レクリエーションを提供する側としてホスピタリティを理解し、日常で実践する中でコミュニケーションの技法や集団を対象としたコミュニケーション・ワークの技術を修得する。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. レクリエーションの基礎概論 3. レクリエーションの歴史・21 世紀の社会とこれからのレクリエーション運動 4. レクリエーションの理解と支援 5. 支援の展開と方法（支援のプロセス） 6. ・レクリエーション支援の目標と理念 7. ・レクリエーション支援の目指すもの 8. レクリエーション運動を支える制度 ・組織と役割・レクリエーション運動の使命 9. レクリエーション・インストラクターに期待される役割 10. 対象者の理解と個人に対するレクリエーション支援とグループ支援 11. 市町村のレクリエーションの役割について（地域社会との関わり） 12. 対象者の特性を考えた事業計画（企画・立案・準備・実行・評価・反省）を実践 13. 事業と安全対策 14. 北九州市レクリエーション協会が主催するイベント (子育て支援、パパ・ママ・キッズ親子で遊ぼう等) 15. 北九州市レクリエーション協会が主催するイベント (子育て支援、パパ・ママ・キッズ親子で遊ぼう等) 							
成績評価の方法	<p>[評価項目と割合]</p> <p>授業態度 (60%)、ノート・レポート (20%)、発表 (個人・グループ) (20%)</p>							
授業外で行うべき学修 (準備学修・事後学修等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノートを作成し、毎回の授業内容の記述と配布した資料を添付する。 							
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料配布 							
参考書 (参考資料等)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料配布 							
その他 (受講生への要望等)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本レクリエーション協会よりレクリエーションインストラクターの資格認定をされるための規定授業数を受講するため、欠席は不可。 ・提出物は期限を厳守。 							
教員 e-mail アドレス	tomo119k@hcc.ac.jp							